

多摩市 高齢者実態調査報告書 (仮)

令和 7 年度版

(第 1 稿)

令和 8 年 4 月 2 1 日現在

多摩市

はじめに

この高齢者実態調査報告書は、令和8年1～2月に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」、「在宅介護実態調査」、「介護保険事業所調査」の3つの調査結果を報告書としてまとめたものです。

市では、それぞれの調査結果を踏まえ、地域での高齢者の生活実態からみた課題や介護(予防)サービスなどのニーズを把握し、それらを「多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直し作業や、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりのための基礎資料として活用していきます。

本調査にあたり、アンケートにご協力いただきました市民の皆様及び介護保険事業所の皆様に心からお礼申し上げます。

令和8年4月

多摩市健康福祉部 高齢支援課、介護保険課

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査方法と回収状況等	3
3. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 介護予防・日常生活圏域二エズ調査	5
1. 基本属性	7
（1）性別	7
（2）年齢	7
（3）居住地域	8
（4）居住年数	8
（5）身体の状態（要介護度）	8
2. 家族や生活状況について（問1）	9
（1）家族構成	9
（2）介護・介助の必要性	10
（3）介護・介助が必要になった主な原因	11
（4）主な介護・介助者	12
（5）現在の暮らしの経済的状況	12
（6）住居形態	13
（7）お住まいの種類及びエレベーターの有無	14
（8）エレベーターあり集合住宅（階数）	15
（9）エレベーターなし集合住宅（階数）	15
3. からだを動かすことについて（問2）	16
（1）運動について	16
（2）過去1年間の転んだ経験	17
（3）転倒に対する不安	17
（4）運動機能 リスク判定	18
（5）外出頻度	19
（6）閉じこもり リスク判定	20
（7）昨年と比べて外出頻度の減少	21
（8）外出控えの有無	21
（9）外出を控えている理由	22
（10）活動別の外出頻度と移動手段	23
（11）運動頻度	24
4. 食べることについて（問3）	25
（1）BMI（身長・体重）	25

(2) 口腔・栄養について	26
(3) 口腔機能 リスク判定	27
(4) 歯磨きの状況	28
(5) 歯の数と入れ歯の利用状況	28
(6) 発音の状況	29
(7) 体重減少の有無	29
(8) 栄養 リスク判定	30
(9) 食事をともにする機会	31
(10) 主食、主菜、副菜の3つを組み合わせる頻度	31
5. 毎日の生活について(問4)	32
(1) 認知機能の低下について	32
(2) 認知症 リスク判定	33
(3) 手段的自立度について	34
(4) 手段的自立度(IADL) リスク判定	35
(5) 知的能動性について	36
(6) 知的能動性 リスク判定	37
(7) 友人の家を訪ねることの有無	38
(8) 家族や友人の相談にのった経験	38
(9) 趣味の有無	38
(10) 生きがいの有無	39
(11) 地域の人からの役割期待の有無	39
(12) 生活の充実感の有無	40
(13) 自分が役に立つ人間だと思えない感じの有無	40
(14) 睡眠での休養	40
(15) 日常生活の中で困っていること	41
(16) スマートフォンの活用状況	42
6. 地域での活動について(問5)	43
(1) グループや社会活動への参加について	43
(2) グループや社会活動に参加していない理由	44
(3) 特技や経験を活かした活動への参加状況	44
(4) 特技や経験を活かした活動へ参加していない理由	45
(5) 地域のグループ活動への参加意欲	45
(6) 見守りや助け合いに必要なこと	46
(7) 生涯学習ができる環境が整っているか	46
7. たすけあいについて(問6)	47
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人	47
(2) 病気で寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人	48
(3) 何かあったときに相談する相手	49
(4) 友人・知人と会う頻度	49

(5) よく会う・知人の関係	50
(6) 近隣の人への信頼	50
8. 健康について（問7）	51
(1) 健康状態	51
(2) 幸福度	52
(3) 気持ちの状態について	52
(4) うつ リスク判定	53
(5) 心身の状態について	54
(6) 疲労感について	54
(7) 喫煙の有無	54
(8) 治療中、または後遺症のある病気	55
(9) 補聴器使用の有無	56
(10) 補聴器購入の予定、または購入しない理由	56
(11) フレイルの認知度	57
(12) 孤独を感じる頻度	57
(13) 人生の最終段階の医療やケアについて話し合った経験	58
(14) アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞の認知度	58
(15) 終末期および死後の手続き等で知りたいこと	59
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について（問8）	60
(1) 認知症の症状の有無	60
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度	60
(3) 認知症のある人への印象	61
(4) 認知症を発症することへの印象	61
10. 多摩市の事業等について（問9）	62
(1) 高齢者向け福祉事業についての認知度	62

第3章 在宅介護実態調査	65
A 調査対象者本人への質問	67
(1) 調査票回答者	67
(2) 世帯類型	67
(3) 性別	67
(4) 年齢	68
(5) 要介護度について	68
(6) 施設等への入所・入居検討状況について	69
(7) 現在抱えている傷病について	70
(8) 介護保険サービス利用の有無	71
(9) 介護保険サービスの1か月間の利用の有無	72
(10) 介護保険サービスを利用しない理由	73
(11) 利用している介護保険外サービスについて	74

(1 2) 「介護保険サービス以外」の支援・サービスにかかる1月あたりの総額	74
(1 3) 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて	75
(1 4) 訪問診療の利用について	76
(1 5) ご家族やご親族からの介護の頻度	77
B 主な介護者への質問	78
(1) 介護の仕事への影響について	78
(2) 主な介護者	78
(3) 介護者の性別	79
(4) 介護者の年齢	79
(5) 介護者の方が行っている介護について	80
(6) 介護者が不安に感じる介護について	81
(7) 介護者の勤務形態	82
(8) 介護による仕事への影響	82
(9) 仕事と介護の両立のために勤務先に求める支援	83
(1 0) 仕事と介護との両立について	83
(1 1) 介護を行っていく中での悩みや困りごと	84
(1 2) 介護についての相談先	85
(1 3) 多摩市の制度及び介護保険の制度の認知度	85
第4章 介護保険事業所調査	87
1. 事業所について	89
(1) 活動状況	89
(2) 職員数と充足状況	91
(3) 介護支援専門員の年齢構成	93
(4) 介護職員の年齢構成	93
(5) 外国人職員・派遣職員等の状況	94
2. 人材育成・人材確保について	95
(1) 1年間の採用・離職人数と離職者の勤務年数	95
(2) 人材確保の取り組み	97
(3) 人材定着・育成の取り組み	98
(4) 人材確保に効果的と思われること	99
3. キャリア支援について	100
(1) 資格取得の支援	100
(2) 研修等の参加支援	101
4. 事業運営について	102
(1) 経営上、大きな影響があったこと	102
(2) 介護報酬改定の影響	102
(3) 第三者評価の実施状況	105
(4) ICT機器や介護ロボットの導入状況	106

(5) ICT機器や介護ロボットの導入への満足感	107
(6) ICT機器や介護ロボットの導入をしていない理由	108
5. 今後の事業運営について	109
(1) 今後の事業運営	109
6. 介護保険以外の給付サービスについて	111
(1) 専門的知識のない地域住民にも担える業務（施設系サービス・通所系サービス）	111
(2) 専門的知識のない地域住民にも担える業務（訪問系サービス）	112
(3) すでに実施している地域の支えあい活動との連携や協力	113
(4) 今後実施できそうな地域の支えあい活動との連携や協力	114
(5) 認知症ケアで難しく感じること	114
7. 居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所について	115
(1) 令和7年12月の給付管理件数	115
(2) 多摩市を中心に活動している居宅介護支援専門員及び主任介護支援専門員	115
(3) 介護予防支援事業者の指定状況	116
8. 居宅・施設サービス提供事業所について	118
(1) 令和7年12月の利用者の実人数	118
(2) 令和7年12月の稼働率	119
(3) 介護職員等処遇改善加算の取得状況	119
(4) 上位の介護職員等処遇改善加算を取得する上で課題となっていること	120
(5) 介護職員等処遇改善加算を取得しない・取得できない理由	120
9. 多摩市への意向について	121
(1) 多摩市への要望について	121

資料編 調査票 エラー! ブックマークが定義されていません。

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査票 エラー! ブックマークが定義されていません。
2. 在宅介護実態調査 調査票 エラー! ブックマークが定義されていません。
3. 介護保険事業所調査 調査票 エラー! ブックマークが定義されていません。

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、多摩市に居住する高齢者の生活実態を把握することによって、「第10期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和9～11年度）」の策定や高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりのための施策などの基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査方法と回収状況等

（1）調査方法

郵送配布－郵送回収・WEB電子回答（礼状兼督促状1回送付）

（2）調査期間

令和8年1月16日（金）～2月6日（金）

（3）調査の一覧

種類	調査概要	調査対象範囲
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護状態になる前の高齢者のリスクや、社会参加状況等の把握を目的に実施	令和7年12月1日現在、市内に居住する65歳以上の方で、要介護認定（要介護1～5）を受けていない方
②在宅介護実態調査	介護保険サービスの利用状況と、在宅生活の継続、介護者の就労継続の関係の把握等を目的に実施	令和7年12月1日現在、市内に居住する65歳以上で、在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方（①の調査対象者は除く）
③介護保険事業所調査	市内の各種介護サービス事業所の活動状況や事業の展開意向、事業展開上の課題の把握等を目的に実施	市内介護保険事業所

※1 ①の調査対象者は、居住地域（地域包括支援センター（4ページ参照））ごとに、調査対象範囲から無作為抽出しています。

（4）回収状況

調査対象	配布数	有効回収数			有効回収率		
		郵送	WEB	計	郵送	WEB	計
① ニーズ調査	4,000	2,790	259	3,049	69.8%	6.5%	76.2%
② 在宅介護	1,500	902	139	1,041	60.1%	9.3%	69.4%
③ 事業所	179	64	70	134	35.8%	39.1%	74.9%
総計	5,679	3,756	468	4,224	66.1%	8.2%	74.4%

【ニーズ調査 圏域別内訳】

圏域	配布数	有効回収数			有効回収率		
		郵送	WEB	計	郵送	WEB	計
西部	570	404	41	445	70.9%	7.2%	78.1%
東部	780	546	52	598	70.0%	6.7%	76.7%
多摩センター	920	638	78	716	69.3%	8.5%	77.8%
中部	950	693	44	737	72.9%	4.6%	77.6%
北部	780	509	44	553	65.3%	5.6%	70.9%
計	4,000	2,790	259	3,049	69.8%	6.5%	76.2%

（５）調査項目

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

基本属性、家族や生活状況、からだを動かすこと、食べること、毎日の生活、地域での活動、助け合い、健康、認知症について、多摩市の事業などについて

②在宅介護実態調査

基本属性、介護保険制度、必要な支援・サービス、医療の状況、介護保険料、主な介護者の状況などについて

③介護保険事業所調査

基本属性、居宅介護支援事業所の状況、居宅・施設サービス事業所の状況、事業運営、人材育成・確保、他事業者との連携、今後の事業運営、介護保険外サービスなどについて、多摩市への意向について

３．調査結果を見る上での注意事項

- ・回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率（％）で示しています。
- ・％は小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位までを表記しています。したがって、％の合計が必ずしも100％にならない場合（例えば99.9％、100.1％など）があります。
- ・回答者が２つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、％の合計は100％を超えることがあります。
- ・本文及びグラフの中の設問文の選択肢の表現は一部省略、補足しています。
- ・居住地域は、以下の地域包括支援センターの地域で統合しています。

地域包括支援センター （日常生活圏域）	居住地域
西部	落川・百草・桜ヶ丘・関戸６丁目・和田（３丁目を除く）・東寺方（３丁目を除く）・貝取（地番）
東部	連光寺・聖ヶ丘・馬引沢・諏訪
多摩センター	落合・鶴牧・唐木田・中沢・山王下・南野２～３丁目
中部	永山２～７丁目・貝取２～５丁目・豊ヶ丘２～６丁目・南野１丁目
北部	一ノ宮・和田３丁目・東寺方３丁目・関戸１～５丁目・愛宕・乞田・貝取１丁目・豊ヶ丘１丁目・永山１丁目

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ 調査

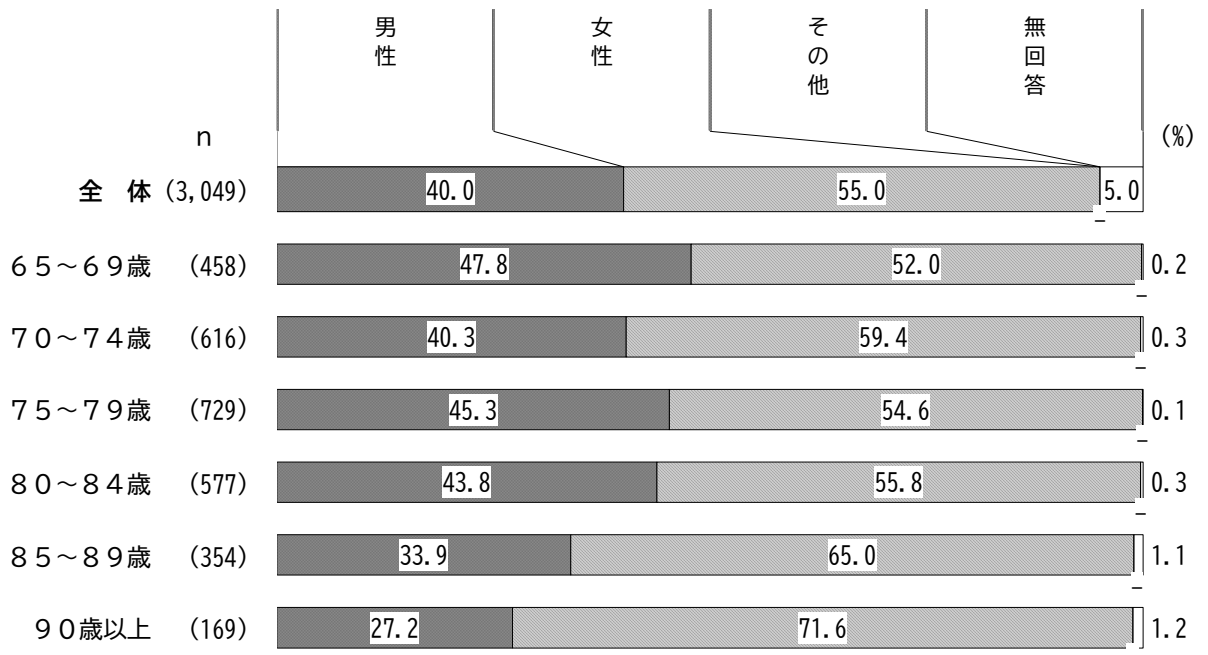
1. 基本属性

(1) 性別

(1) 性別を記入してください。(○は1つ)

回答者の性別は、「女性」が55.0%、「男性」が40.0%となっています。

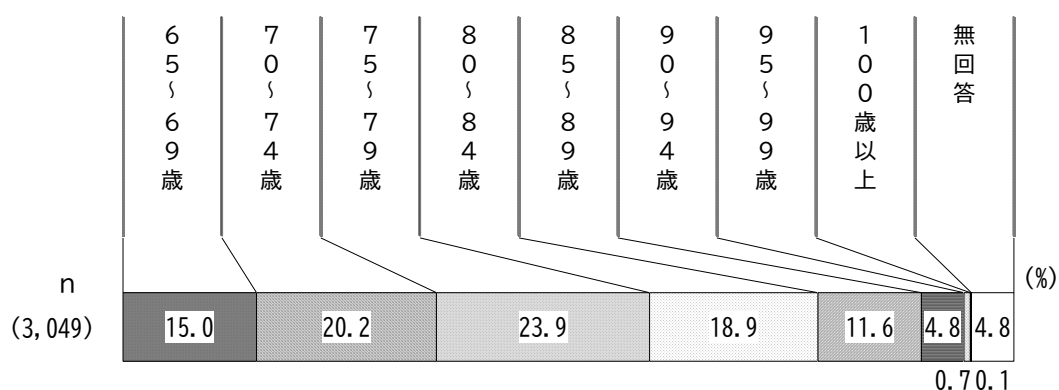
年齢別でみると、90歳以上では「女性」が71.6%、65～69歳では「男性」が47.8%とそれぞれ最も高くなっています。



(2) 年齢

(2) 年齢を記入してください。(○は1つ)

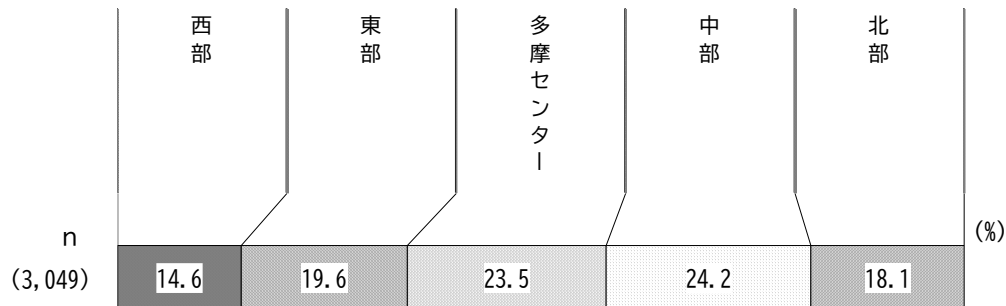
回答者の年齢は、「75～79歳」が23.9%と最も高く、次いで「70～74歳」20.2%、「80～84歳」18.9%となっています。



(3) 居住地域

(3) お住まいの地域はどこですか。(〇は1つ)

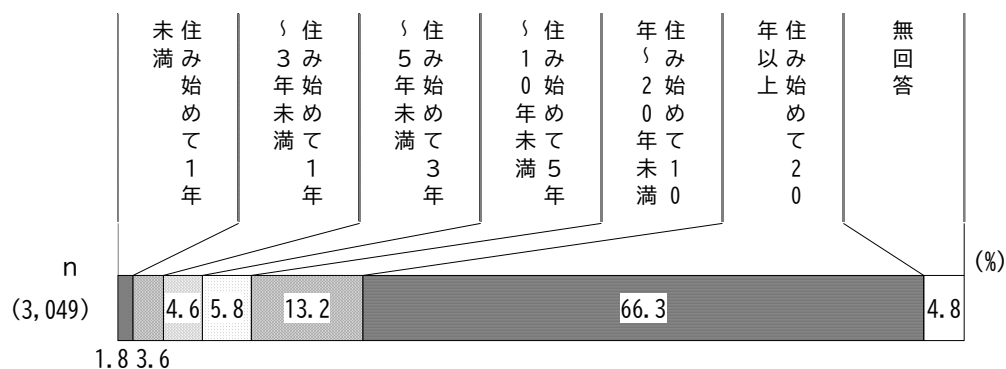
回答者の居住地域は、「中部」が24.2%と最も高く、次いで「多摩センター」23.5%、「東部」19.6%、「北部」18.1%、「西部」14.6%となっています。



(4) 居住年数

(4) お住いの地域での居住年数をお答えください (〇は1つ)

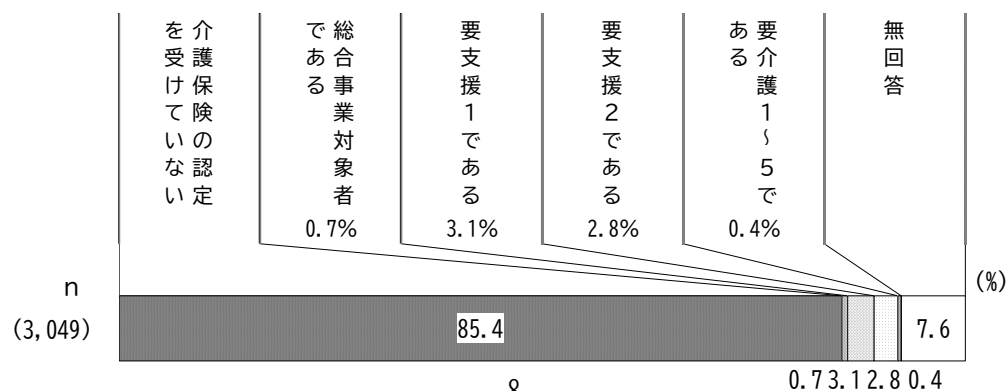
居住年数は、「住み始めて20年以上」が66.3%と最も高く、次いで「住み始めて10年～20年未満」13.2%、「住み始めて5年～10年未満」5.8%となっています。



(5) 身体状況 (要介護度)

(5) あなたのお身体状況 (要介護度) について教えてください (〇は1つ)

回答者の身体状況は、「介護保険の認定を受けていない」が85.4%と最も高く、次いで「要支援1である」3.1%、「要支援2である」2.8%となっています。



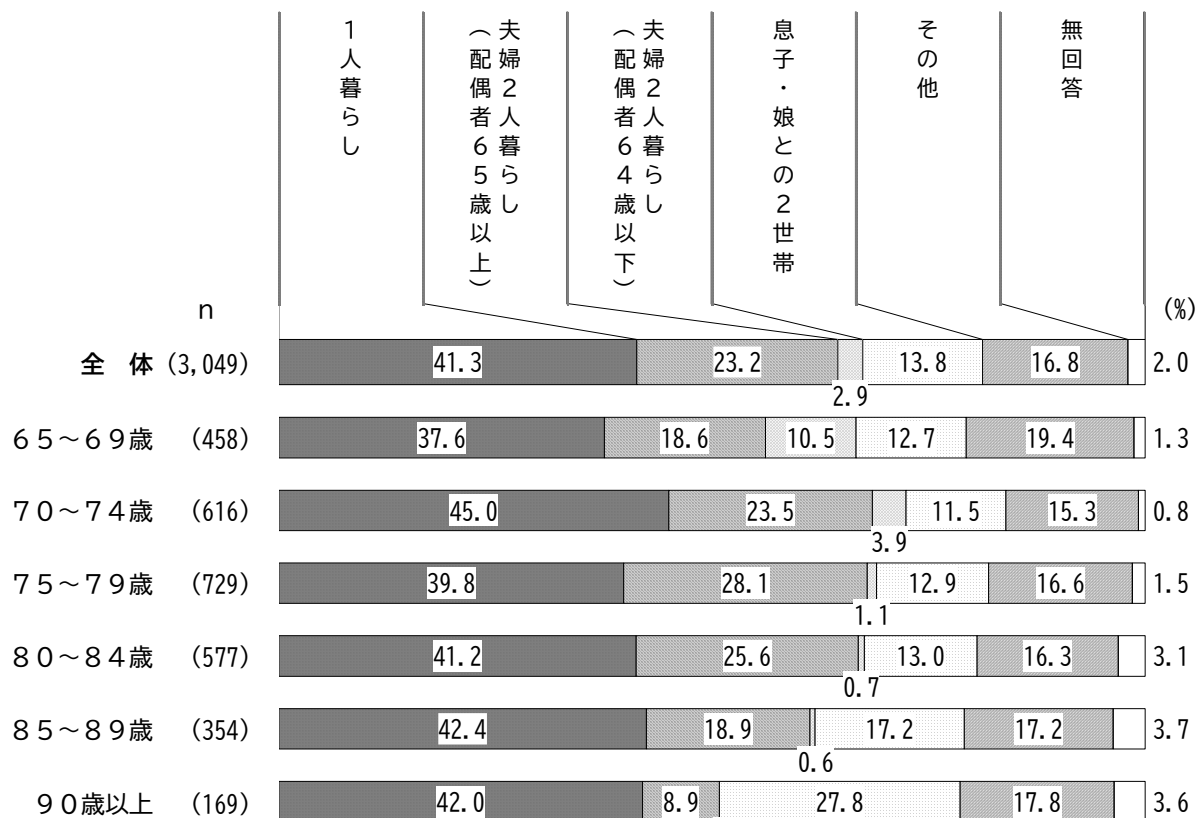
2. 家族や生活状況について（問1）

（1）家族構成

（1）家族構成を教えてください。（○は1つ）

家族構成は、「1人暮らし」が41.3%と最も高く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」23.2%、「息子・娘との2世帯」13.8%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「1人暮らし」の割合が増加する傾向がみられます。また、85歳以上は「息子・娘との2世帯」が増加し、「夫婦2人暮らし」の割合が減少しています。



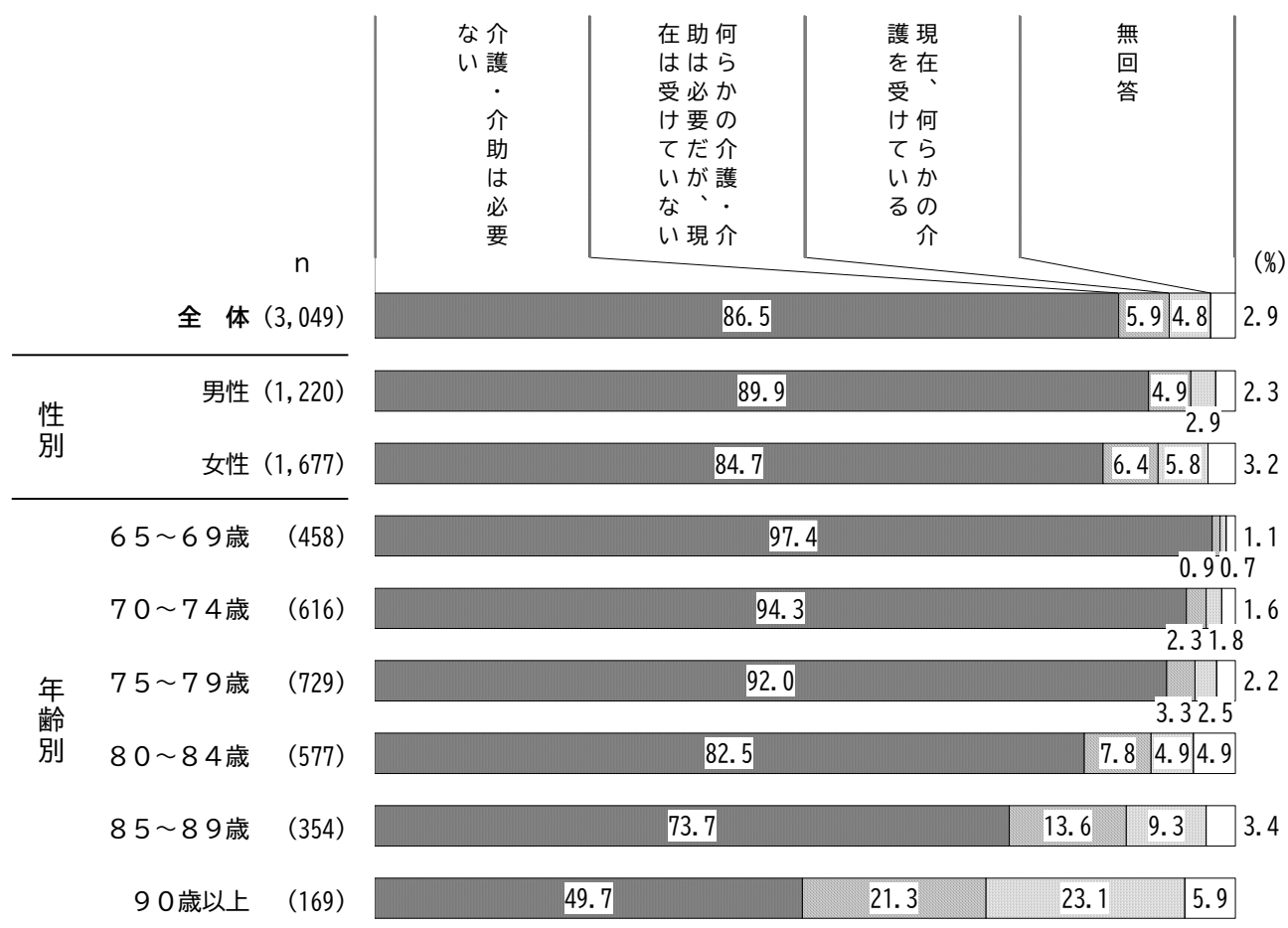
(2) 介護・介助の必要性

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」が86.5%と最も高く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.9%となっています。

性別でみると、「介護・介助は必要ない」は男性(89.9%)が女性(84.7%)より5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、「現在、何らかの介護を受けている」の割合が高まり、90歳以上では23.1%となっています。

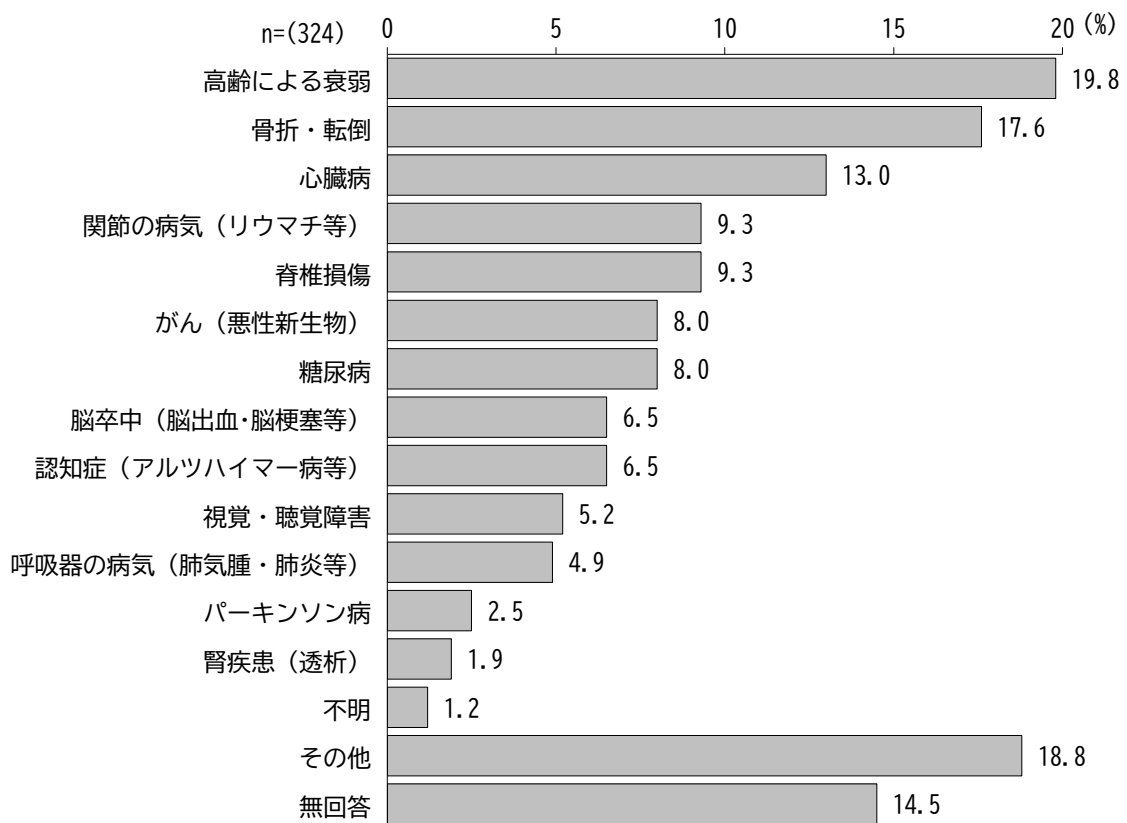


(3) 介護・介助が必要になった主な原因

(2)で「2.何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3.現在、何らかの介護を受けている」に○をつけた方のみお答えください

① 介護・介助が必要になった主な原因は次のどれですか（○はいくつでも）

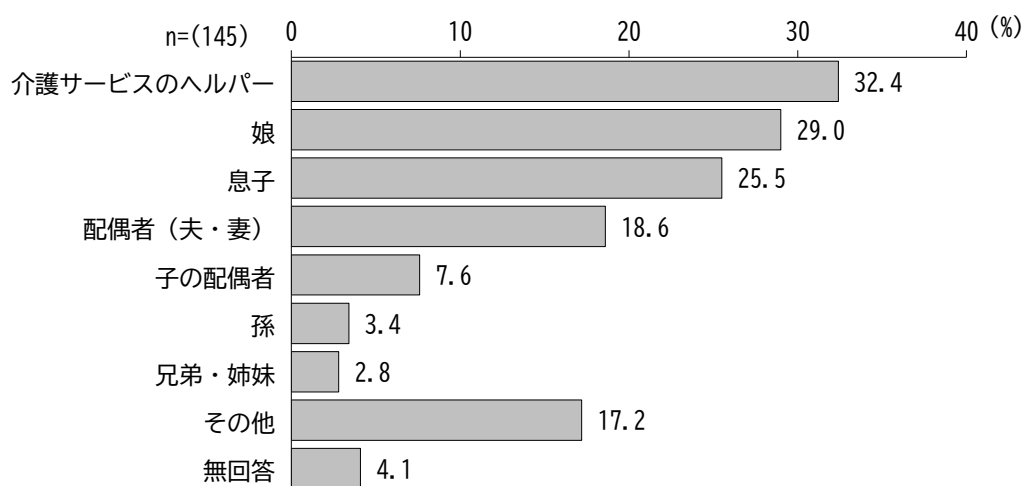
介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」が19.8%と最も高く、次いで「骨折・転倒」17.6%、「心臓病」13.0%、「関節の病気（リウマチ等）」及び「脊椎損傷」9.3%、「がん（悪性新生物）」及び「糖尿病」8.0%となっています。



(4) 主な介護・介助者

(2) で「3. 現在、何らかの介護を受けている」に○をつけた方のみお答えください
② 主にどなたの介護・介助を受けていますか (○はいくつでも)

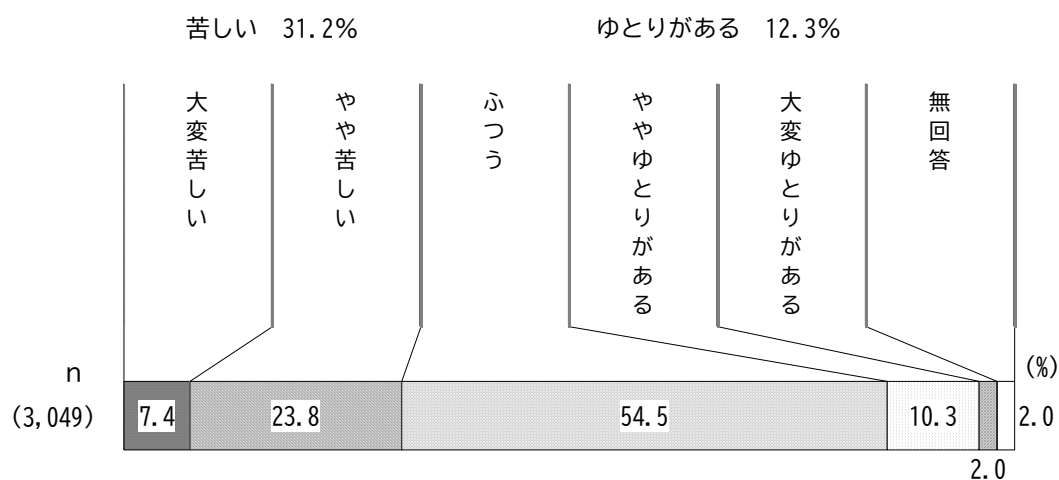
主な介護・介助者は、「介護サービスのヘルパー」が32.4%と最も高く、次いで「娘」29.0%、「息子」25.5%、「配偶者（夫・妻）」18.6%となっています。



(5) 現在の暮らしの経済的状況

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

現在の暮らしの経済的状況は、「大変苦しい」(7.4%)と「やや苦しい」(23.8%)を合わせた「苦しい」が31.2%となっています。一方、「ややゆとりがある」(10.3%)と「大変ゆとりがある」(2.0%)を合わせた「ゆとりがある」が12.3%となっています。

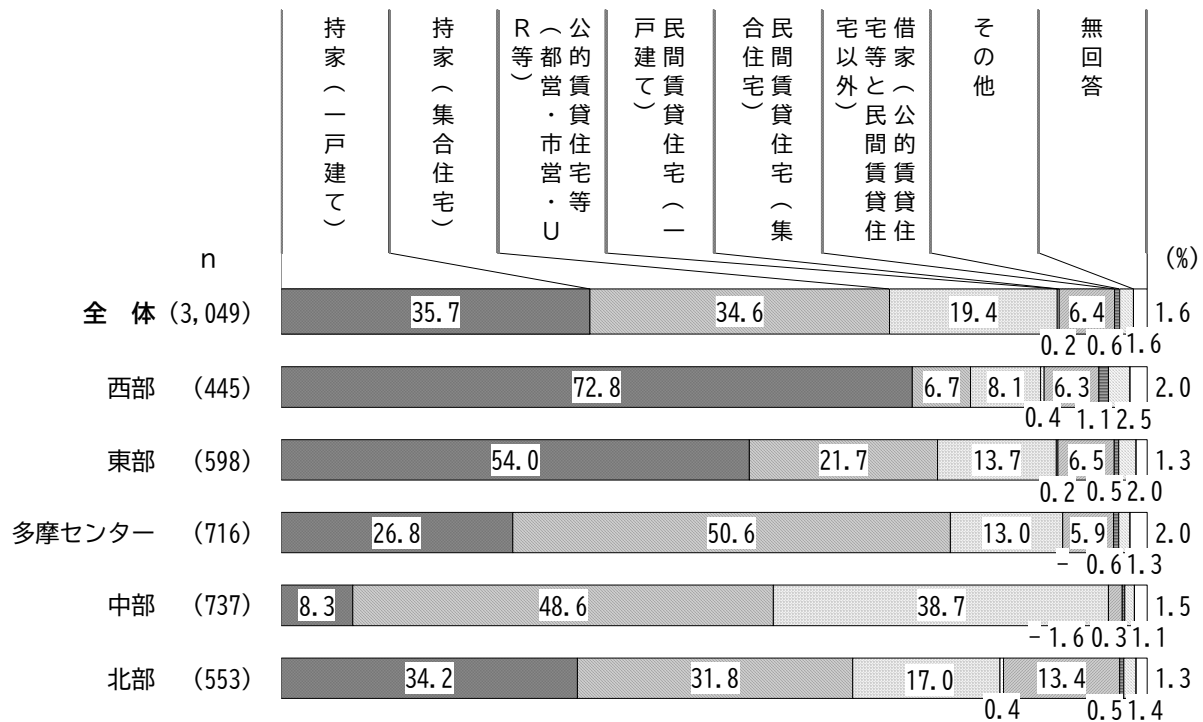


(6) 住居形態

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(○は1つ)

住居形態は、「持家（一戸建て）」が35.7%と最も高く、次いで「持家（集合住宅）」が34.6%となっています。

地区別でみると、西部、東部、北部では「持家（一戸建て）」が高くなっており、また、多摩センター、中部では「持家（集合住宅）」が高くなっています。



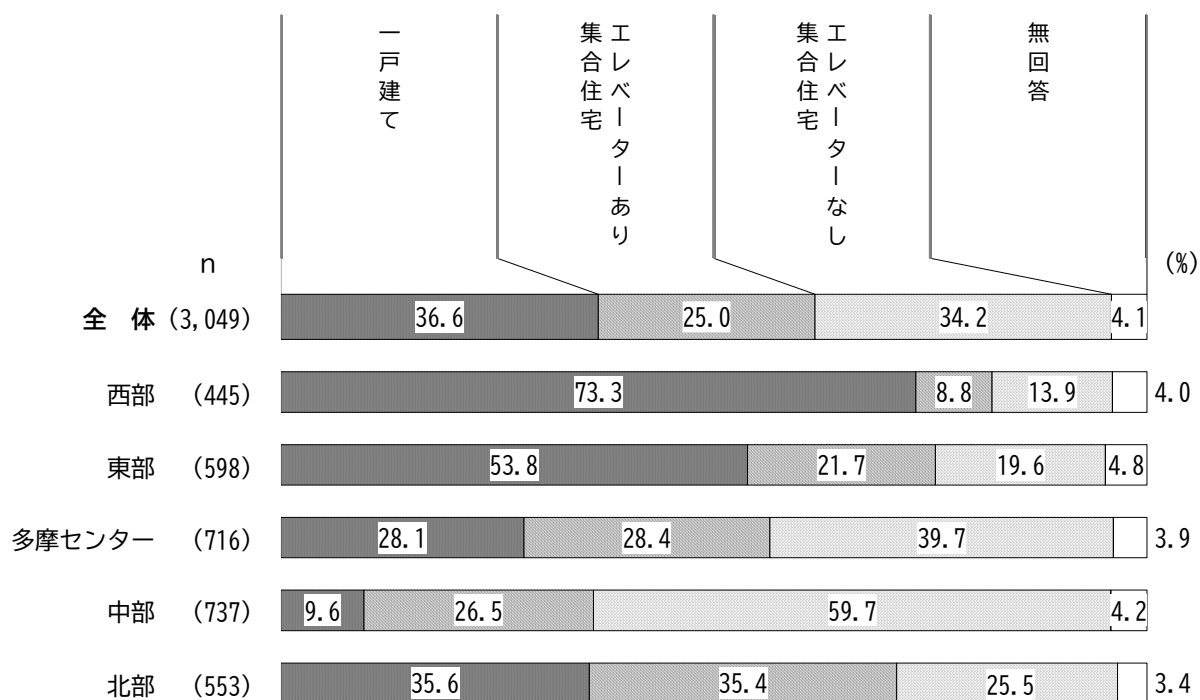
		調査数（n）	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営・市営・U等	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家（公営・民間賃貸住宅等）	その他	無回答
全体		3,049	35.7	34.6	19.4	0.2	6.4	0.6	1.6	1.6
地区別	西部	445	72.8	6.7	8.1	0.4	6.3	1.1	2.5	2.0
	東部	598	54.0	21.7	13.7	0.2	6.5	0.5	2.0	1.3
	多摩センター	716	26.8	50.6	13.0	-	5.9	0.6	1.3	2.0
	中部	737	8.3	48.6	38.7	-	1.6	0.3	1.1	1.5
	北部	553	34.2	31.8	17.0	0.4	13.4	0.5	1.4	1.3

(7) お住まいの種類及びエレベーターの有無

(5) お住まいの種類及びエレベーターの有無についてお聞きます。(○は1つ)

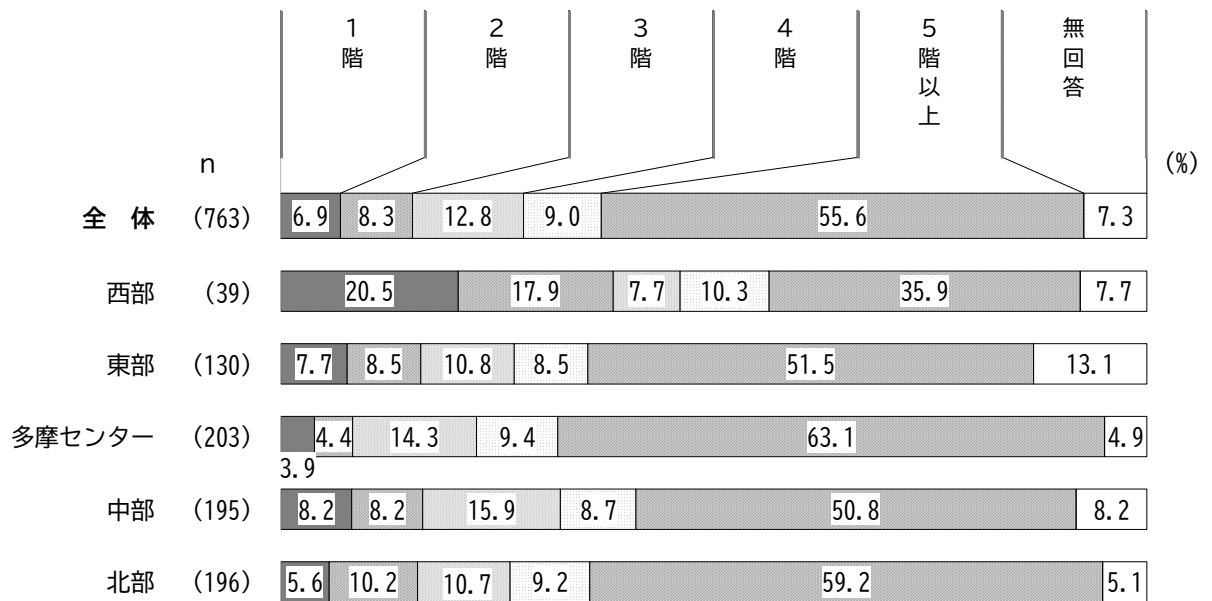
住居形態及びエレベーターの有無は、「一戸建て」が36.6%と最も高く、次いで「エレベーターなし集合住宅」34.2%、「エレベーターあり集合住宅」25.0%となっています。

地区別でみると、中部では「エレベーターなし集合住宅」が59.7%と最も高く、西部では「一戸建て」が73.3%と最も高くなっています。



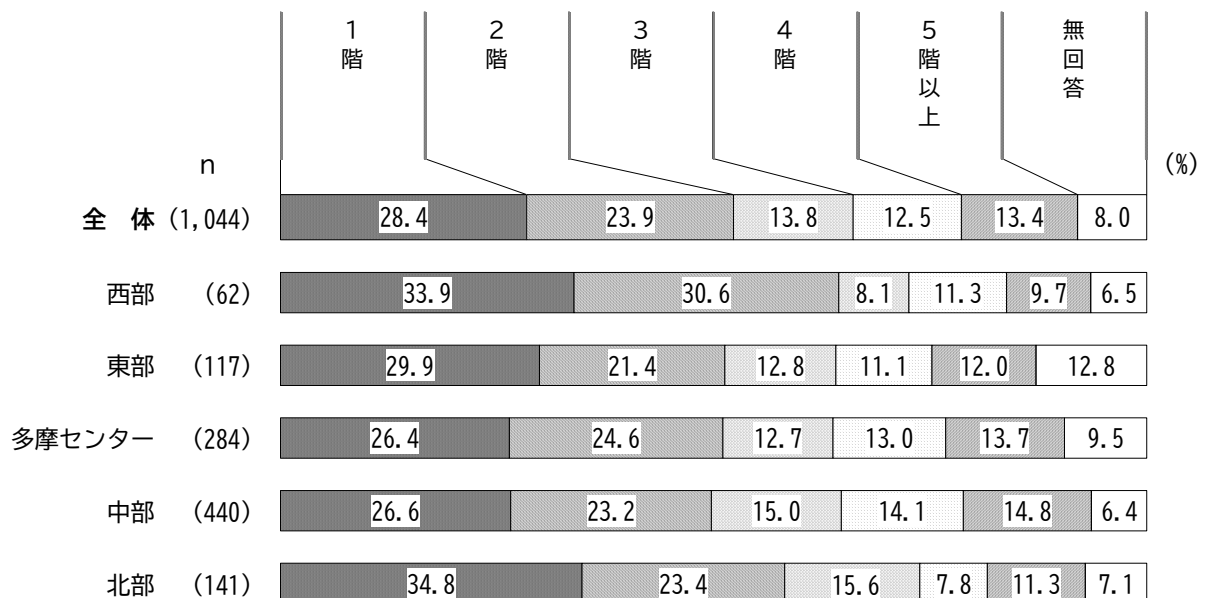
(8) エレベーターあり集合住宅（階数）

エレベーターあり集合住宅のお住まいの階数は、どの地区でも「5階以上」が最も多くなっています。



(9) エレベーターなし集合住宅（階数）

エレベーターなし集合住宅のお住まいの階数は、どの地区でも「1階」が最も多くなっています。



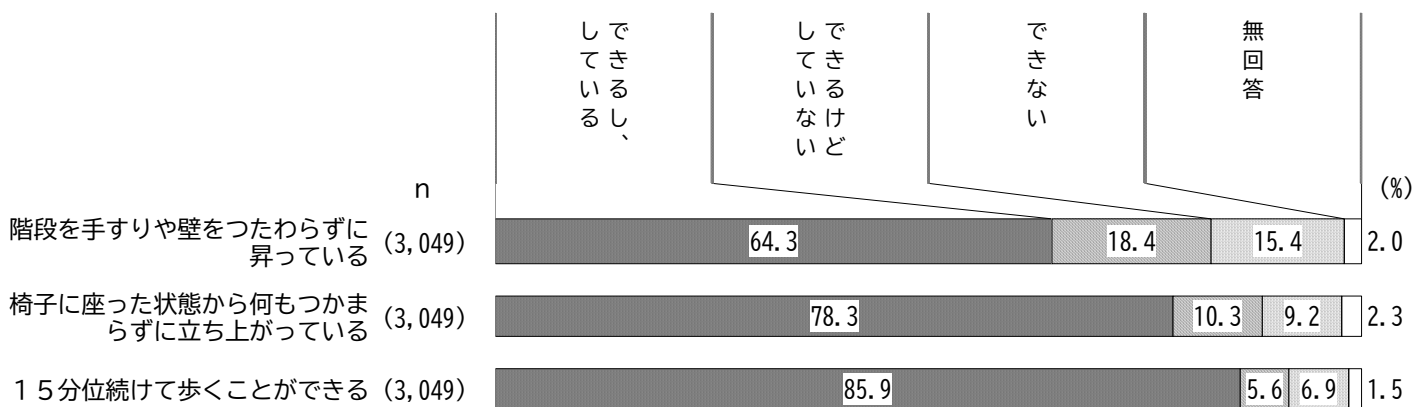
3. からだを動かすことについて（問2）

（1）運動について

（1）階段を手すりや壁をつたわずに上っていますか。（○は1つ）
（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（○は1つ）
（3）15分位続けて歩くことができますか。（○は1つ）

「できるけどしていない」は階段を手すりや壁をつたわずに上っているが18.4%、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているが10.3%、15分位続けて歩くことができるが5.6%となっています。

「できるし、している」は15分位続けて歩くことができるが85.9%と最も高く、次いで、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるが78.3%、階段を手すりや壁をつたわずに上れるが64.3%となっています。

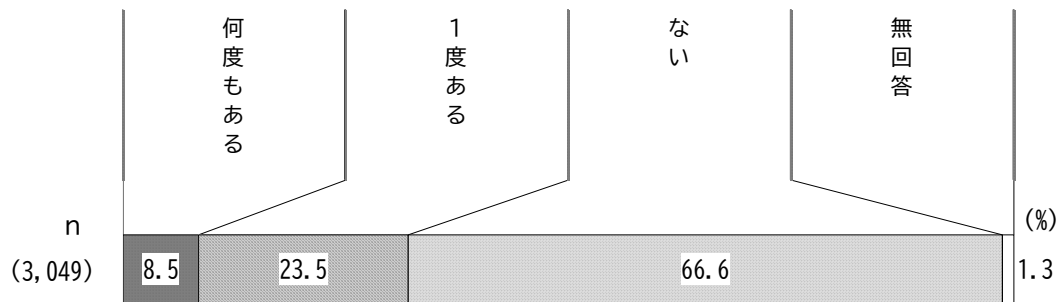


(2) 過去1年間の転んだ経験

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

過去1年間の転んだ経験は、「ない」が66.6%と最も高くなっています。一方、転んだ経験がある場合は「1度ある」が23.5%となっています。

転んだ経験がある 32.0%



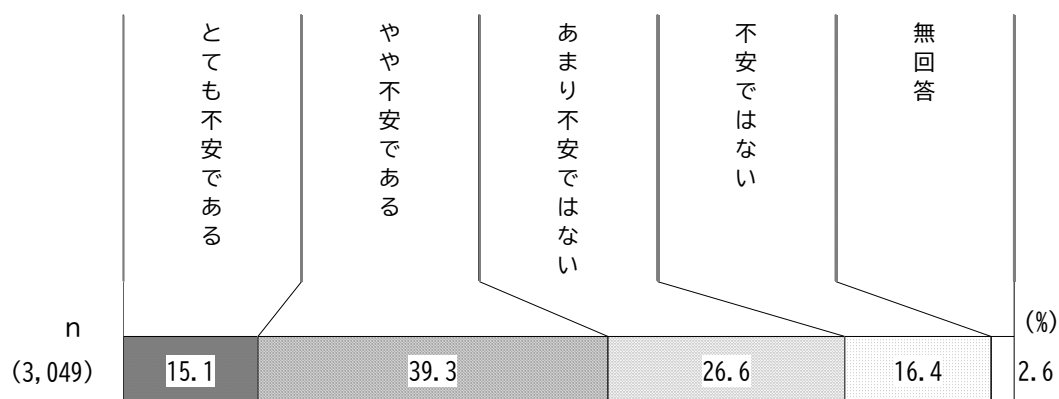
(3) 転倒に対する不安

(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

転倒に対する不安は、「とても不安である」(15.1%)と「やや不安である」(39.3%)を合わせた《不安である》が54.4%となっています。一方、「あまり不安ではない」(26.6%)と「不安ではない」(16.4%)を合わせた《不安ではない》は43.0%となっています。

不安である 54.4%

不安ではない 43.0%



(4) 運動機能 リスク判定

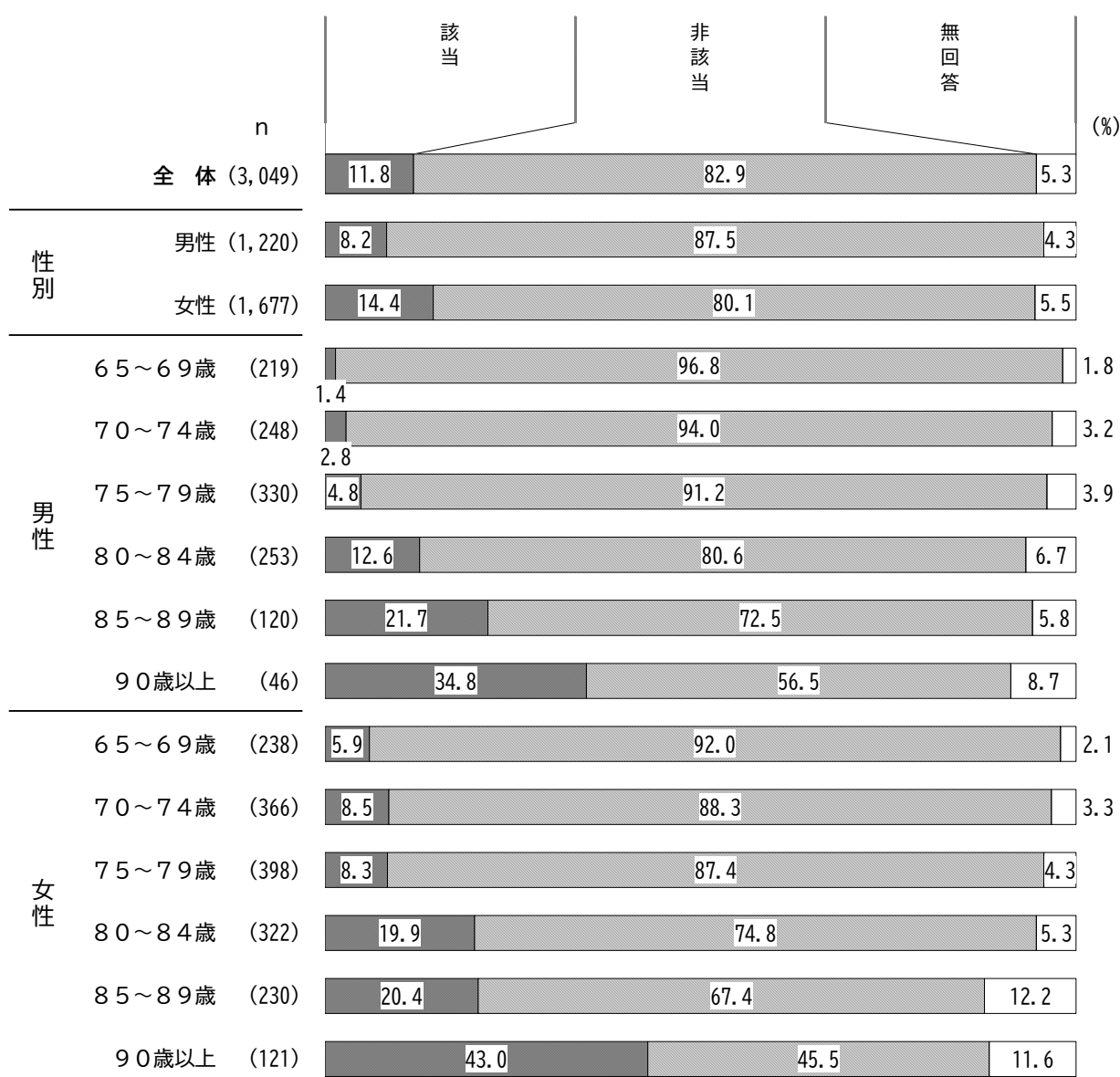
■運動機能リスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに上っていますか	「3. できない」
問2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問2-Q3	15分位続けて歩くことができますか	「3. できない」
問2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安」 「2. やや不安」
判定	3問以上該当する選択肢が回答された場合は「該当」	

運動機能リスク判定において、該当した人は（運動機能の低下がみられる人）は、全体で11.8%となっています。

性別でみると、女性では「該当」が14.4%と男性に比べて高くなっています。

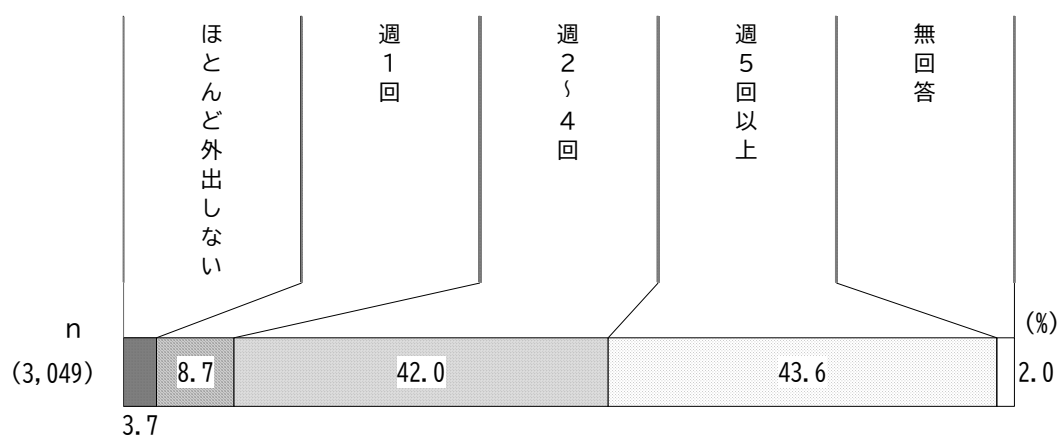
性年齢別でみると、90歳以上では「該当」が女性43.0%、男性34.8%と男女ともに最も高く、年齢が上がるにつれて該当者が増加しています。



(5) 外出頻度

(6) 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

外出頻度は、「週5回以上」が43.6%と最も高く、次いで「週2～4回」42.0%、「週1回」8.7%となっています。



(6) 閉じこもり リスク判定

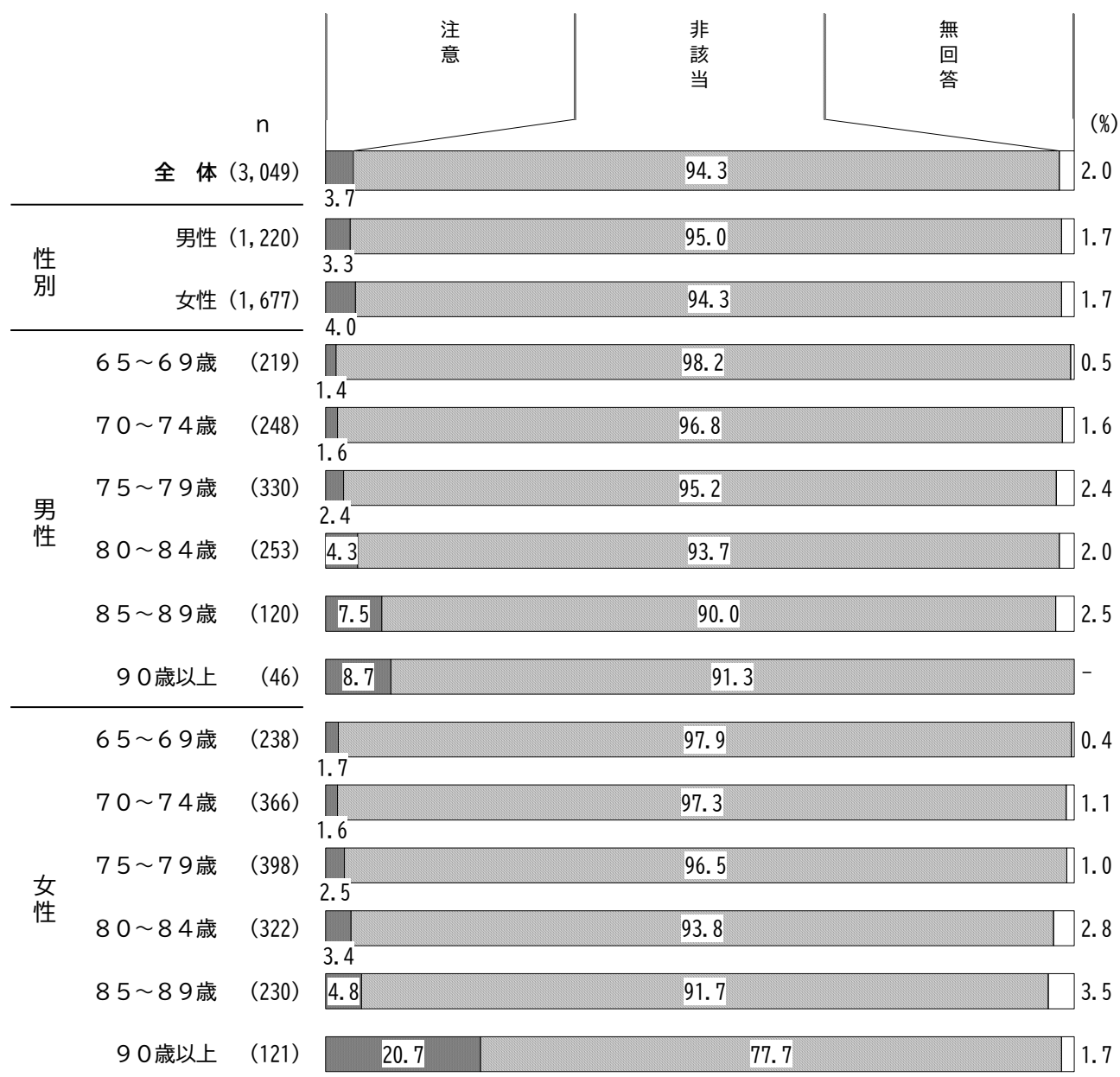
■閉じこもりリスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問2-Q6	週に1回以上は外出していますか	「1.ほとんど外出しない」
判定	該当する選択肢が回答された場合は「注意」	

閉じこもりリスク判定は、「注意」が3.7%となっています。

性別でみても、男女の差はありません。

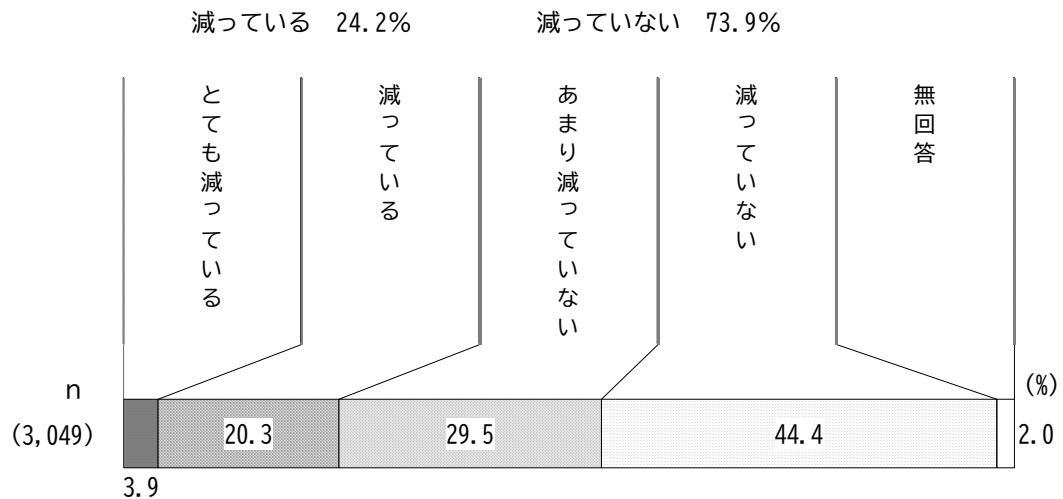
性年齢別でみると、80歳以上から「注意」が男女ともに多くなっています。



(7) 昨年と比べた外出頻度の減少

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

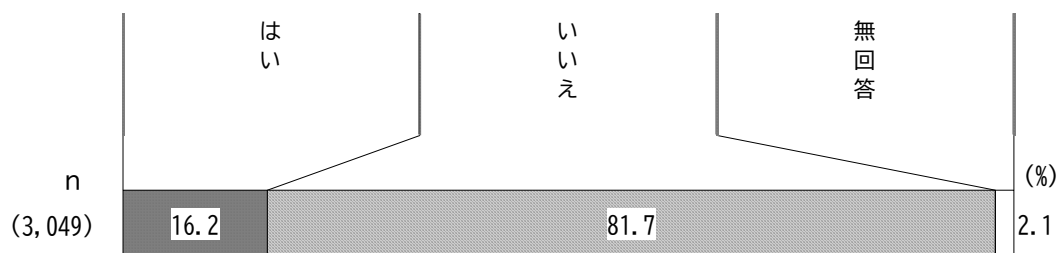
昨年と比べた外出頻度の減少は、「とても減っている」(3.9%)と「減っている」(20.3%)を合わせた《減っている》は24.2%となっています。一方、「あまり減っていない」(29.5%)と「減っていない」(44.4%)を合わせた《減っていない》は73.9%となっています。



(8) 外出控えの有無

(8) 外出を控えていますか (○は1つ)

外出控えの有無は、「はい」が16.2%となっています。

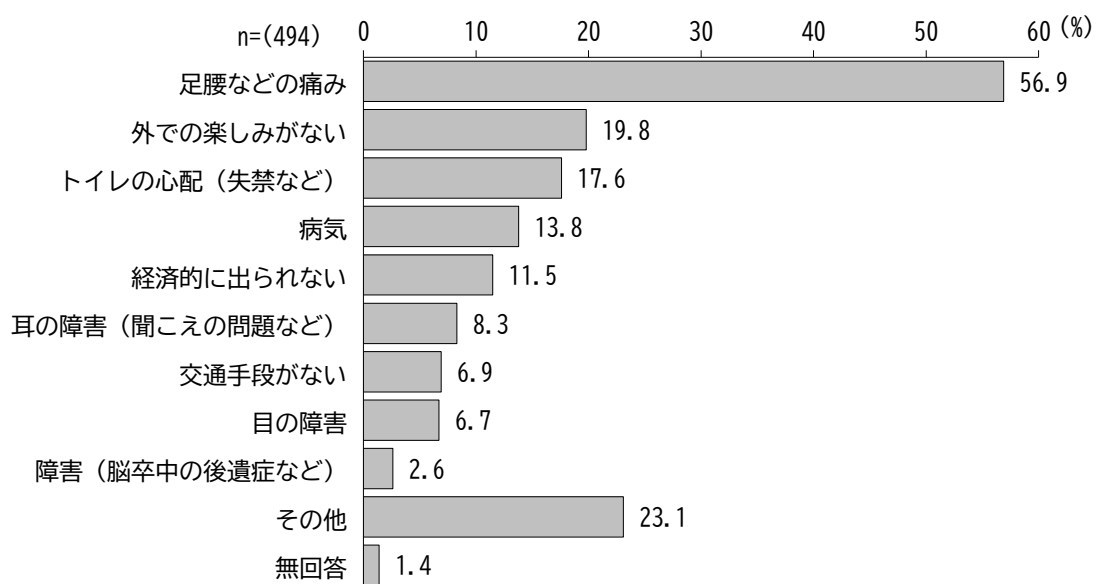


(9) 外出を控えている理由

上記で「1. はい」に○をつけた方のみお答えください。

① 外出を控えている理由は次のどれですか (○はいくつでも)

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が56.9%と最も高く、次いで「外での楽しみがない」19.8%、「トイレの心配（失禁など）」17.6%となっています。



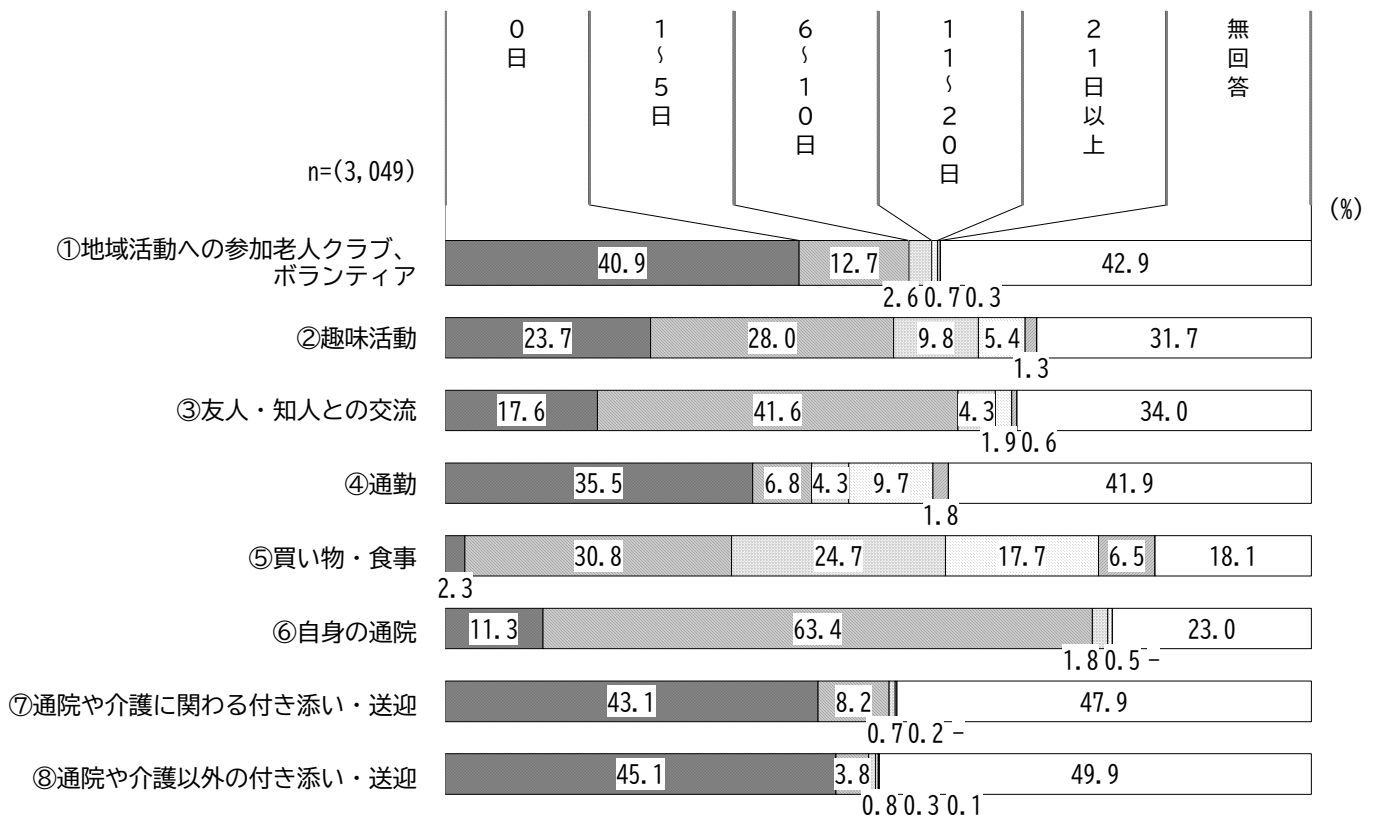
(10) 活動別の外出頻度と移動手段

(9) 以下①～⑧の活動について、現在の外出頻度を教えてください。

また、それぞれの外出で使用している移動手段に○をつけてください(○はいくつでも)

※外出頻度が「0日」の場合は、移動手段に○をつける必要はありません。

活動別の外出頻度は、「1～5日」は⑥自身の通院で63.4%と最も高く、次いで、③友人・知人との交流で41.6%、⑤買い物・食事で30.8%となっています。一方、「0日」は⑧通院や介護以外の付き添い・送迎で45.1%と最も高く、⑦通院や介護に関わる付き添い・送迎で43.1%、①地域活動への参加老人クラブ、ボランティアで40.9%となっています。



活動別の外出する際の移動手段は、「徒歩」は①地域活動への参加老人クラブ、ボランティアで69.4%と最も高く、次いで⑤買い物・食事で55.7%、②趣味活動で54.7%となっています。一方、「自動車・バイク・原付（運転）」は⑧通院や介護以外の付き添い・送迎で45.7%と最も高く、次いで⑦通院や介護に関わる付き添い・送迎で38.3%となっています。

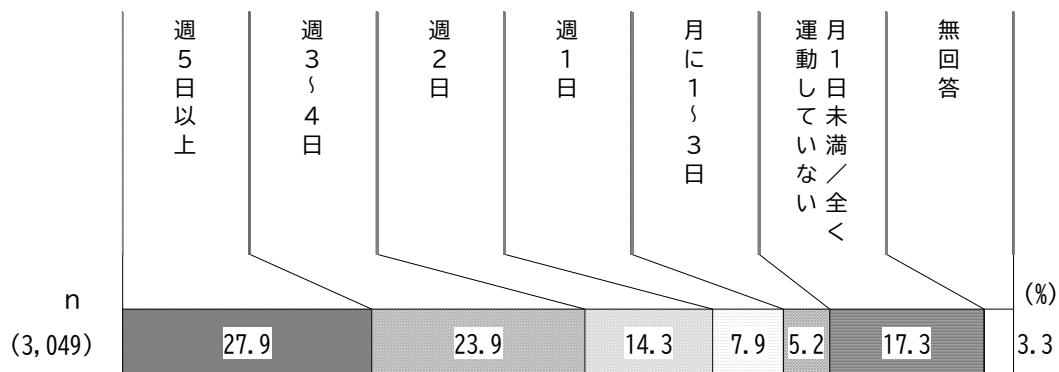
(件,%)

	調査数 (n)	徒歩	自転車	自動車・バイク・原付 (運転)	自動車・バイク・原付 (同乗)	電車	路線バス	病院や施設のバス	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
① 地域活動への参加老人クラブ、ボランティア	494	69.4	8.1	13.8	1.4	8.1	20.6	1.4	1.0	0.8	3.6	6.5
② 趣味活動	1,359	54.7	9.6	25.1	2.9	28.2	36.5	1.1	0.4	2.6	1.7	4.8
③ 友人・知人との交流	1,476	49.5	5.4	17.7	3.5	45.6	39.9	0.5	0.7	3.3	2.3	7.5
④ 通勤	689	44.8	10.2	24.1	2.8	42.5	34.8	0.4	—	2.3	2.2	4.6
⑤ 買い物・食事	2,429	55.7	10.7	26.1	6.8	16.8	40.2	0.3	0.6	3.7	2.6	6.3
⑥ 自身の通院	2,003	46.9	7.3	17.6	4.8	18.4	38.9	2.4	0.8	6.0	2.6	7.2
⑦ 通院や介護に関わる付き添い・送迎	277	11.6	1.4	38.3	11.2	7.9	15.9	7.2	1.1	13.0	8.7	10.5
⑧ 通院や介護以外の付き添い・送迎	151	19.2	2.6	45.7	11.9	4.6	10.6	3.3	0.7	4.6	7.9	10.6

(11) 運動頻度

(10) 現在、あなたはどのくらいの頻度で運動をしていますか（○は1つ）

運動頻度は、「週5日以上」が27.9%と最も高く、次いで「週3～4日」23.9%、「月1日未満／全く運動していない」17.3%となっています。



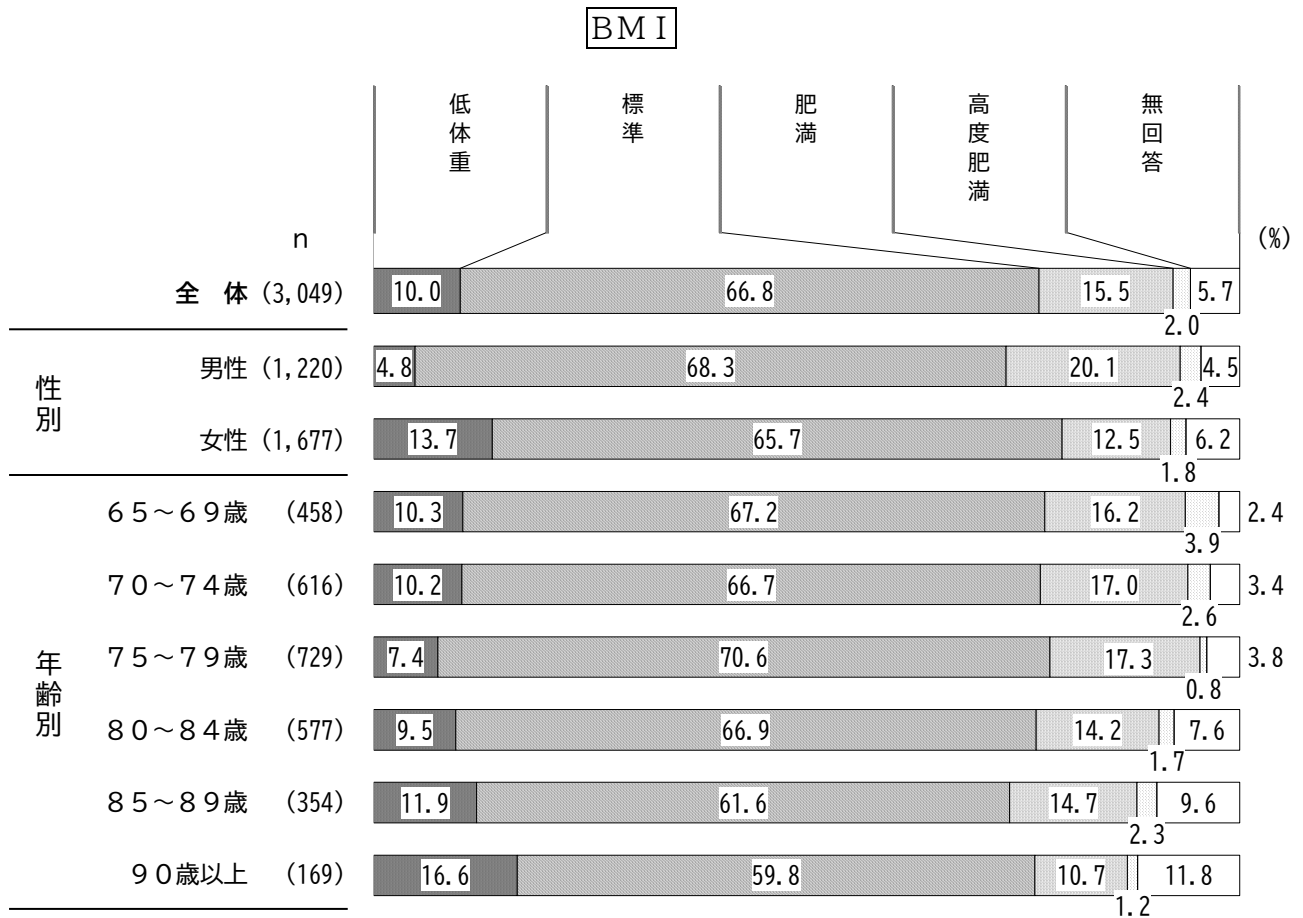
4. 食べることについて（問3）

（1）BMI（身長・体重）

BMI判定について、全体では「標準」が66.8%を占め、次いで「肥満」が15.5%、「低体重」が10.0%と続きます。

性別でみると、女性では「低体重」が13.7%と男性（4.8%）に比べて高く、男性では「肥満」が20.1%と女性（12.5%）に比べて高くなっています。

年齢別でみると90歳以上では「低体重」が16.6%と高く、75～79歳では「肥満」が17.3%と高くなっています。



※BMI(体格指数:Body Mass Index)=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))

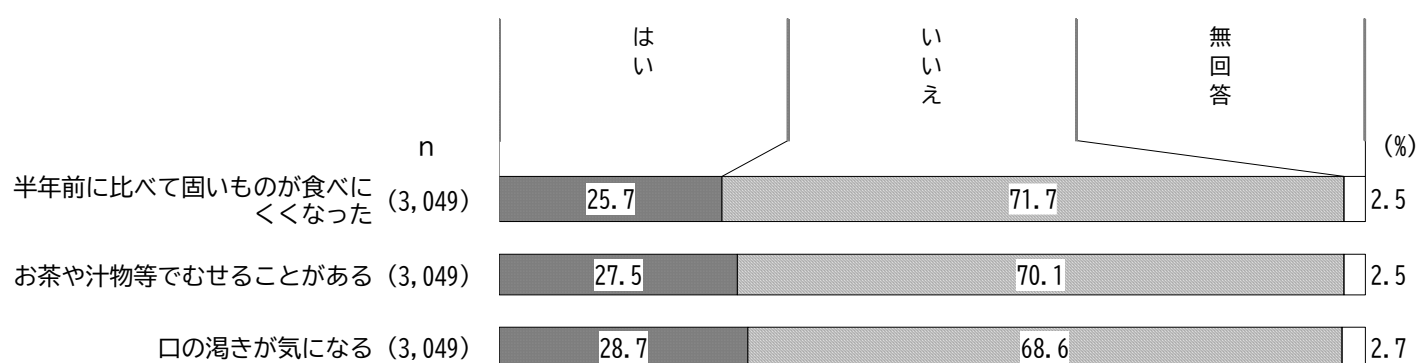
一般的には、18.5未満で「低体重」、18.5以上25.0未満で「標準」、25.0以上30.0未満で「肥満」、30.0以上で「高度肥満」と判定されます。

(2) 口腔・栄養について

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)
(3) お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)
(4) 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

「はい」は口の渇きが気になるが28.7%、お茶や汁物等でむせることがあるが27.5%、半年前に比べて固いものが食べにくくなったが25.7%となっています。

「いいえ」は半年前に比べて固いものが食べにくくなったが71.7%、お茶や汁物等でむせることがあるが70.1%、口の渇きが気になるが68.6%となっています。



(3) 口腔機能 リスク判定

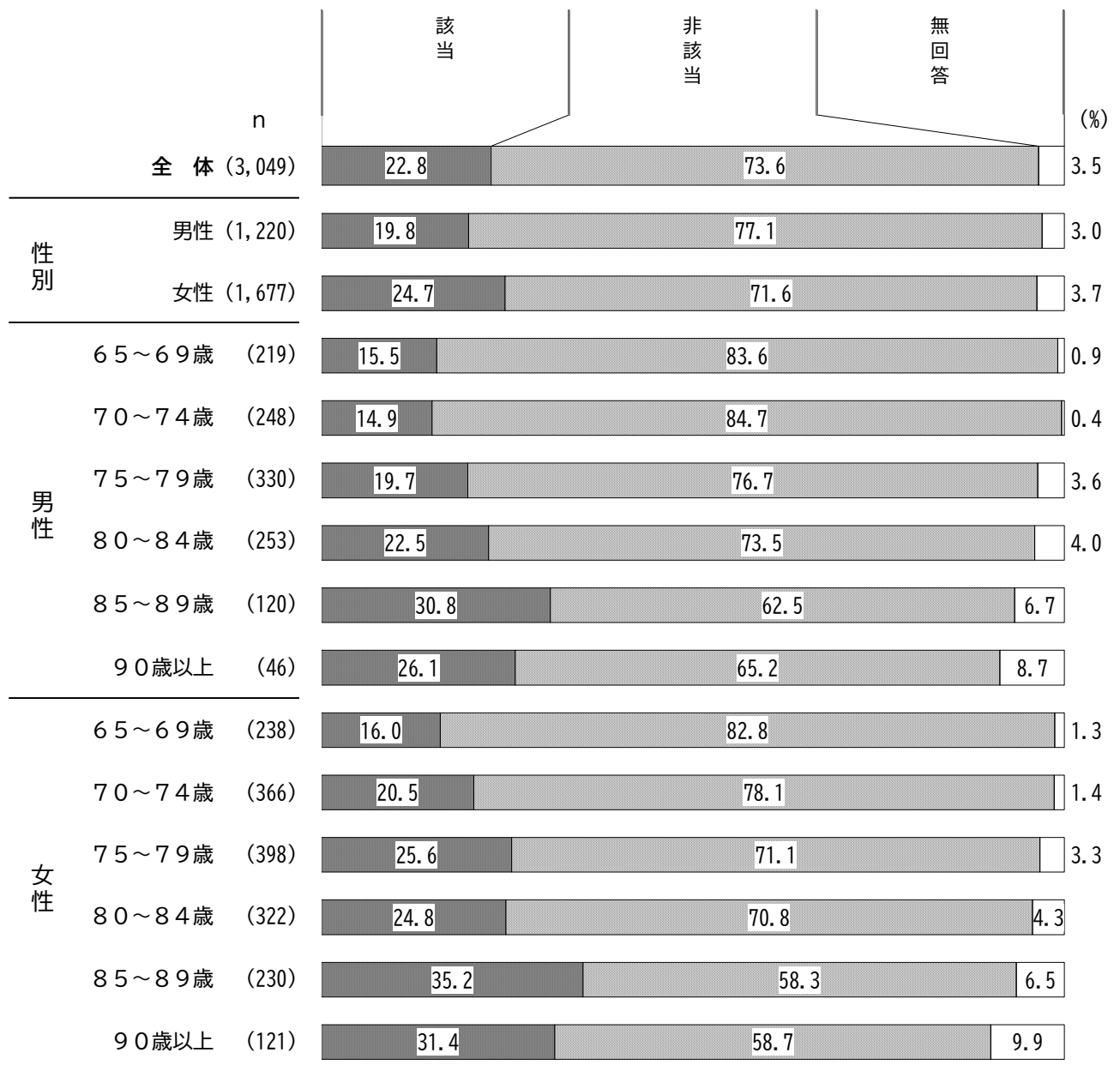
■口腔機能リスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問3-Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3-Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3-Q4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
判定	2問以上該当する選択肢が回答された場合は「該当」	

口腔機能のリスク判定では、「該当」が22.8%、「非該当」が73.6%となっています。

性別では、女性では「該当」が24.7%と男性（19.8%）より高くなっています。

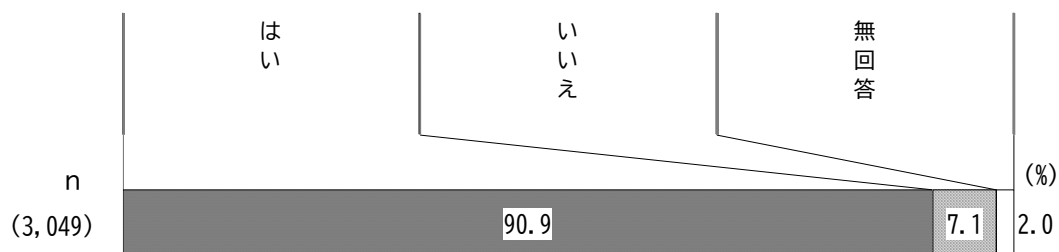
性年齢別でみると、85～89歳の女性で「該当」の割合が最も高く、男女ともに65～69歳では「非該当」が8割を超えています。



(4) 歯磨きの状況

(5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（○は1つ）

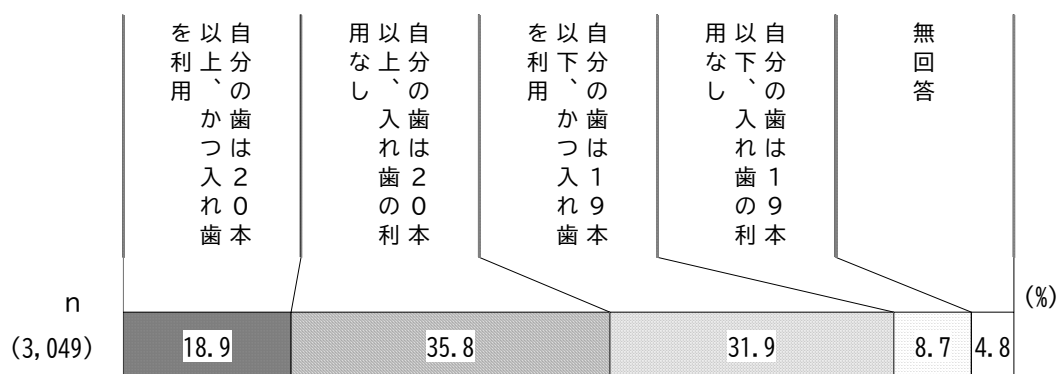
歯磨きの状況は、「はい」が90.9%となっています。



(5) 歯の数と入れ歯の利用状況

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）（○は1つ）

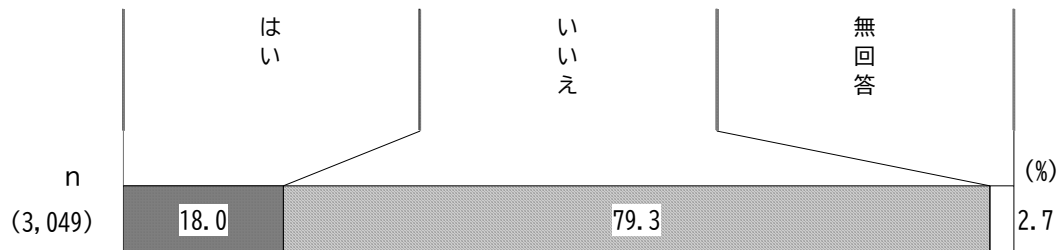
歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が35.8%と最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」31.9%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」18.9%となっています。



(6) 発音の状況

(7) 普段の会話で、言葉をはっきりと発音できないことがありますか (○は1つ)

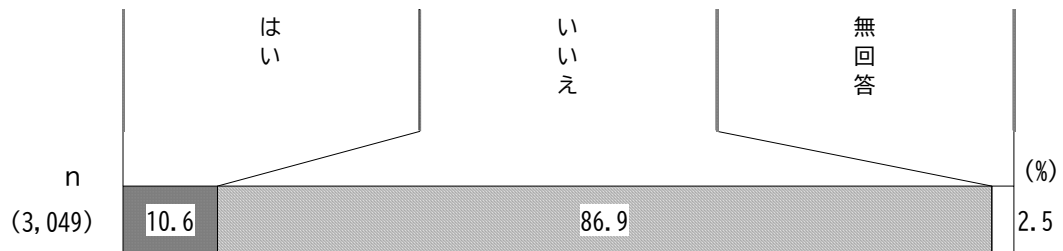
発音の状況は、「はい」が18.0%となっています。



(7) 体重減少の有無

(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (○は1つ)

体重減少の有無は、「はい」が10.6%となっています。



(8) 栄養 リスク判定

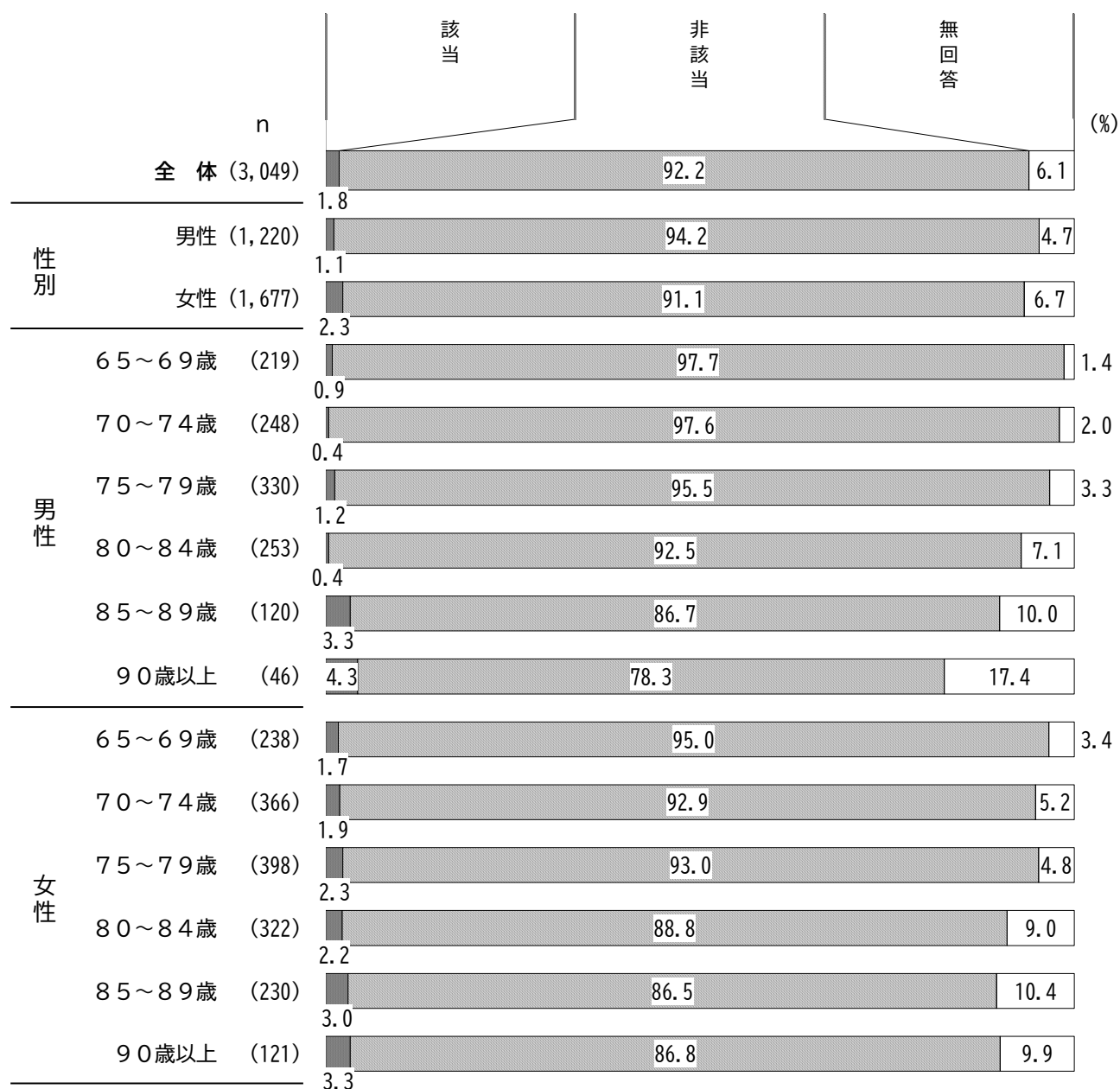
■栄養リスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問3-Q7	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問3-Q1	身長、体重	BMI < 18.5
判定	全て該当する選択肢が回答された場合は「該当」	

栄養リスク判定では、「該当」が1.8%となっています。

性別でみると、男女ともに「非該当」が9割台と高くなっています。

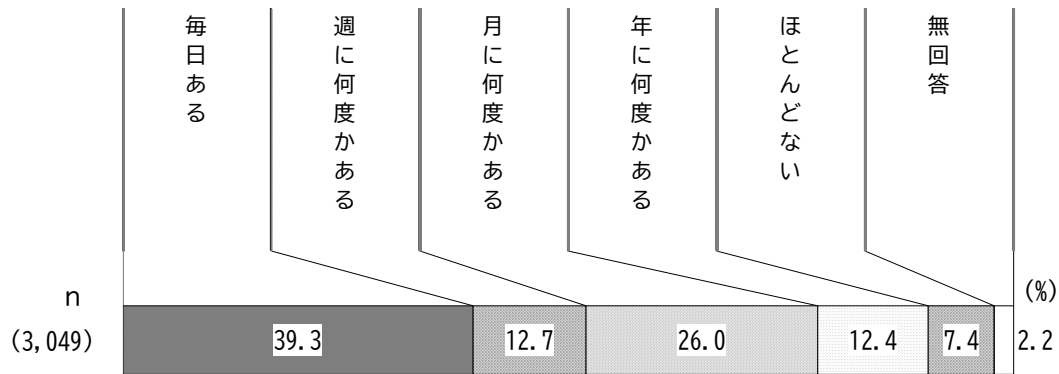
性年齢別でみると、男女ともに90歳以上で「該当」が他の年齢に比べて高くなっています。



(9) 食事をとともにする機会

(9) どなたかと食事をとともにする機会がありますか (○は1つ)

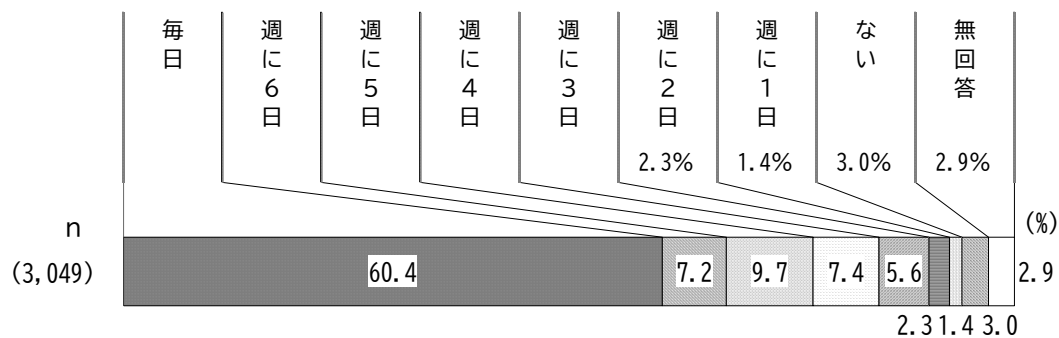
どなたかと食事をとともにする機会は、「毎日ある」が39.3%と最も高く、次いで「月に何度かある」26.0%、「週に何度かある」12.7%となっています。



(10) 主食、主菜、副菜の3つを組み合わせる頻度

(10) ここ1か月間、あなたは、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせる頻度が1日に2回以上あるのは週に何日でしたか (○は1つ)

主食、主菜、副菜の3つを組み合わせる頻度は、「毎日」が60.4%と最も高く、次いで「週に5日」9.7%、「週に4日」7.4%となっています。



5. 毎日の生活について（問4）

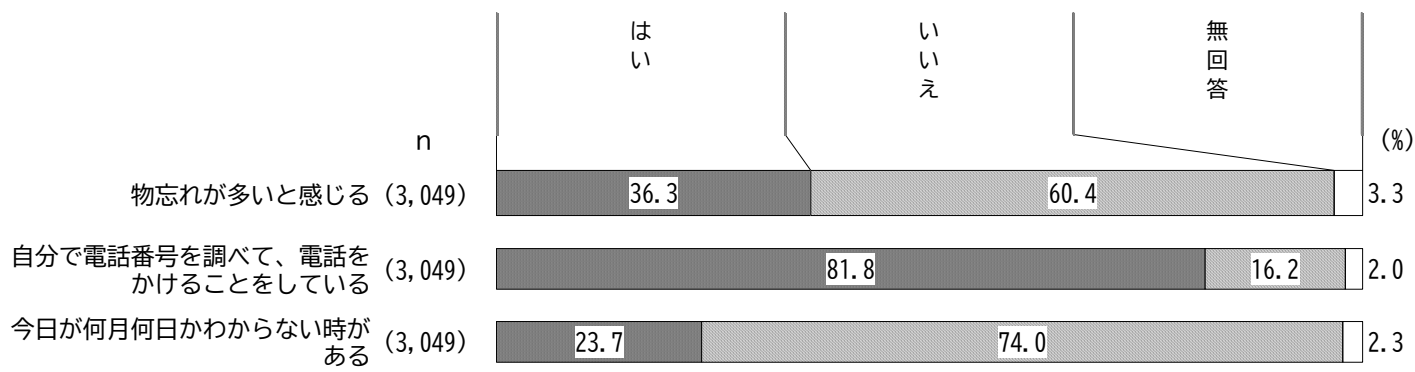
（1）認知機能の低下について

（1）物忘れが多いと感じますか（○は1つ）
（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（○は1つ）
（3）今日が何月何日かわからない時がありますか（○は1つ）

物忘れが多いと感じますかは、「はい」が36.3%、「いいえ」が60.4%となっています。

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますかは、「はい」が81.8%、「いいえ」が16.2%となっています。

今日が何月何日かわからない時がありますかは、「はい」が23.7%、「いいえ」が74.0%となっています。



(2) 認知症 リスク判定

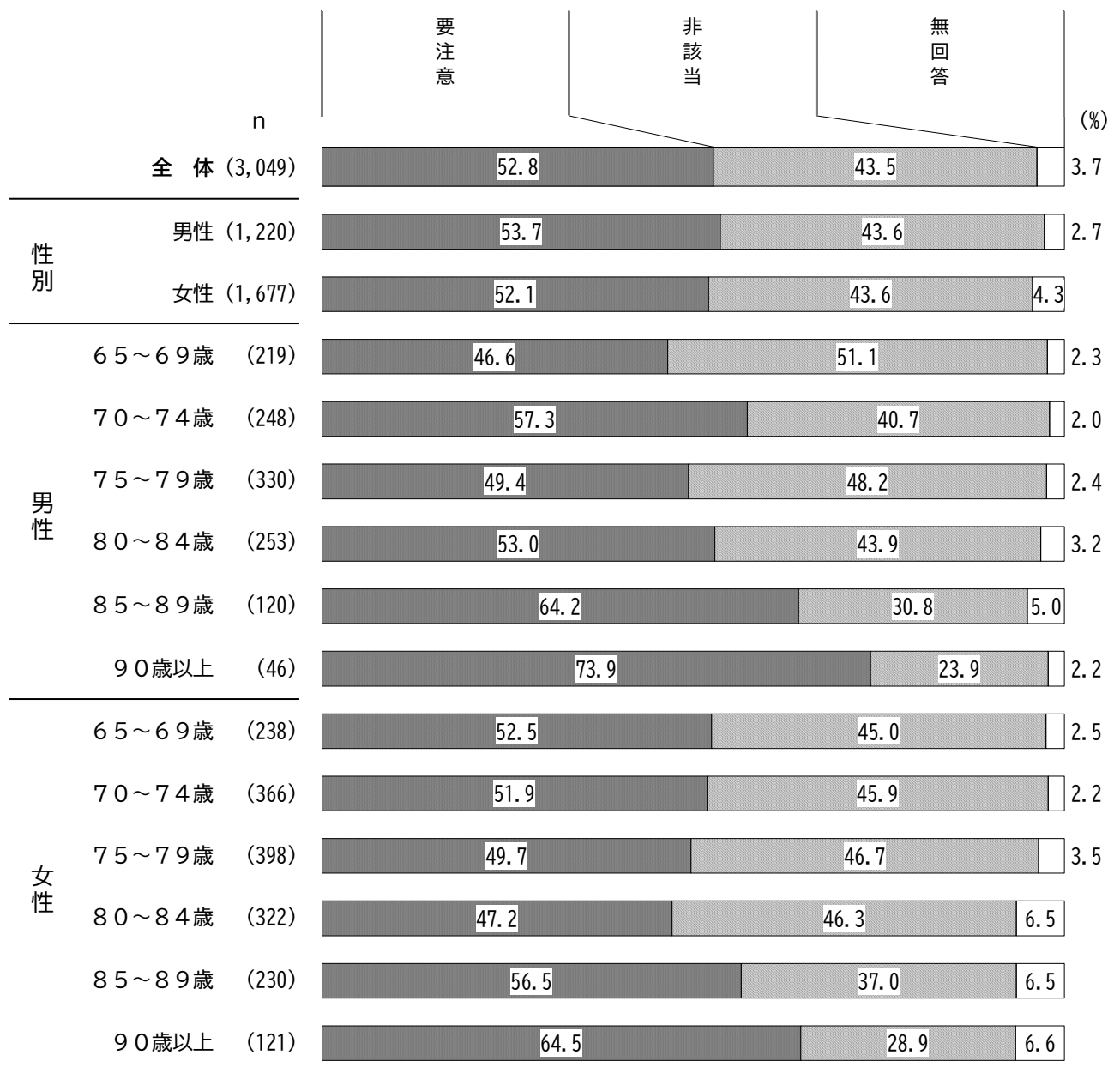
■認知症リスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問4-Q1	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問4-Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4-Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
判定	1問以上、該当する選択肢が回答された場合は「要注意」	

認知症リスク判定は、「要注意」が52.8%と高くなっています。

性別でみると、男女ともに「要注意」が5割台と高くなっています。

性年齢別でみると、男性90歳以上で「要注意」が7割台と高くなっています。



(3) 手段的自立度について

(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(○は1つ)
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)
(6) 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

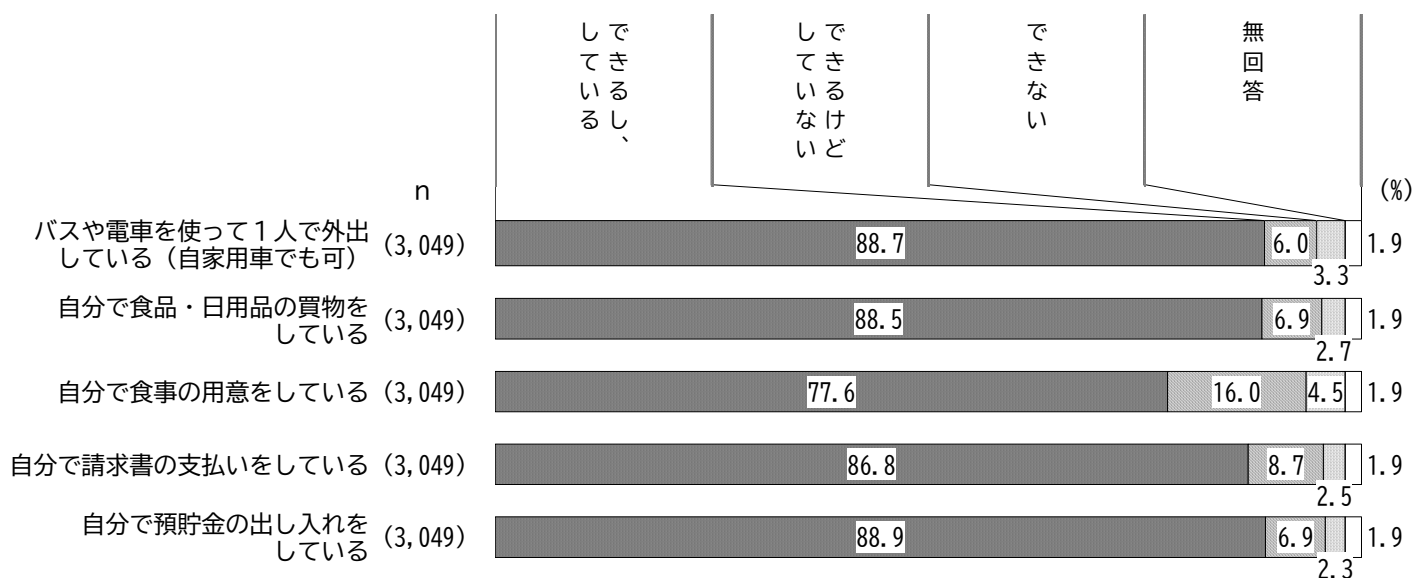
バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)は、「できるし、している」が88.7%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が6.0%となっています。

自分で食品・日用品の買物をしていますか、は、「できるし、している」が88.5%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が6.9%となっています。

自分で食事の用意をしていますか、は、「できるし、している」が77.6%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が16.0%となっています。

自分で請求書の支払いをしていますか、は、「できるし、している」が86.8%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が8.7%となっています。

自分で預貯金の出し入れをしていますか、は、「できるし、している」が88.9%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が6.9%となっています。



(4) 手段的自立度 (IADL) リスク判定

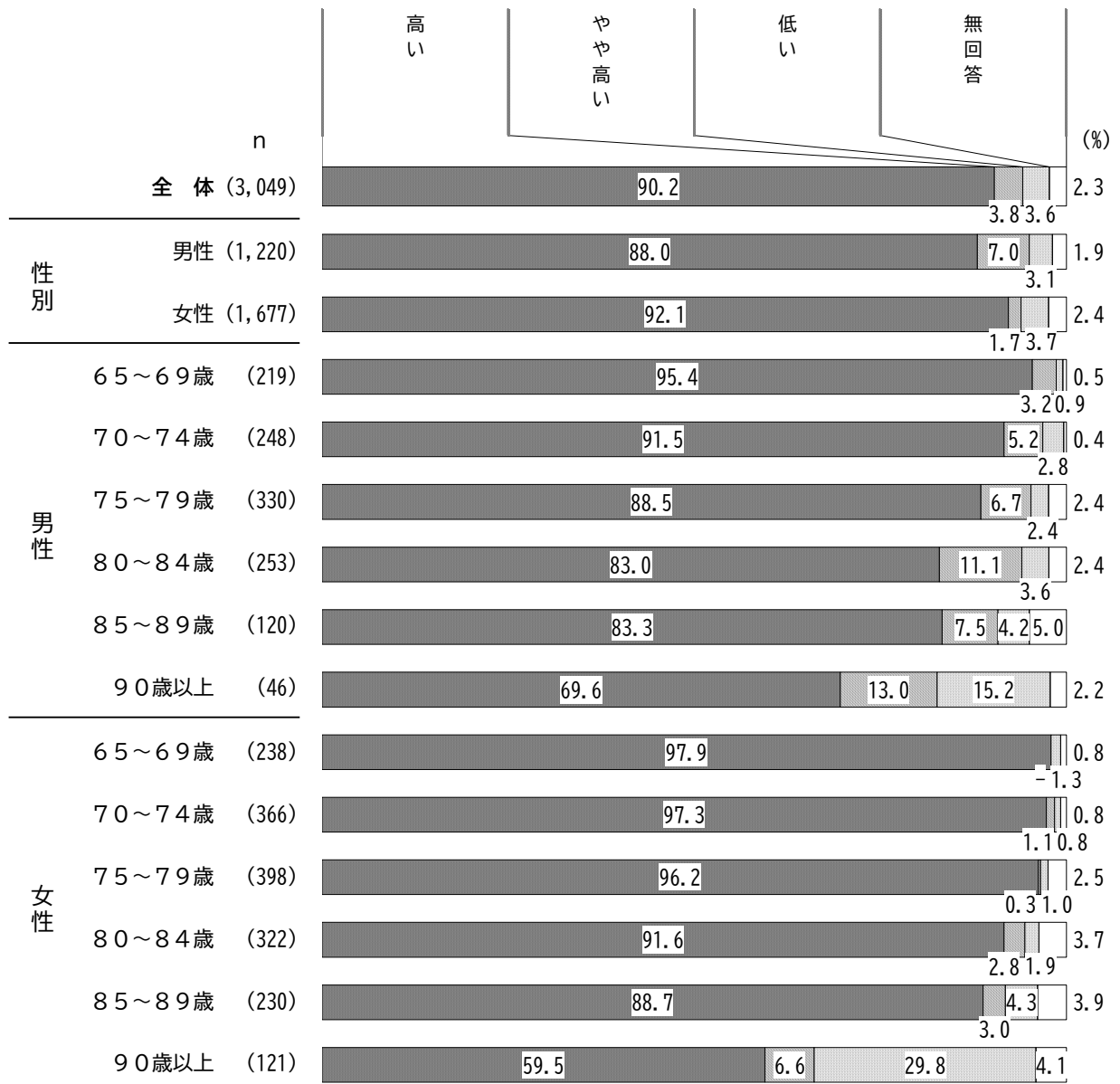
■手段的自立度 (IADL) の判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問4-Q4	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1.できるし、している」 「2.できるけどしていない」 各1点
問4-Q5	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	
問4-Q6	自分で食事の用意をしていますか	
問4-Q7	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4-Q8	自分で預貯金の出し入れをしていますか	
判定	5点：高い　4点：やや高い　0～3点：低い	

手段的自立度 (IADL) が「低い」と判定された人の割合は、3.6%となっています。

性別でみると、「高い」は女性 (92.1%) が男性 (88.0%) より4.1ポイント高くなっています。

性年齢別でみると、男女とも、年齢が上がるにつれ「高い」から「低い」へと移行する傾向があります。女性は90歳以上で、「高い」が6割を切っています。



(5) 知的能動性について

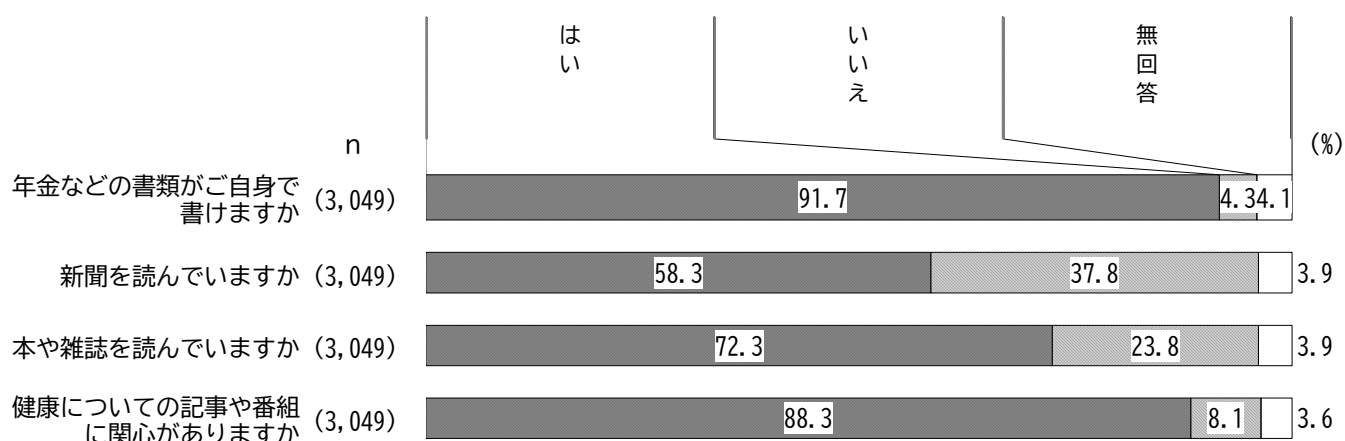
(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）がご自身で書けますか。（○は1つ）
(10) 新聞を読んでいますか。（○は1つ）
(11) 本や雑誌を読んでいますか。（○は1つ）
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか。（○は1つ）

年金などの書類（役所や病院などに出す書類）がご自身で書けますかは、「はい」が91.7%、「いいえ」が4.3%となっています。

新聞を読んでいますかは、「はい」が58.3%、「いいえ」が37.8%となっています。

本や雑誌を読んでいますかは、「はい」が72.3%、「いいえ」が23.8%となっています。

健康についての記事や番組に関心がありますかは、「はい」が88.3%、「いいえ」が8.1%となっています。



(6) 知的能動性 リスク判定

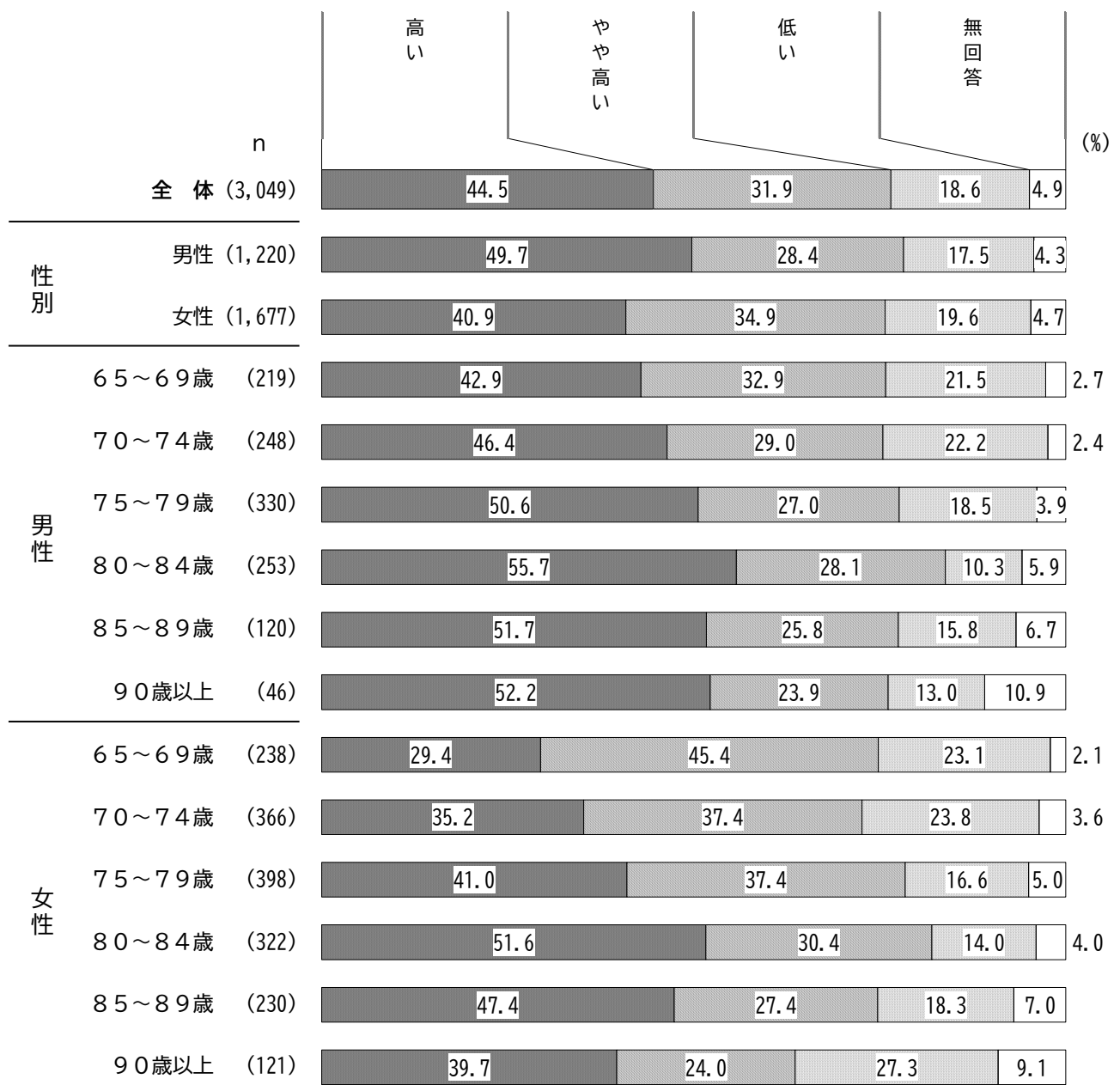
■知的能動性リスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問4-Q9	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）がご自身で書けますか。	「1. はい」 1点
問4-Q10	新聞を読んでいますか。	
問4-Q11	本や雑誌を読んでいますか。	
問4-Q12	健康についての記事や番組に関心がありますか。	
判定	4点：高い　3点：やや高い　0～2点：低い	

知的能動性リスクが「低い」と判定されたのは、18.6%となっています。

性別でみると、「低い」は女性（19.6%）が男性（17.5%）より2.1ポイント高くなっています。

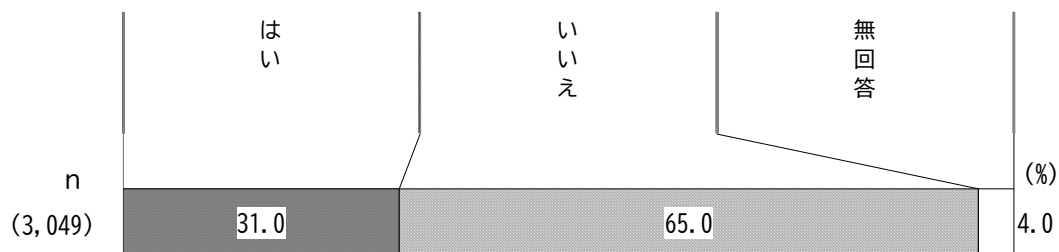
性年齢別でみると、最も「高い」は男性の80～84歳で55.7%となっています。



(7) 友人の家を訪ねることの有無

(13) 友人の家を訪ねていますか (○は1つ)

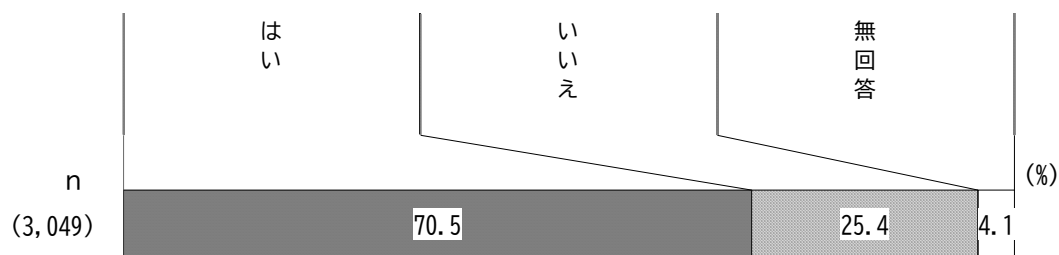
友人の家を訪ねることの有無は、「はい」が31.0%、「いいえ」が65.0%となっています。



(8) 家族や友人の相談にのった経験

(14) 家族や友人の相談にのっていますか (○は1つ)

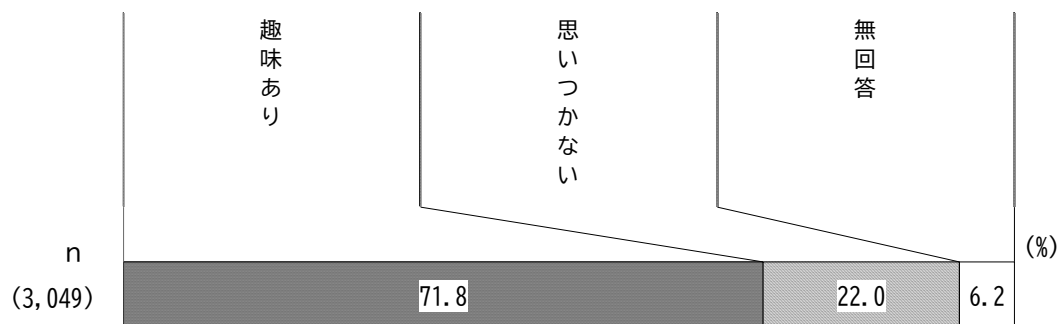
家族や友人の相談にのった経験は、「はい」が70.5%、「いいえ」が25.4%となっています。



(9) 趣味の有無

(15) 趣味はありますか (○は1つ)

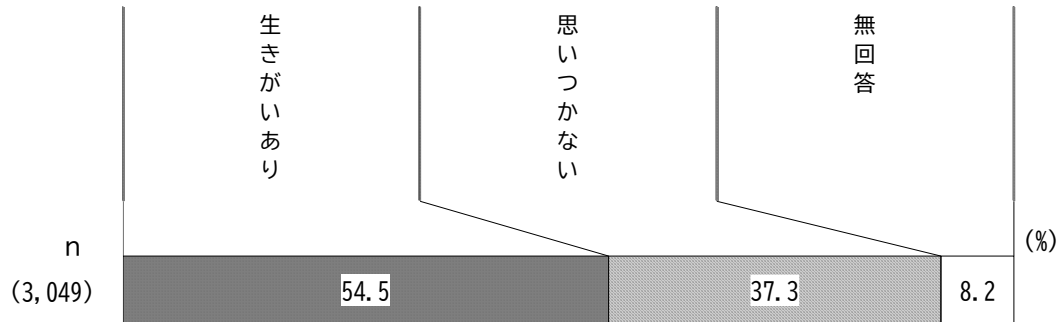
趣味の有無は、「趣味あり」が71.8%、「思いつかない」が22.0%となっています。



(10) 生きがいの有無

(16) 生きがいはありますか。(〇は1つ)

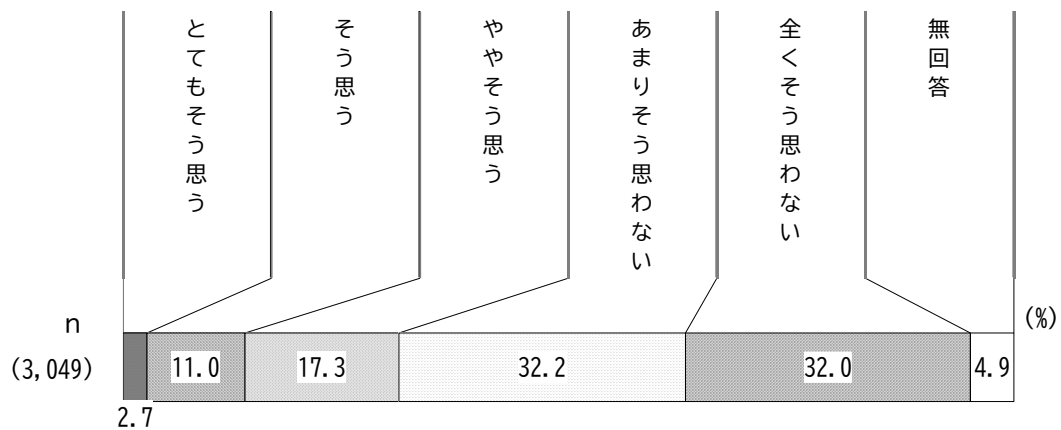
生きがいの有無は、「生きがいあり」が54.5%、「思いつかない」が37.3%となっています。



(11) 地域の人からの役割期待の有無

(17) あなたは、お住いの地域の人から何らかの役割を期待され、頼りにされていると思いますか（自分なりにできること、会やグループでの取りまとめ役、隣近所のお手伝いやお願い事など）(〇は1つ)

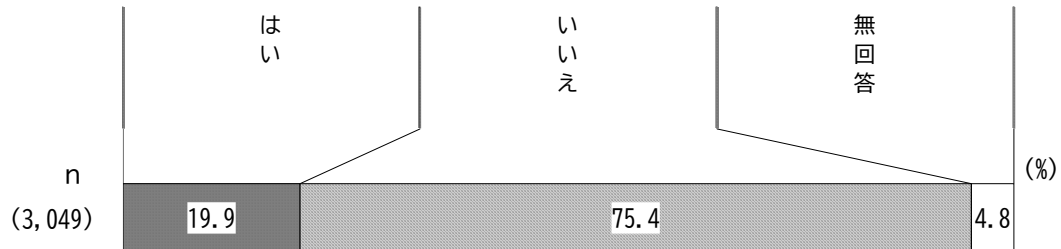
地域の人からの役割期待の有無は、「あまりそう思わない」が32.2%で最も高く、次いで「全くそう思わない」が32.0%となっています。



(12) 生活の充実感の有無

(18) ここ2週間で、毎日の生活に充実感がないと感じますか。(○は1つ)

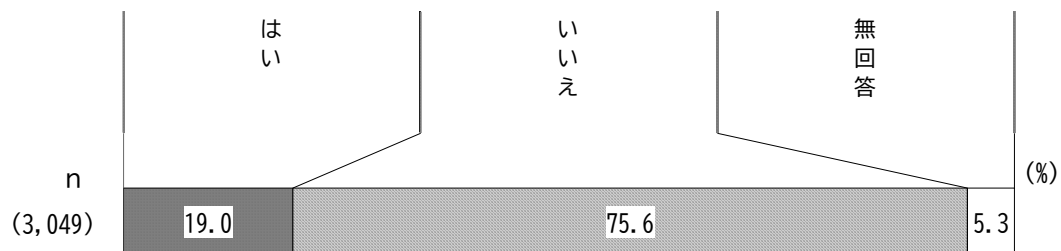
生活の充実感の有無は、「はい」が19.9%、「いいえ」が75.4%となっています。



(13) 自分が役に立つ人間だと思えない感じの有無

(19) ここ2週間で、自分が役に立つ人間だと思えないと感じますか。(○は1つ)

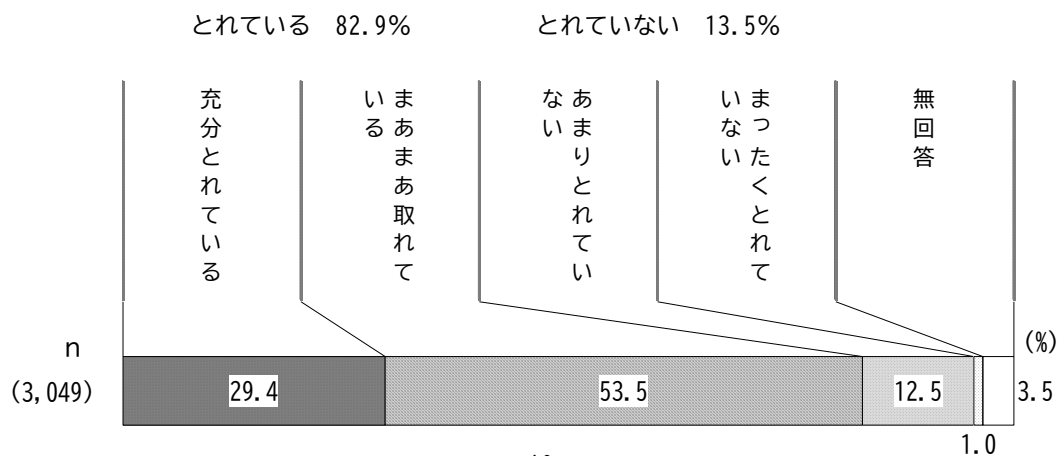
自分が役に立つ人間だと思えない感じの有無は、「はい」が19.0%、「いいえ」が75.6%となっています。



(14) 睡眠での休養

(20) ここ1か月間、あなたは睡眠で休養がとれていますか(○は1つ)

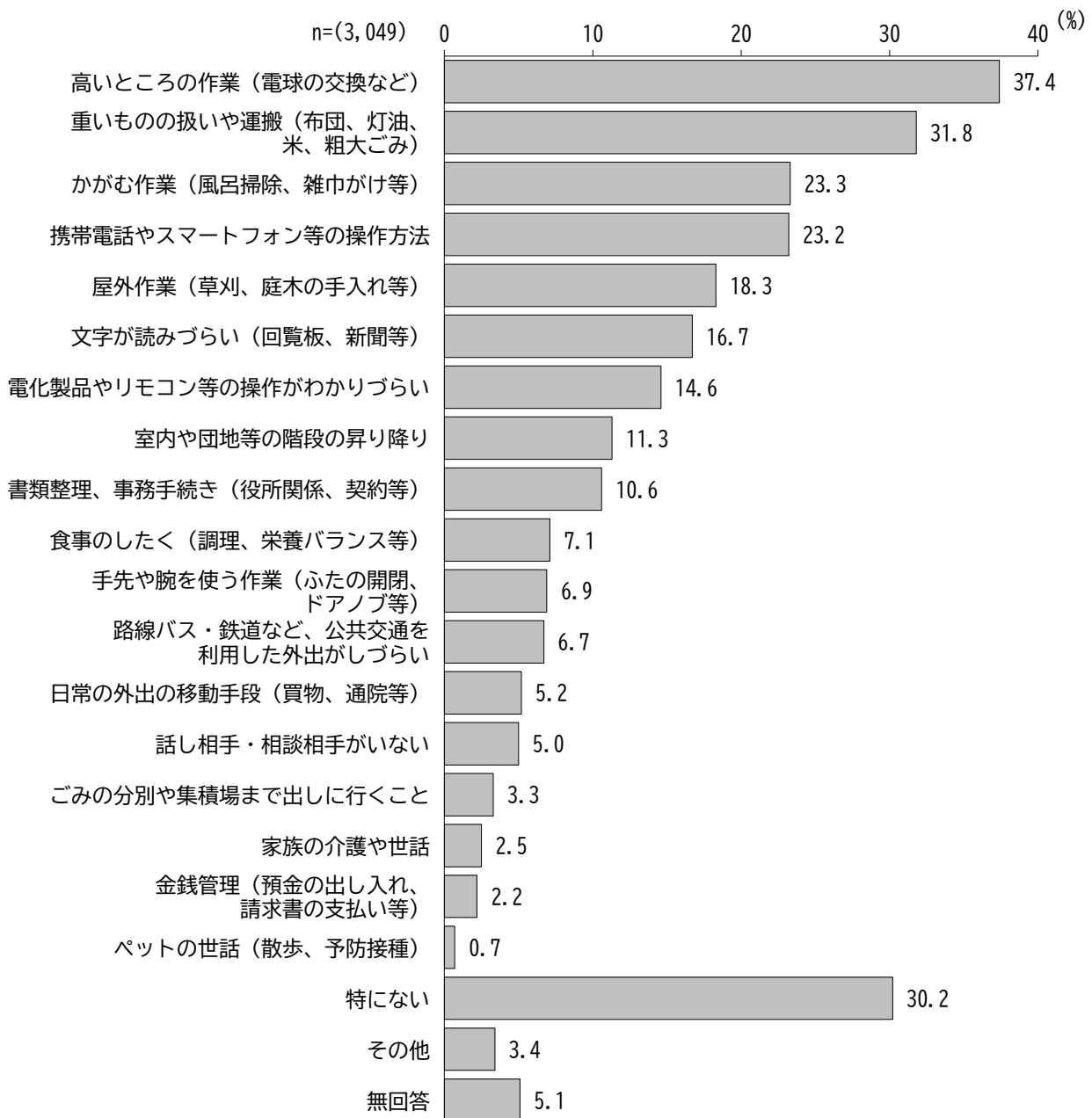
睡眠での休養は、「充分とれている」と「まあまあ取れている」を合わせた《とれている》が82.9%、「あまりとれていない」と「まったくとれていない」を合わせた《とれていない》が13.5%となっています。



(15) 日常生活の中で困っていること

(21) 日常生活の中で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

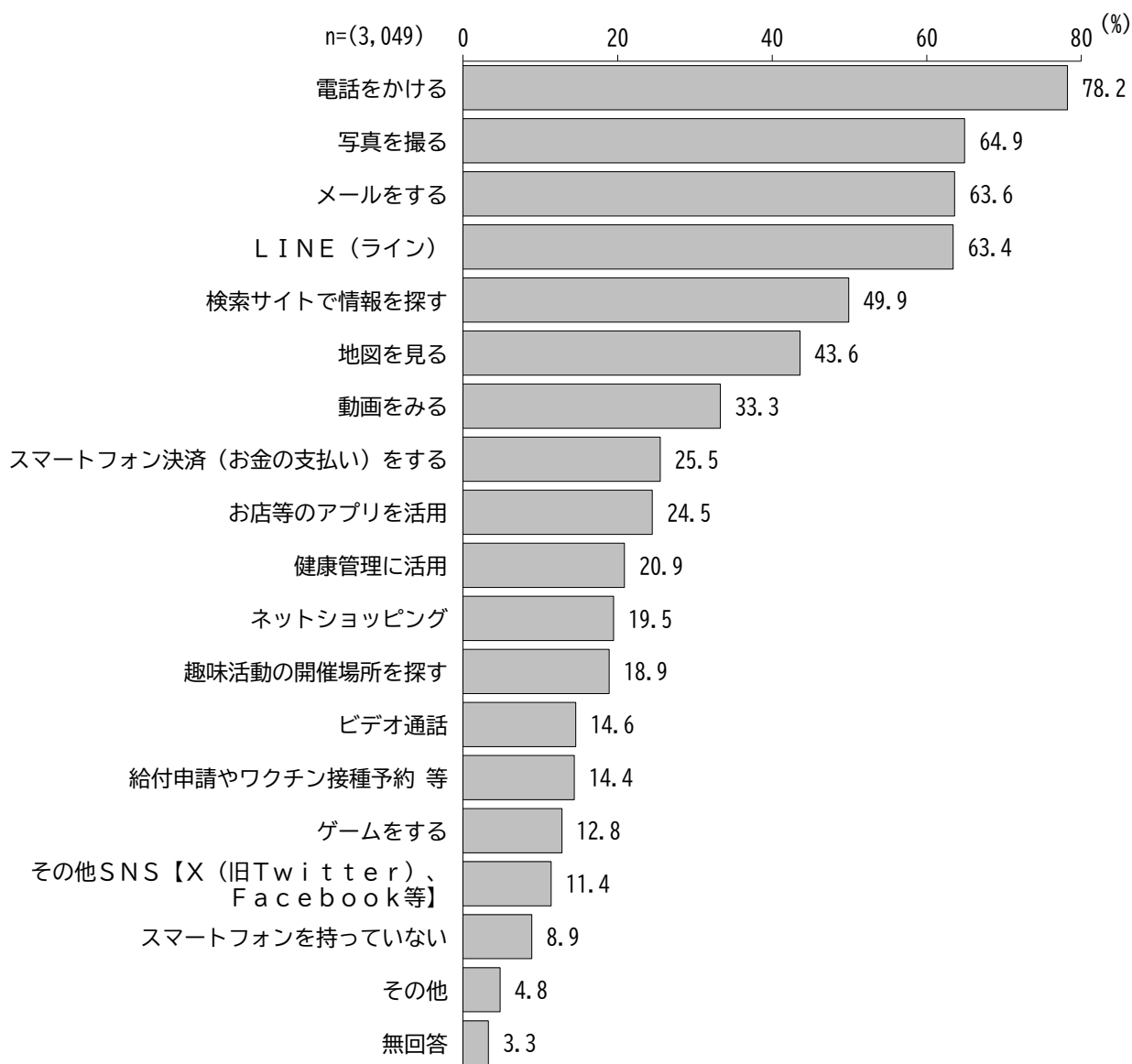
日常生活の中で困っていることは、「高いところの作業（電球の交換など）」が37.4%と最も高く、次いで「重いものの扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」31.8%、「かがむ作業（風呂掃除、雑巾がけ等）」23.3%、「携帯電話やスマートフォン等の操作方法」23.2%となっています。



(16) スマートフォンの活用状況

(22) スマートフォンをどんな時に活用しますか（○はいくつでも）

スマートフォンの活用状況は、「電話をかける」が78.2%、「写真を撮る」64.9%、「メールをする」63.6%、「LINE（ライン）」63.4%と続いています。



6. 地域での活動について（問5）

（1）グループや社会活動への参加について

（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
（①～⑨それぞれにご回答ください）（○は1つずつ）

グループや社会活動への参加については、「週4回以上」～「年に数回」を合わせた参加している割合が高い活動は、多い順に⑥図書館の利用が36.5%、③趣味関係のグループが27.6%、⑨収入のある仕事が24.3%、②スポーツ関係のグループやクラブが22.8%と続いています。

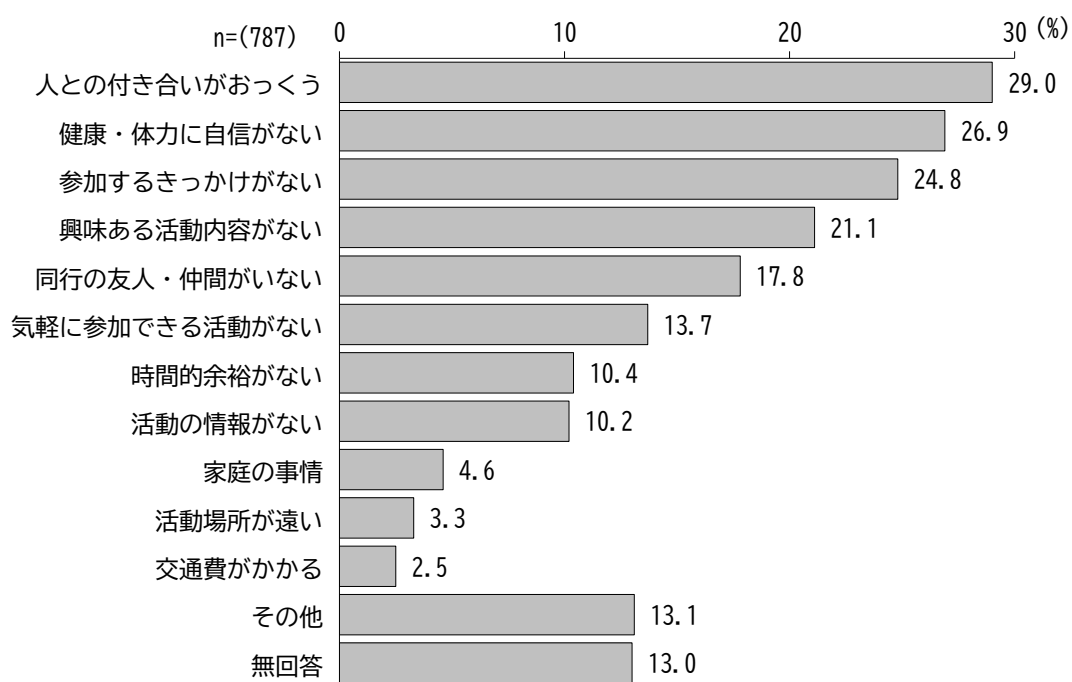
また、⑧町内会・自治会は「年に数回」が15.0%と最も高く、⑨収入のある仕事は「週4回以上」が12.1%と高くなっています。一方、すべての活動で「参加していない」が4割以上となっています。

	調査数 (n)	参加している					(件,%)		「参加している」
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	
① ボランティアの活動	3,049	1.0	2.0	1.6	4.9	3.4	64.4	22.6	12.9
② スポーツ関係のグループやクラブ	3,049	3.9	7.1	5.1	4.7	2.0	56.5	20.8	22.8
③ 趣味関係のグループ	3,049	2.5	5.4	5.0	10.8	3.9	52.6	19.9	27.6
④ 学習・教養サークル	3,049	0.4	1.1	1.7	3.5	2.1	64.5	26.5	8.8
⑤ 健康づくりや介護予防のための通いの場	3,049	1.7	1.8	3.1	2.0	1.1	66.0	24.2	9.7
⑥ 図書館の利用	3,049	1.6	3.7	5.4	11.4	14.4	42.7	20.8	36.5
⑦ 老人クラブ	3,049	0.3	0.5	0.4	1.5	0.5	70.7	26.1	3.2
⑧ 町内会・自治会	3,049	0.3	0.5	0.6	6.3	15.0	53.1	24.2	22.7
⑨ 収入のある仕事	3,049	12.1	7.4	1.3	2.1	1.4	52.7	23.0	24.3

(2) グループや社会活動に参加していない理由

(2) 上記のグループ活動に参加していない理由があれば教えてください (○はいくつでも)

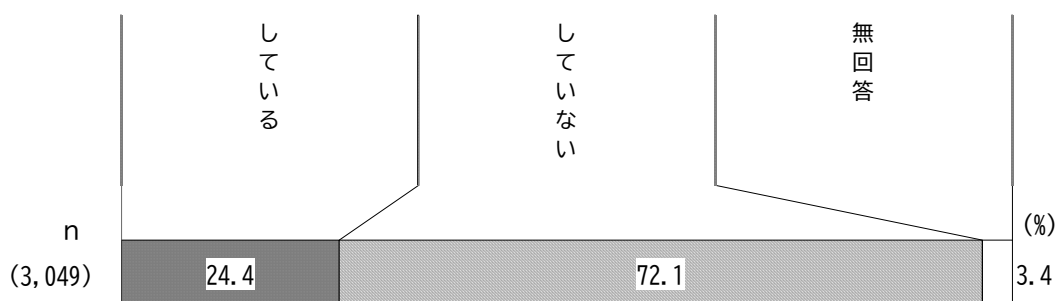
グループや社会参加に参加していない理由は、「人との付き合いがおっくう」が29.0%と最も高く、次いで「健康・体力に自信がない」26.9%、「参加するきっかけがない」24.8%、「興味ある活動内容がない」21.1%となっています。



(3) 特技や経験を活かした活動への参加状況

(3) 特技や経験を活かした活動をしていますか (○は1つ)

特技や経験を活かした活動への参加状況は「している」が24.4%、「していない」が72.1%となっています。

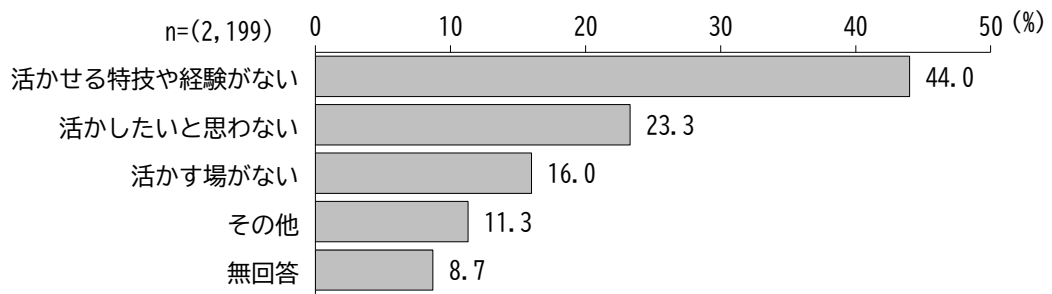


(4) 特技や経験を活かした活動へ参加していない理由

上記で「2. していない」に○をつけた方のみお答えください。

① それはどのような理由ですか（○はいくつでも）

特技や経験を活かした活動へ参加していない理由は、「活かせる特技や経験がない」が44.0%と最も高く、次いで「活かしたいと思わない」23.3%、「活かす場がない」16.0%となっています。

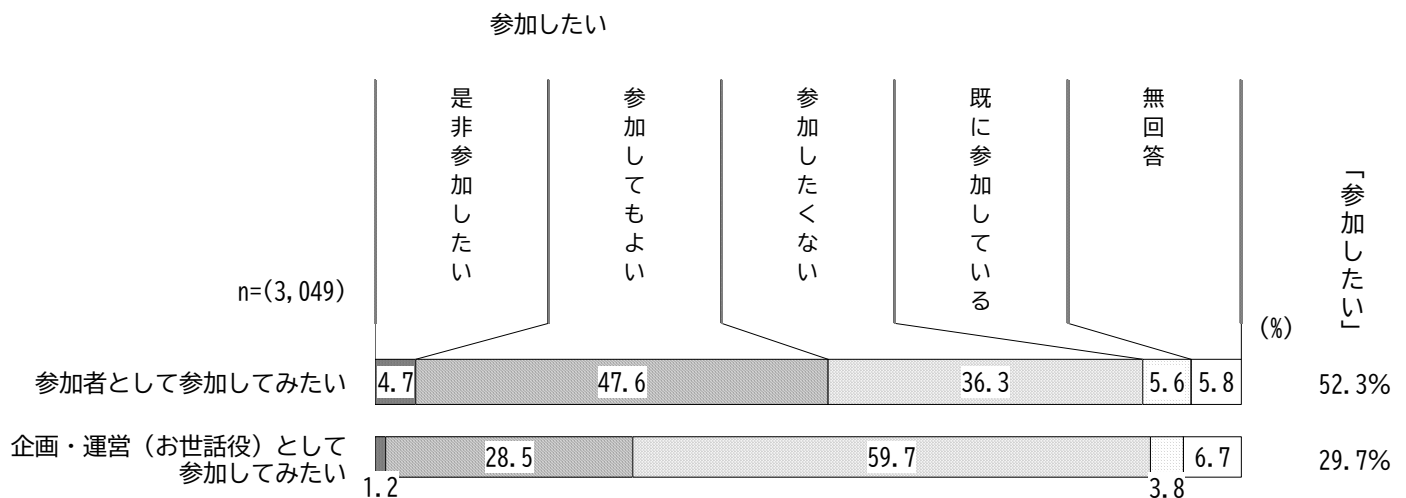


(5) 地域のグループ活動への参加意欲

(4) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○は1つ）

(5) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○は1つ）

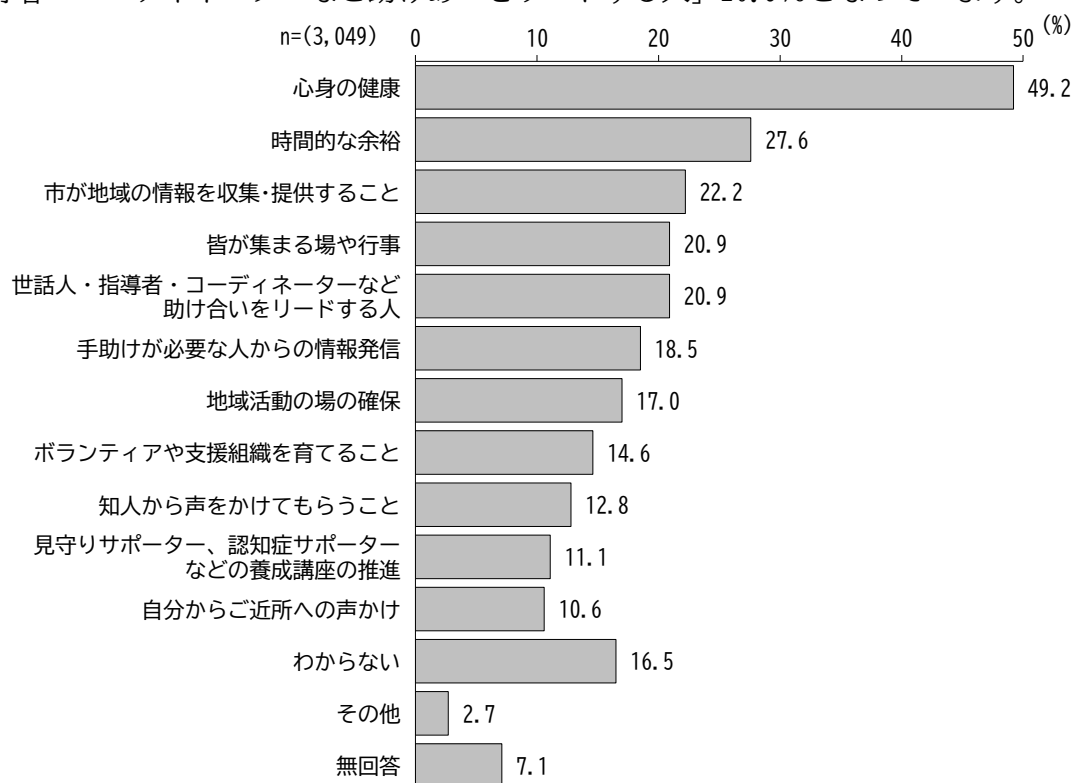
地域のグループ活動へ参加意欲については、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加したい割合は、「参加者として」が52.3%、「企画・運営（お世話役として）」が29.7%となっています。



(6) 見守りや助け合いに必要なこと

(6) 多摩市では、地域の中で、ゆるやかな見守りや助け合いの活動を促進したいと考えています。そのためには、何が必要だと思いますか（〇はいくつでも）

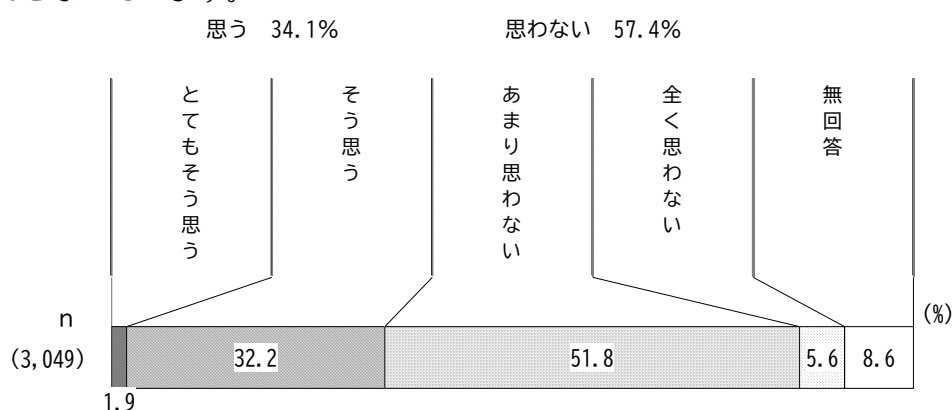
見守りや助け合いに必要なことは、「心身の健康」が49.2%と最も高く、次いで「時間的な余裕」27.6%、「市が地域の情報を収集・提供すること」22.2%、「皆が集まる場や行事」及び「世話人・指導者・コーディネーターなど助け合いをリードする人」20.9%となっています。



(7) 生涯学習ができる環境が整っているか

(7) 趣味・教養を深め、生きがいや余暇の充実などのため、生涯学習ができる環境が整っていると思いますか（〇は1つ）

生涯学習ができる環境が整っているかは、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた《思う》が34.1%となっています。一方、「全く思わない」と「あまり思わない」を合わせた《思わない》は57.4%となっています。



7. たすけあいについて（問6）

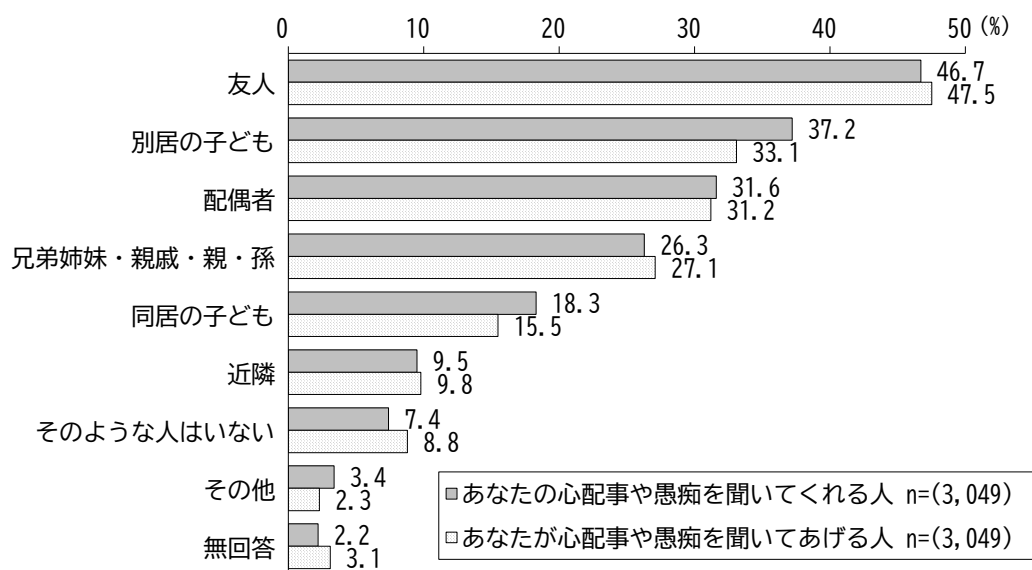
（1）心配事や愚痴を聞いてくれる人

（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（○はいいくつでも）

（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（○はいいくつでも）

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」が46.7%と最も高く、次いで「別居の子ども」が37.2%、「配偶者」31.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」26.3%となっています。

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」が47.5%と最も高く、次いで「別居の子ども」が33.1%、「配偶者」31.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」27.1%となっています。



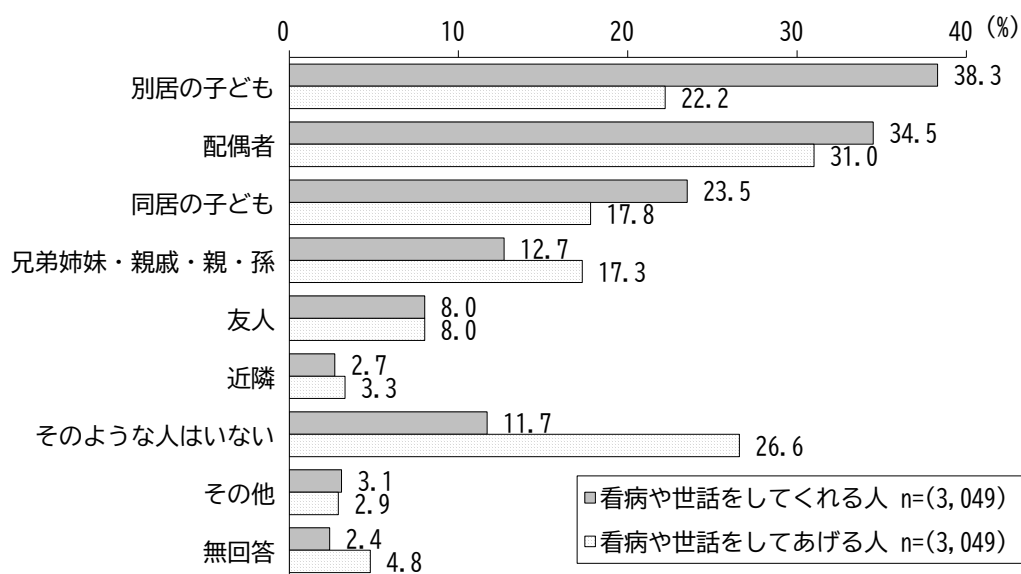
(2) 病気で寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人

(3) あなたが病気で寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか (○はいくつでも)

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。(○はいくつでも)

病気で寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人は、「別居の子ども」が38.3%と最も高く、次いで「配偶者」が34.5%、「同居の子ども」23.5%となっています。

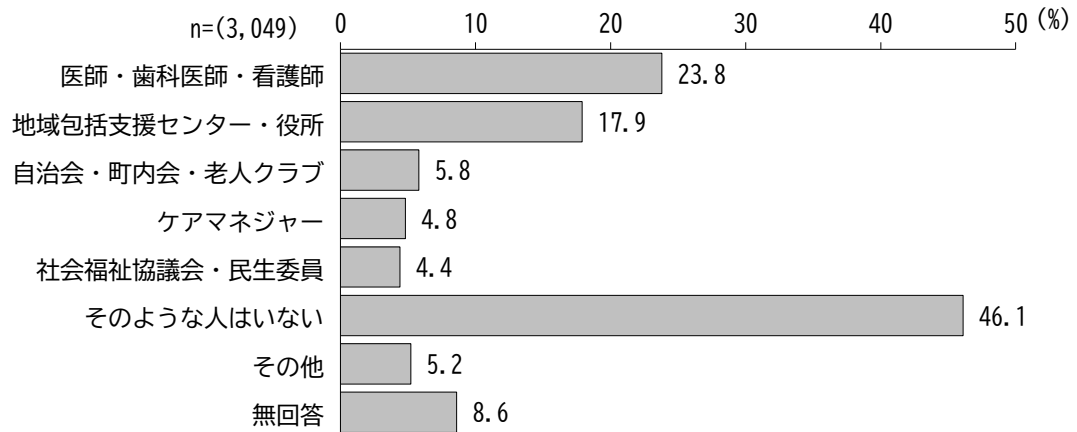
病気で寝込んだ時に、看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が31.0%と最も高く、次いで「別居の子ども」22.2%、「同居の子ども」17.8%となっています。



(3) 何かあったときに相談する相手

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(〇はいくつでも)

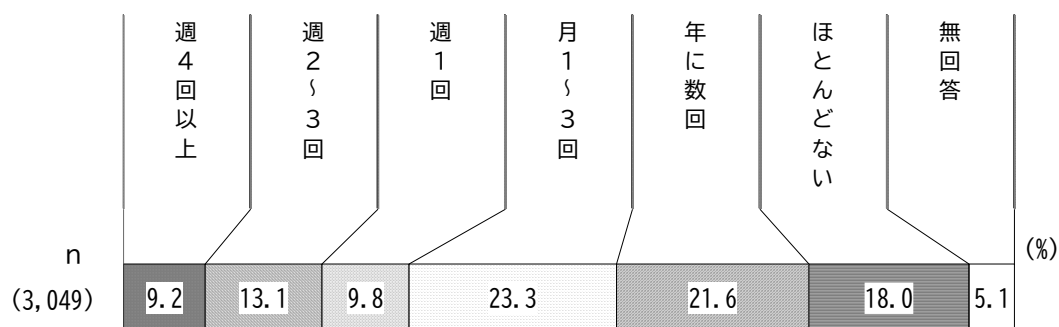
何かあったときに相談する相手は、「そのような人はいない」が46.1%で最も高くなっています。一方、具体的な相手では、「医師・歯科医師・看護師」が23.8%と最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所」が17.9%となっています。



(4) 友人・知人と会う頻度

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(〇は1つ)

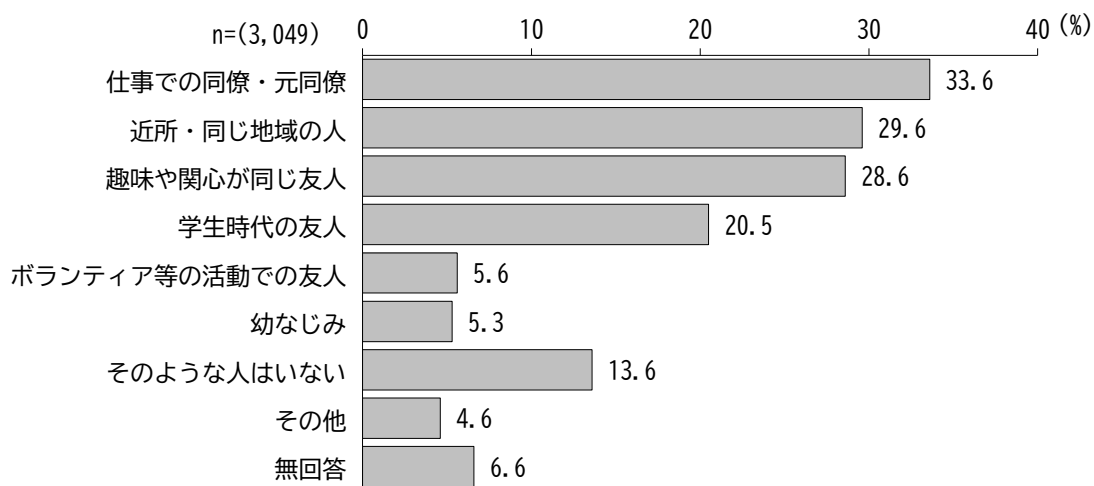
友人・知人と会う頻度は、「月1～3回」が23.3%と最も高く、次いで「年に数回」が21.6%、「週に2～3回」13.1%となっています。



(5) よく会う・知人の関係

(7) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

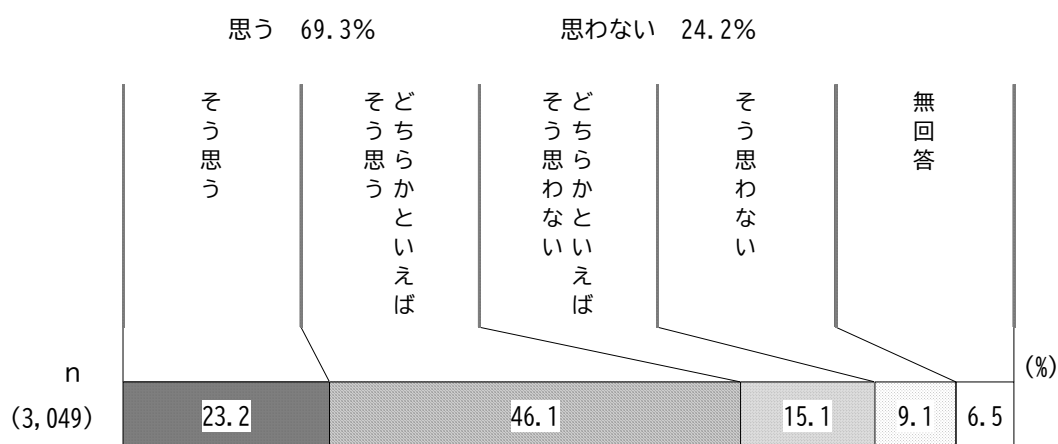
よく会う・知人の関係は、「仕事での同僚・元同僚」が33.6%と最も高く、次いで「近所・同じ地域の人」29.6%、「趣味や関心が同じ友人」28.6%、「学生時代の友人」20.5%となっています。



(6) 近隣の人への信頼

(8) 近隣の方は信頼できると思いますか (〇は1つ)

近隣の人への信頼は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《思う》が69.3%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《思わない》は24.2%となっています。



8. 健康について（問7）

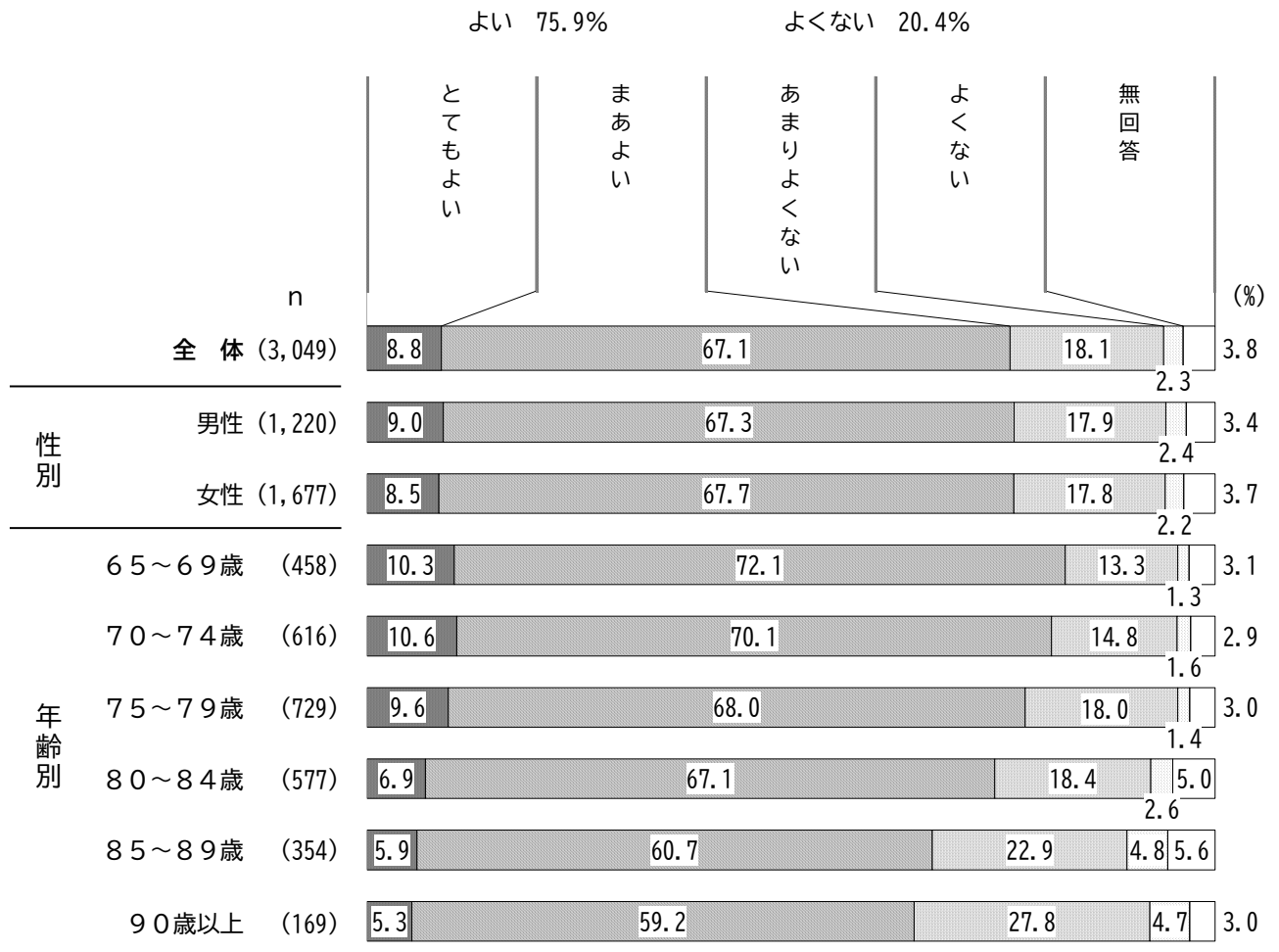
（1）健康状態

（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか。（○は1つ）

健康状態は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた《よい》が75.9%となっています。

性別でみると、あまり大きな差はみられません。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、「よい」が低下する傾向があります。



(2) 幸福度

(2) あなたは、現在どの程度、幸せと感じますか。(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○を1つ)

幸福度は、「8点」が24.9%と最も高く、次いで「5点」18.0%、「7点」15.8%、「10点」10.3%となっています。

5点～10点を合わせると88.1%、8点～10点では44.4%となっています。また、無回答を除いた回答の平均は7.02点でした。

調査数 (n)	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点～10点 88.1%						無回答	平均点
						5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)		
3,049	0.3	0.3	1.0	2.1	3.1	18.0	9.9	15.8	24.9	9.2	10.3	5.1	7.02

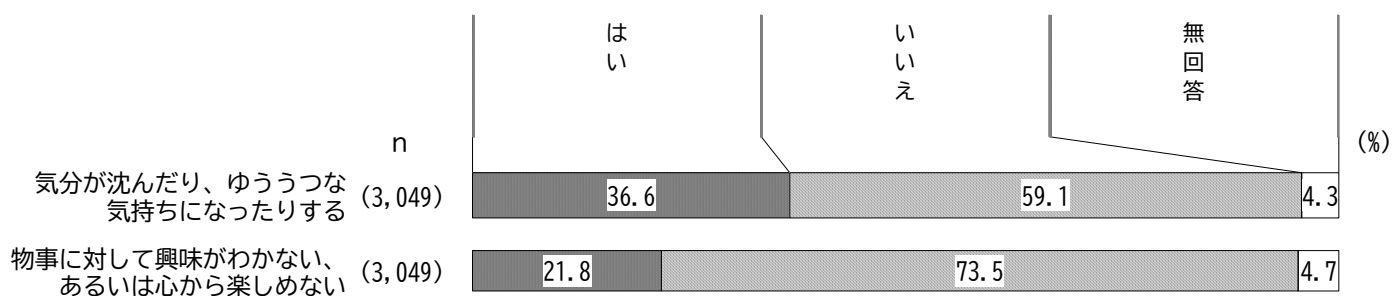
(3) 気持ちの状態について

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○は1つ)

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(○は1つ)

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったかについては、「はい」が36.6%、「いいえ」が59.1%となっています。

この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたかについては、「はい」が21.8%、「いいえ」が73.5%となっています。



(4) うつ リスク判定

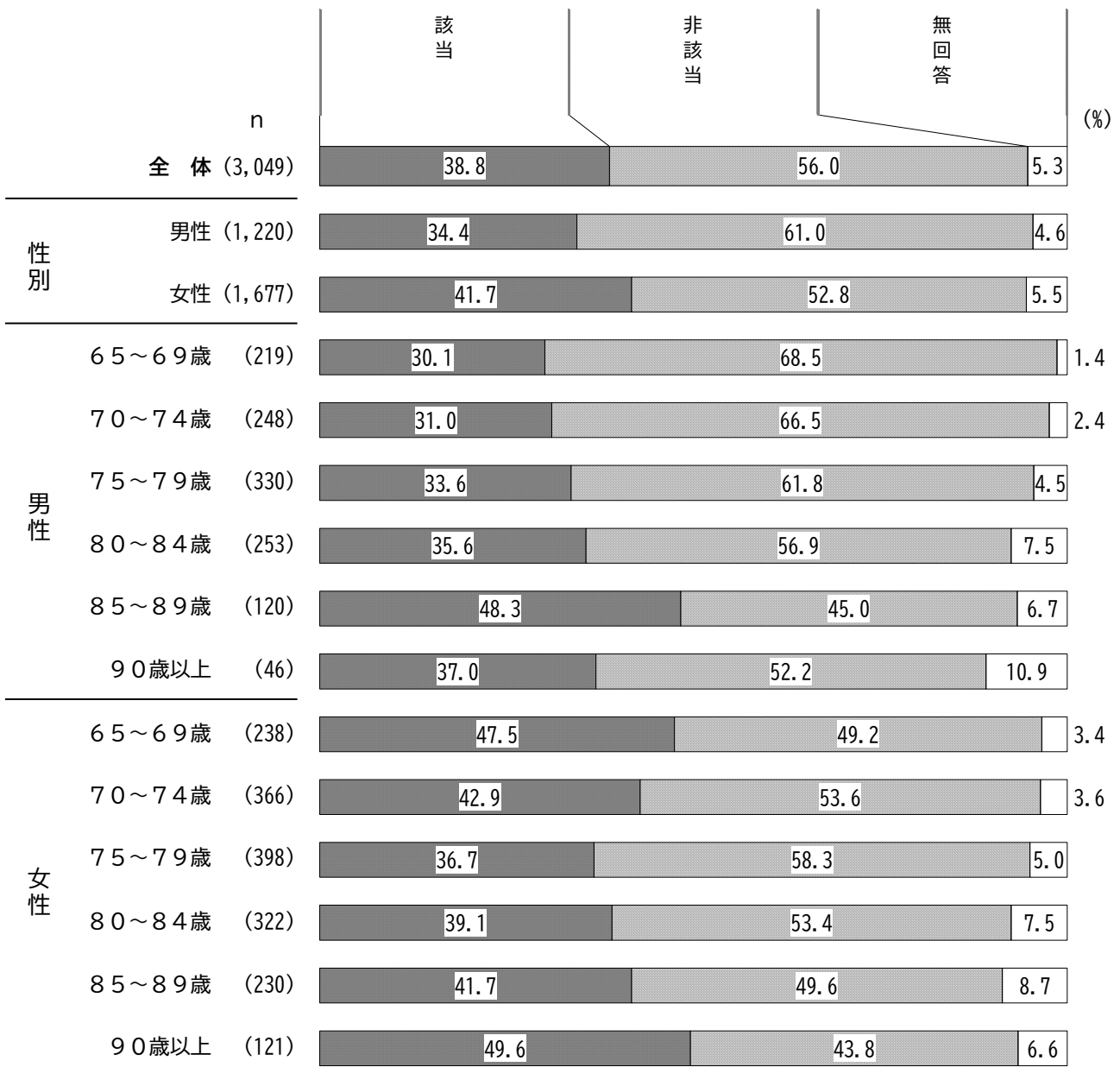
■うつリスクの判定・評価

問番号	設問	該当する選択肢
問8-Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	「1. はい」
問8-Q4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」
判定	1問以上、該当する選択肢が回答された場合は「該当」	

うつリスク判定は、「該当」が38.8%となっています。

性別でみると、「該当」は女性（41.7%）が男性（34.4%）より7.3ポイント高くなっています。

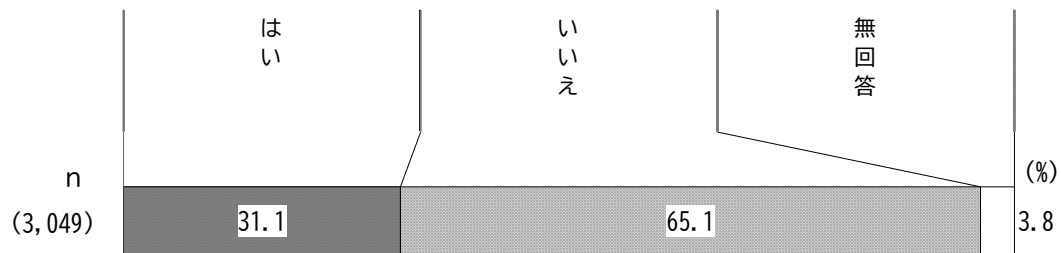
性年齢別でみると、男性は年齢が上がるとともに「該当」が高くなる傾向にあり、85～89歳で48.3%となっています。



(5) 心身の状態について

(5) ここ2週間で、以前は楽にできたことが、今はおっくうに感じられることがありますか (○は1つ)

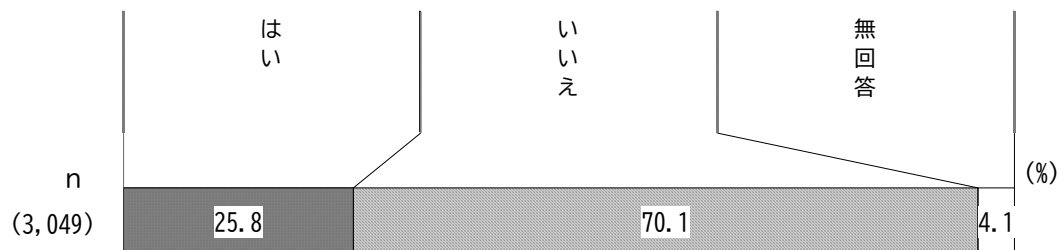
ここ2週間で、以前は楽にできたことが、今はおっくうに感じられることがありますかについては、「はい」が31.1%、「いいえ」が65.1%となっています。



(6) 疲労感について

(6) ここ2週間で、わけもなく疲れたような感じがすることがありますか (○は1つ)

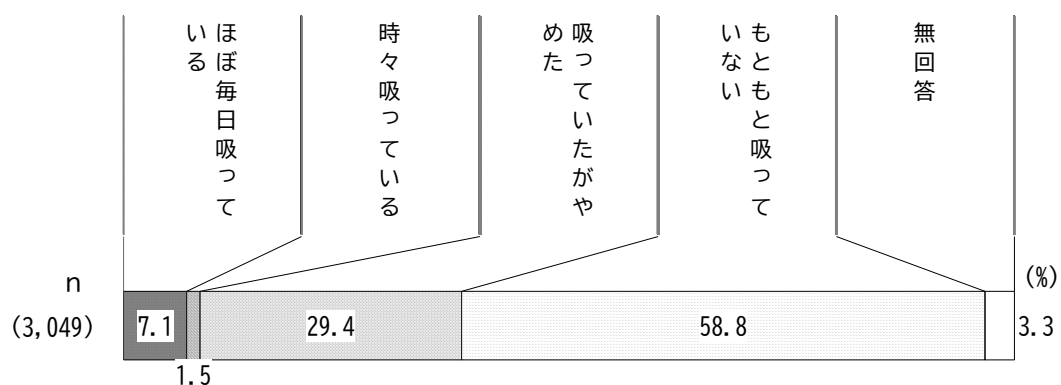
ここ2週間で、わけもなく疲れたような感じがすることがありますかについては、「はい」が25.8%、「いいえ」が70.1%となっています。



(7) 喫煙の有無

(7) タバコは吸っていますか。 (○は1つ)

喫煙の有無は、「もともと吸っていない」が58.8%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」29.4%、「ほぼ毎日吸っている」7.1%となっています。

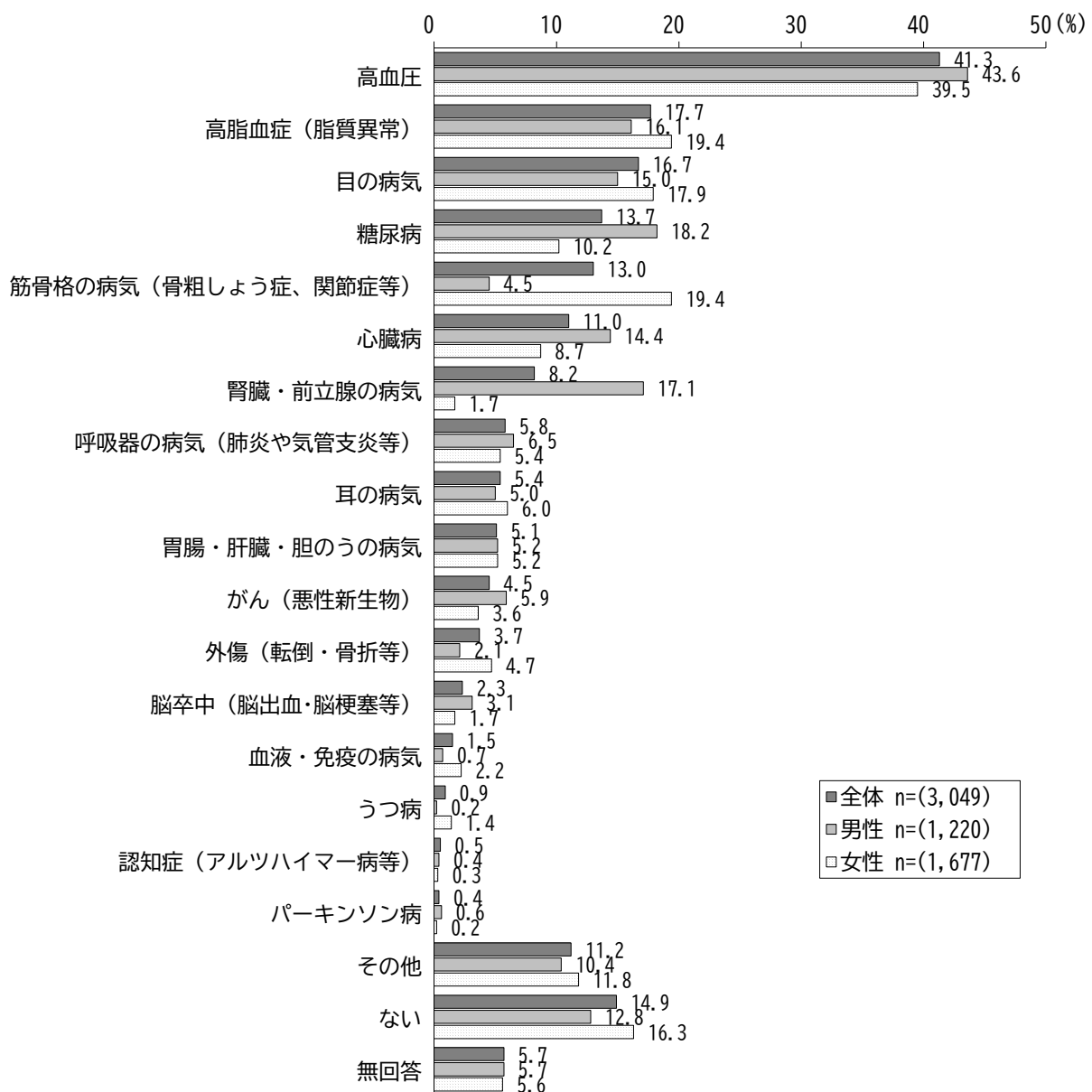


(8) 治療中、または後遺症のある病気

(8) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」が41.3%と最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」17.7%、「目の病気」16.7%、「糖尿病」13.7%となっています。

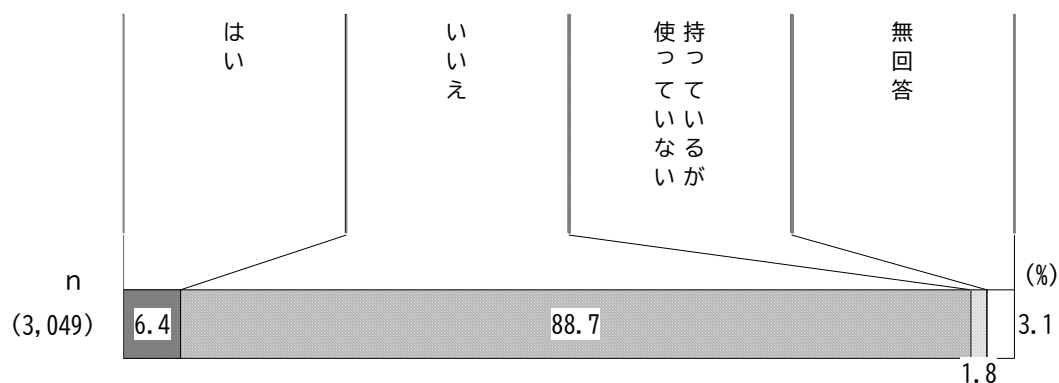
性別でみると、男性は「高血圧」「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」の割合が高く、女性は「高血圧」に続き、「高脂血症（脂質異常）」や「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が高くなっています。



(9) 補聴器使用の有無

(9) あなたは、現在、補聴器を使用していますか。(○は1つ)

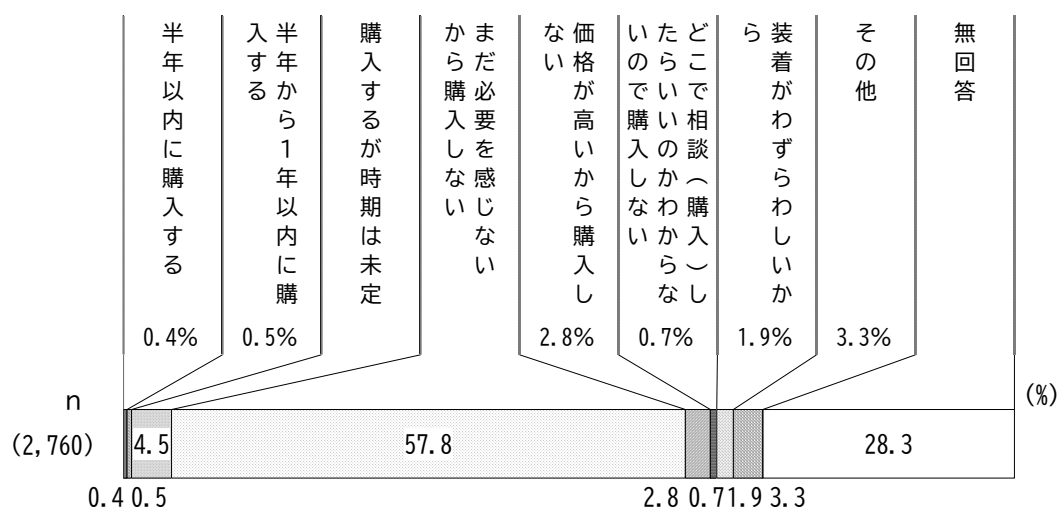
補聴器使用の有無は、「いいえ」が88.7%と最も高くなっています。一方、「はい」は6.4%となっています。



(10) 補聴器購入の予定、または購入しない理由

(10) 日常生活で聞こえにくいと感じるが、補聴器を使用していない場合、購入予定はありますか、または購入しない理由は何ですか。(○は1つ)

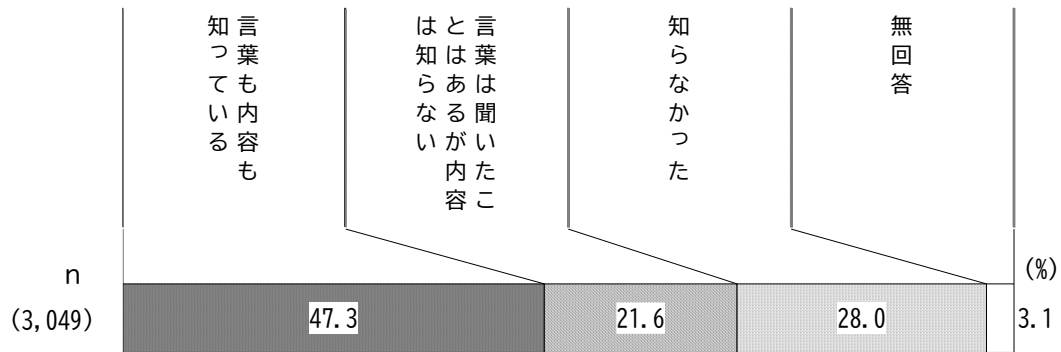
補聴器購入の予定、または購入しない理由は、「まだ必要を感じないから購入しない」が57.8%と最も多く、次いで「購入するが時期は未定」4.5%、「価格が高いから購入しない」2.8%となっています。



(11) フレイルの認知度

(11) 「フレイル」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

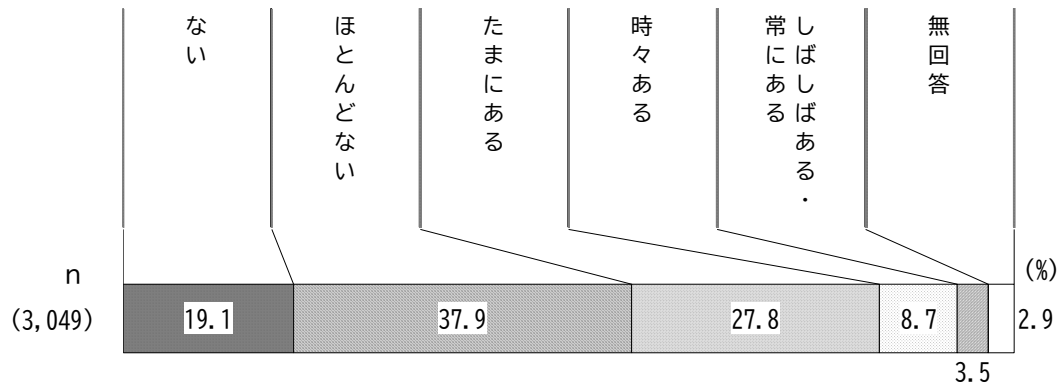
フレイルの認知度は、「言葉も内容も知っている」が47.3%と最も高くなっています。一方、「知らなかった」は28.0%となっています。



(12) 孤独を感じる頻度

(12) あなたはどの程度、孤独を感じることがありますか。(○は1つ)

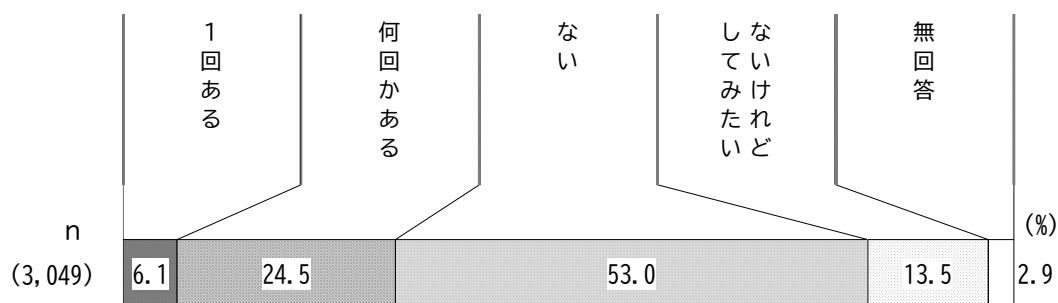
孤独を感じる頻度は、「ほとんどない」が37.9%と最も高く、次いで「たまにある」27.8%となっています。



(13) 人生の最終段階の医療やケアについて話し合った経験

(13) あなた自身がこれからの生き方や人生の最終段階で受けた医療、受けたくない医療またはケアについて、ご家族や医療・介護の関係者と、話し合ったことはありますか（○は1つ）

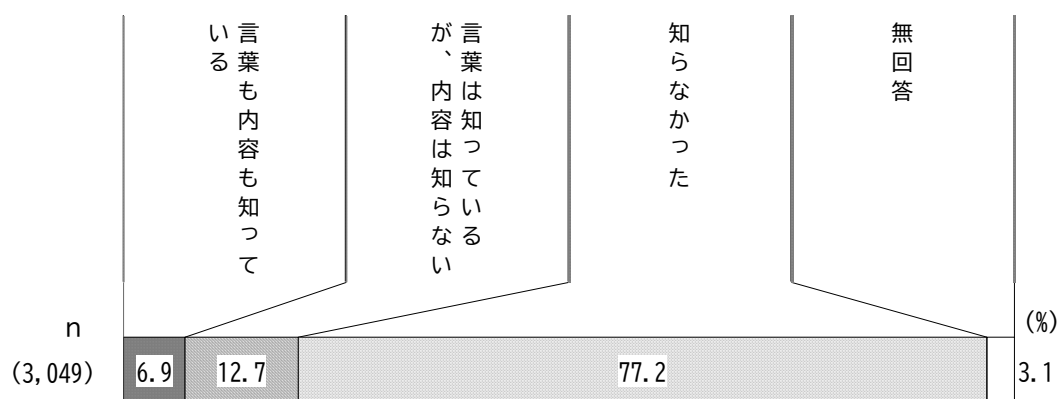
人生の最終段階の医療やケアについて話し合った経験は、「ない」が53.0%と最も高く、次いで「何回かある」24.5%となっています。



(14) アドバンス・ケア・プランニング<ACP>の認知度

(14) 自分自身のこれからの生き方や最後のことを信頼する人と話し合うことを、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング<ACP(エーシーピー)>）と呼ぶことを知っていましたか（○は1つ）

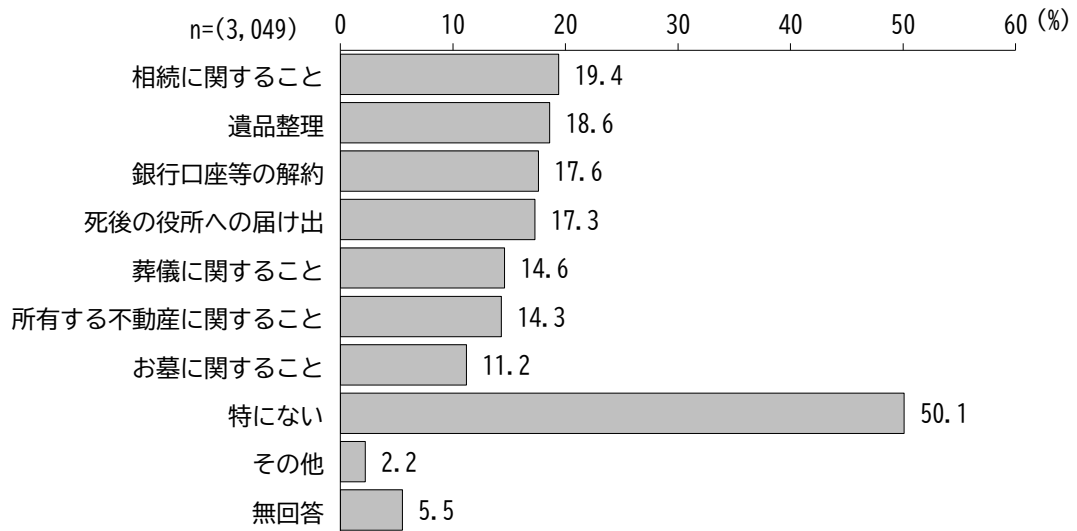
アドバンス・ケア・プランニング<ACP>の認知度は、「知らなかった」が77.2%と最も高く、次いで「言葉は知っているが、内容は知らない」12.7%となっています。



(15) 終末期および死後の手続き等で知りたいこと

(15) 終末期および死後の手続き等で知りたいことはありますか（〇はいくつでも）

終末期および死後の手続き等で知りたいことは、「特にない」が50.1%と最も高くなっています。知りたいことの具体的な内容としては、「相続に関すること」19.4%、「遺品整理」18.6%、「銀行口座等の解約」17.6%となっています。

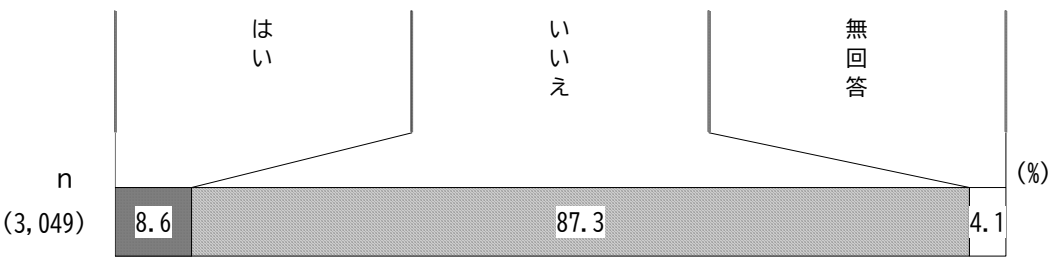


9. 認知症にかかる相談窓口の把握について（問8）

（1）認知症の症状の有無

（1）認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。（○は1つ）

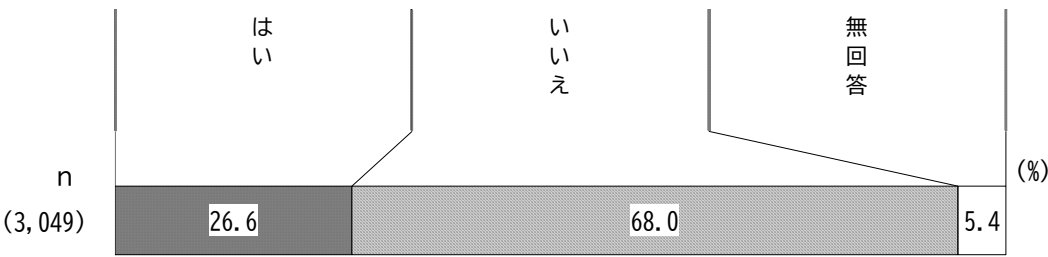
認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人の有無については、「いいえ」が87.3%、「はい」が8.6%となっています。



（2）認知症に関する相談窓口の認知度

（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか。（○は1つ）

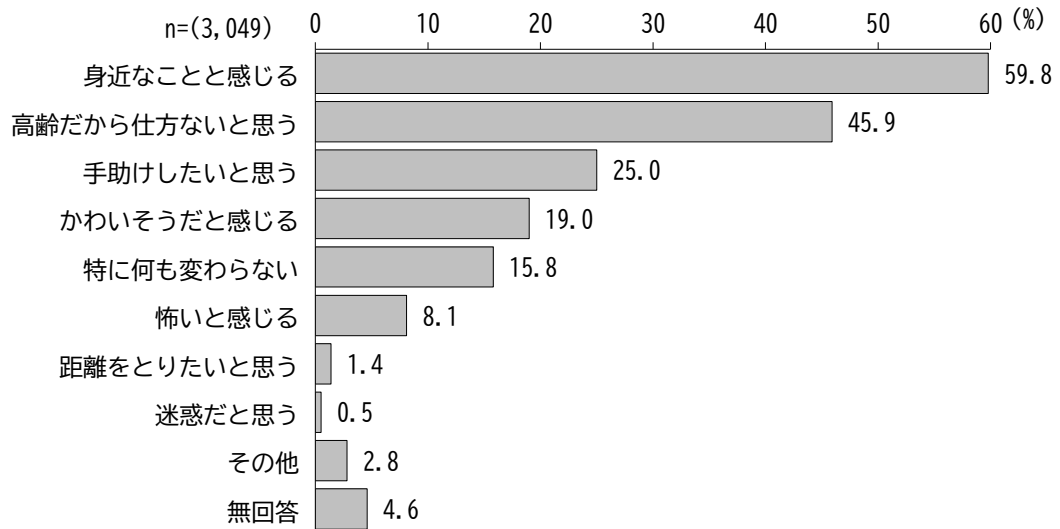
認知症に関する相談窓口の認知度については、「いいえ」が68.0%、「はい」が26.6%となっています。



(3) 認知症のある人への印象

(3) あなたは認知症のある人に対して、どのような印象を持っていますか (〇はいくつでも)

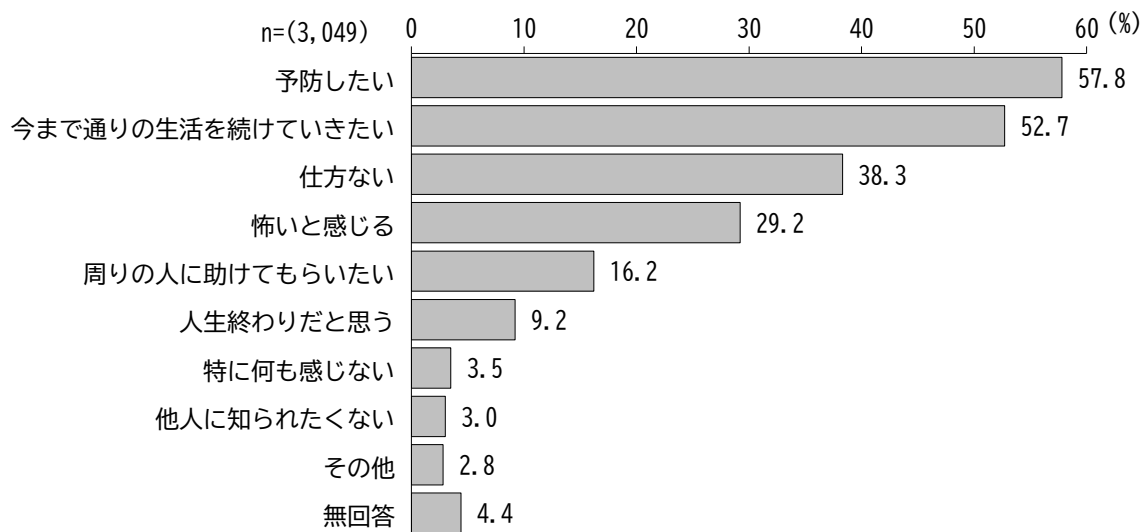
認知症のある人への印象は、「身近なことと感じる」が59.8%と最も高く、次いで「高齢だから仕方ないと思う」45.9%、「手助けしたいと思う」25.0%となっています。



(4) 認知症を発症することへの印象

(4) あなた自身が認知症を発症することについて、どのような印象を持っていますか (〇はいくつでも)

認知症を発症することへの印象は、「予防したい」が57.8%と最も高く、次いで「今まで通りの生活を続けていきたい」52.7%、「仕方ない」38.3%となっています。

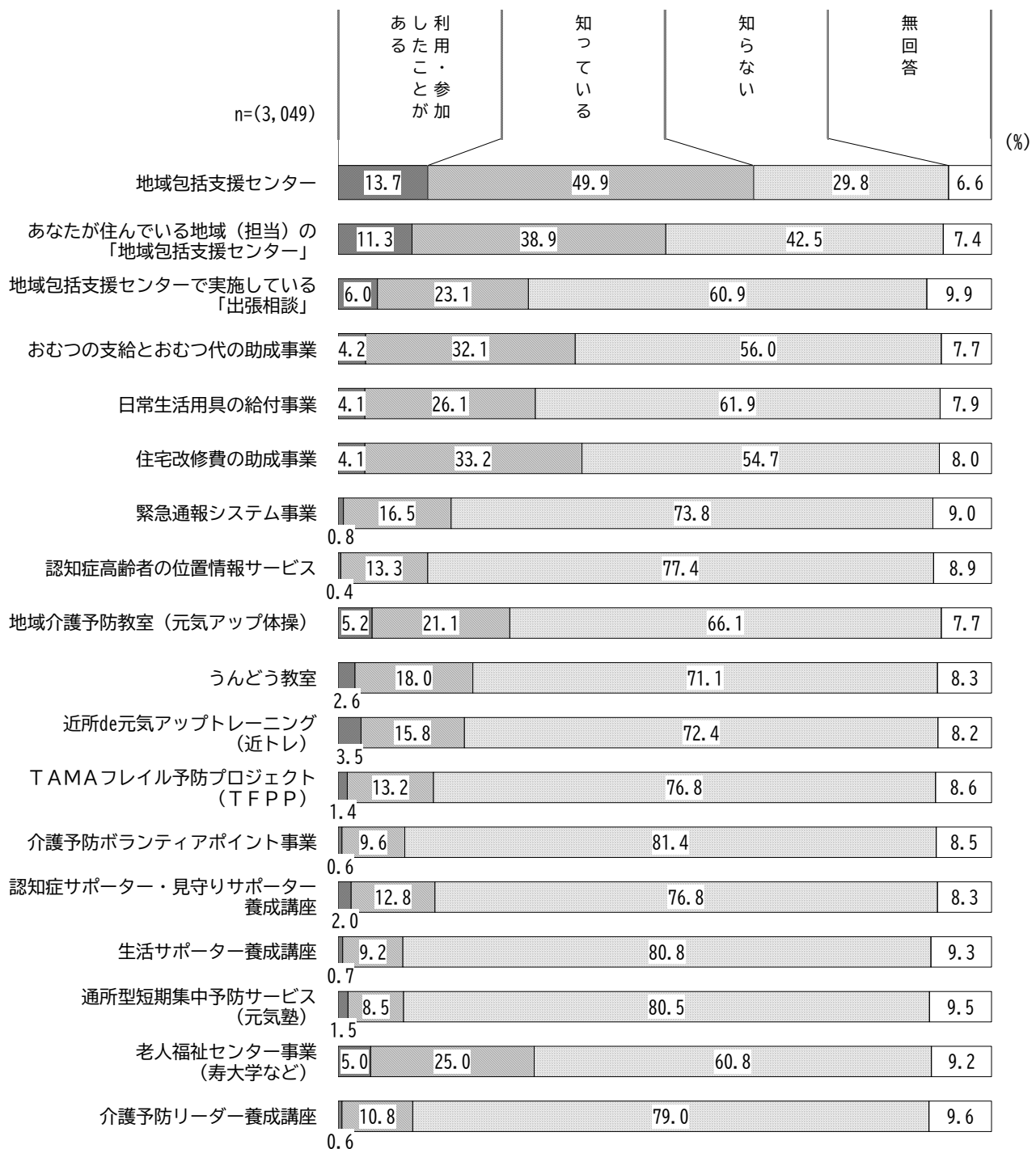


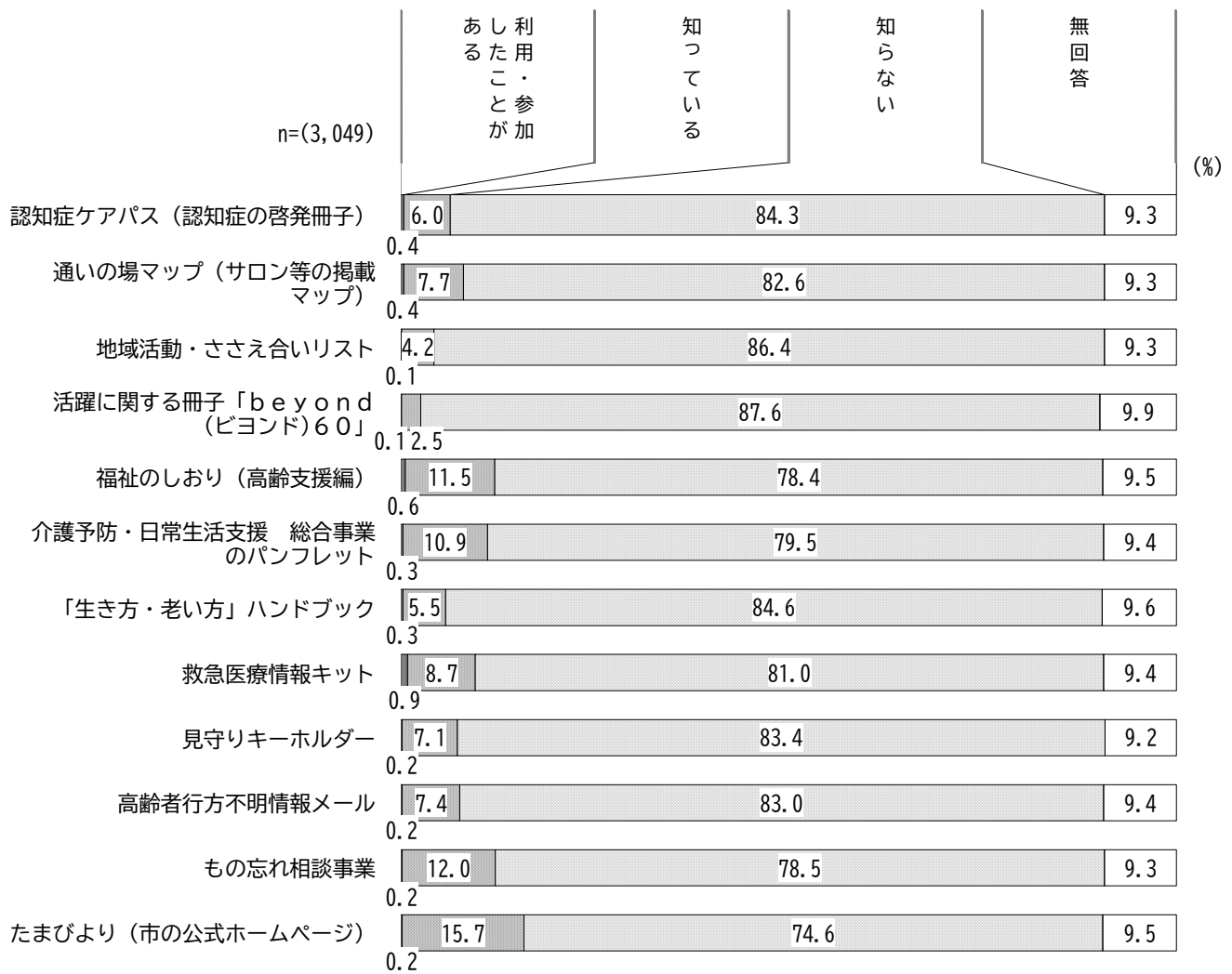
10. 多摩市の事業等について（問9）

（1）高齢者向け福祉事業についての認知度

（1）次の高齢者向け福祉事業について、利用（参加）したことがある、またはご存知ですか。1～30の事業名などについて、それぞれにご回答ください（○は1つずつ）

高齢者向け福祉事業についての認知度は、「利用・参加したことがある」は「地域包括支援センター」が13.7%、次いで「あなたが住んでいる地域（担当）の「地域包括支援センター」」11.3%、「地域包括支援センターで実施している「出張相談」」6.0%と続きます。一方、「知らない」は「活躍に関する冊子「beyond（ビヨンド）60」」が87.6%、次いで「地域活動・支えあいリスト」86.4%、「生き方・老い方」ハンドブック」84.6%となっています。





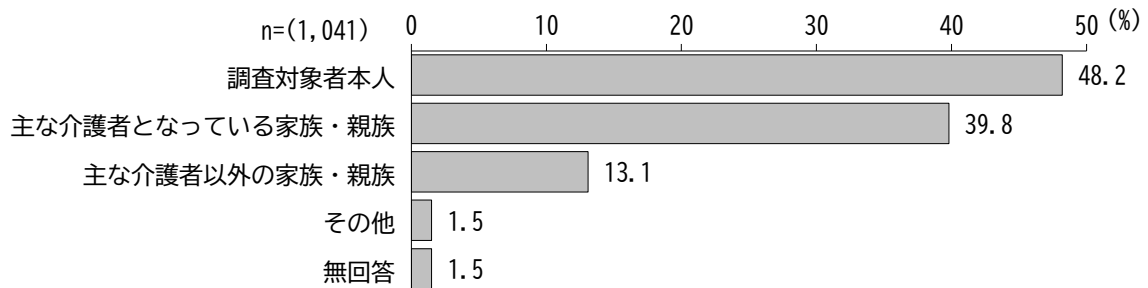
第3章 在宅介護実態調査

A 調査対象者本人への質問

(1) 調査票回答者

問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(複数選択可)

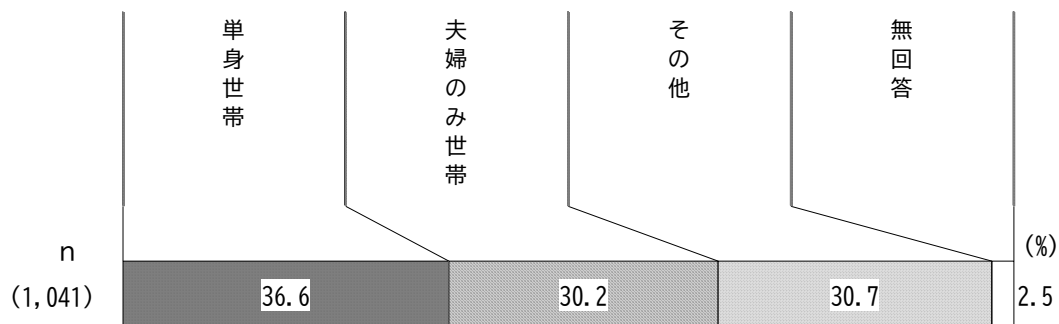
回答者は「調査対象者本人」が48.2%、「主な介護者となっている家族・親族」39.8%、「主な介護者以外の家族・親族」13.1%となっています。



(2) 世帯類型

問2 世帯類型について、ご回答ください。(1つを選択)

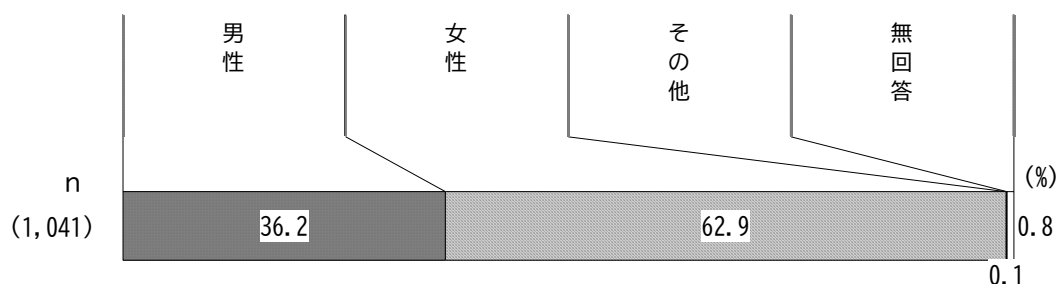
世帯類型は、「単身世帯」が36.6%、「夫婦のみの世帯」30.2%となっています。



(3) 性別

問3 ご本人の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

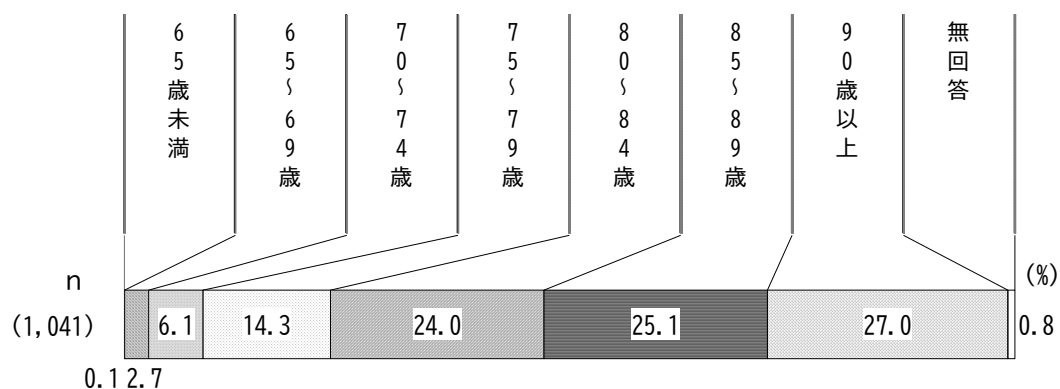
性別は「女性」が62.9%、「男性」が36.2%となっています。



(4) 年齢

問4 ご本人の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

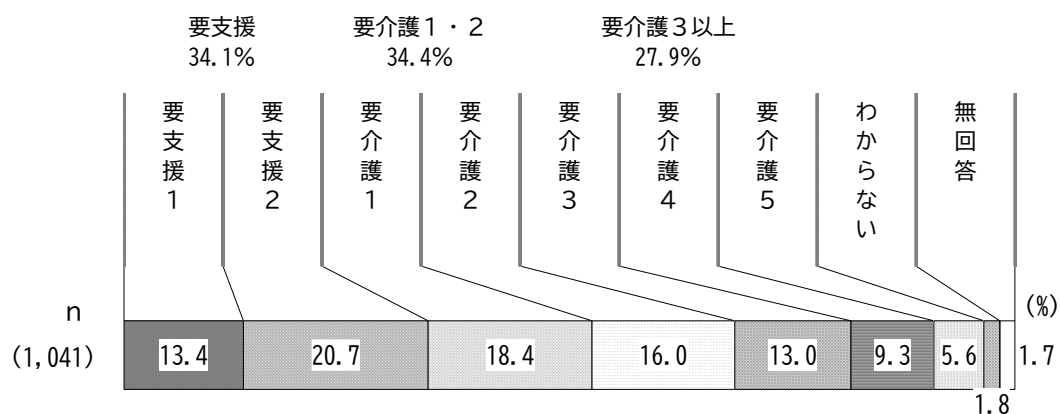
年齢は「90歳以上」が27.0%と最も高く、次いで「85～89歳」25.1%、「80～84歳」24.0%、「75～79歳」14.3%となっています。



(5) 要介護度について

問5 ご本人の要介護度について、ご回答ください。(1つを選択)

要介護度は、「要支援2」が20.7%と最も高く、次いで「要介護1」18.4%、「要介護2」16.0%、「要支援1」13.4%となっています。



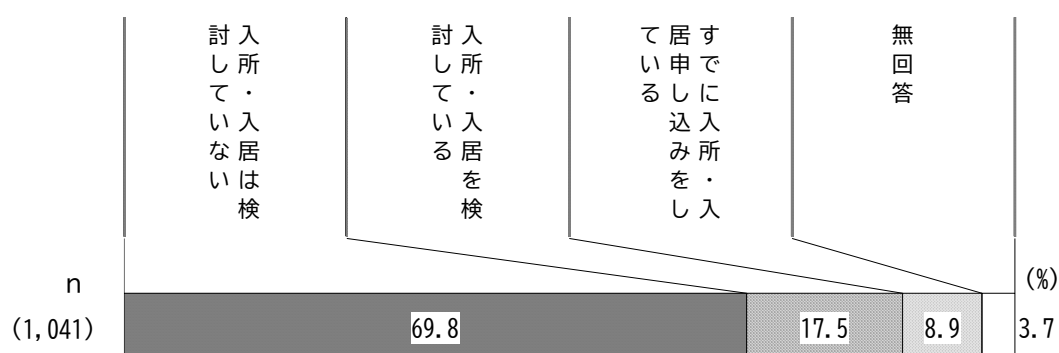
(6) 施設等への入所・入居検討状況について

問6 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(1つを選択)

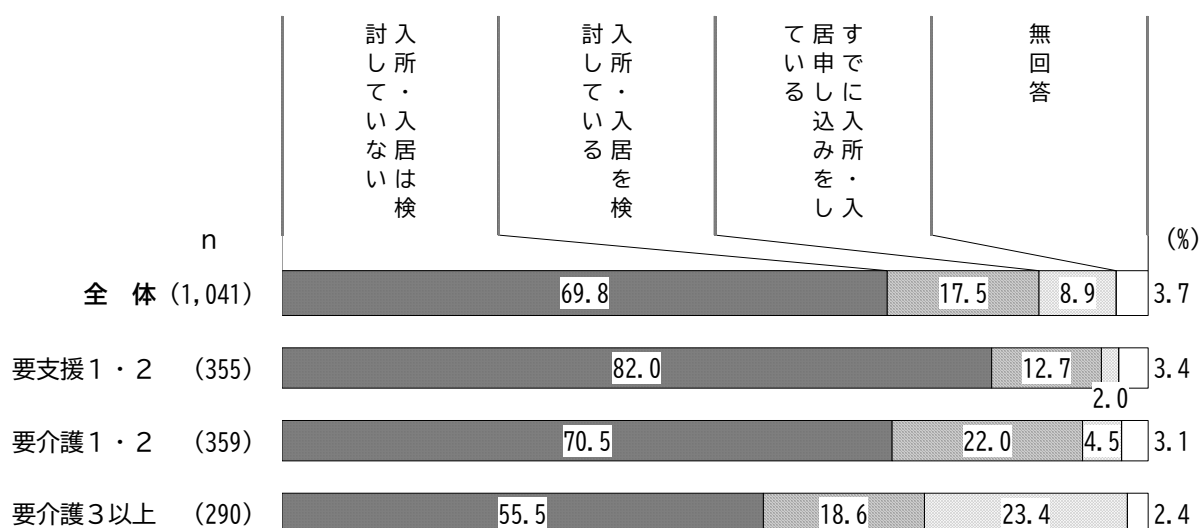
※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

施設への入所・入居検討状況は、「入所・入居は検討していない」が69.8%と最も高く、次いで「入所・入居を検討している」17.5%、「すでに入所・入所申し込みをしている」8.9%となっています。

介護度別でみると、「入所・入居を検討している」は「要介護1・2」で22.0%、「すでに入所・入所申し込みをしている」は「要介護3以上」で23.4%と高くなっています。



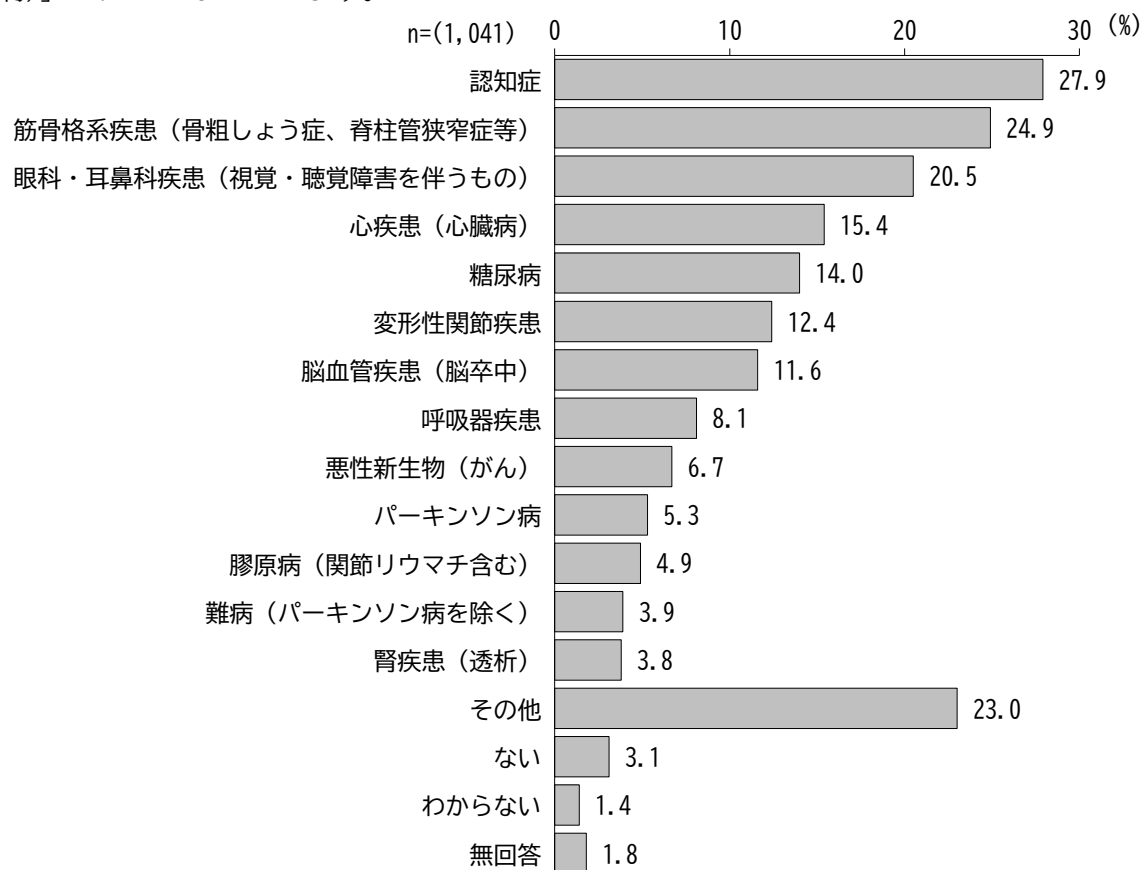
【介護度別】



(7) 現在抱えている傷病について

問7 ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(複数選択可)

現在抱えている傷病は、「認知症」が27.9%と最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」24.9%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」20.5%、「心疾患（心臓病）」15.4%となっています。

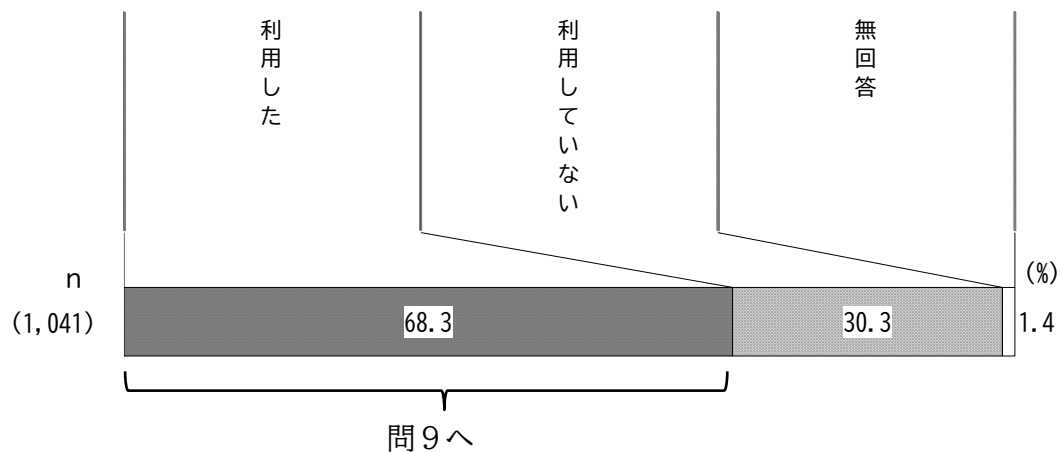


(8) 介護保険サービス利用の有無

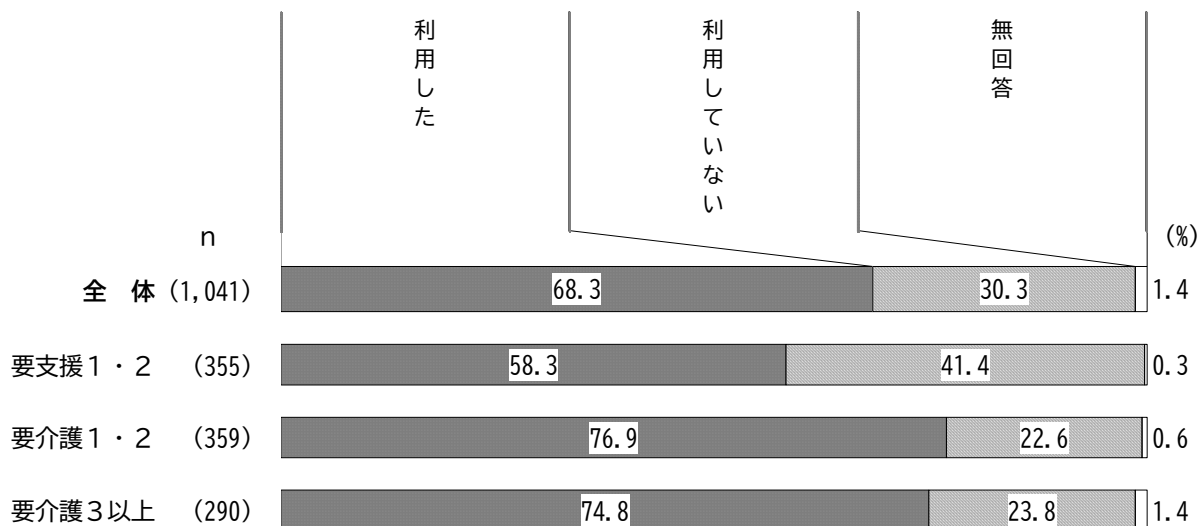
問8 令和8年1月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用しましたか。(1つを選択)

介護保険サービス利用の有無は、「利用した」が68.3%、「利用していない」が30.3%となっています。

要介護度別でみると、「利用した」は「要介護1・2」と「要介護3以上」でそれぞれ7割以上となっています。



【介護度別】

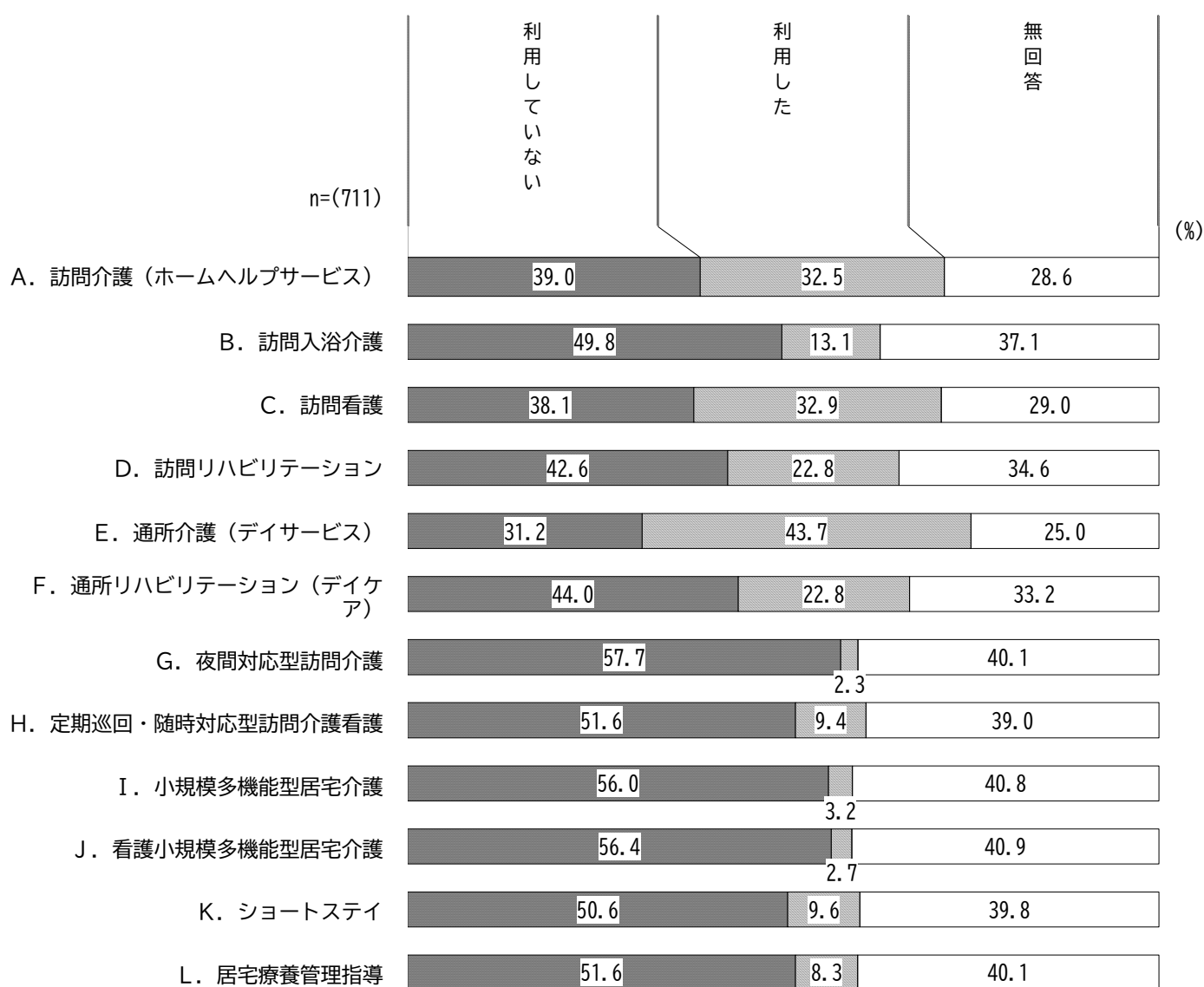


(9) 介護保険サービスの1か月間の利用の有無

問9 問8で「1.」と回答した方にお伺いします。

以下の介護保険サービスについて、令和8年1月の1か月間の利用の有無をご回答ください。(それぞれ1つを選択)

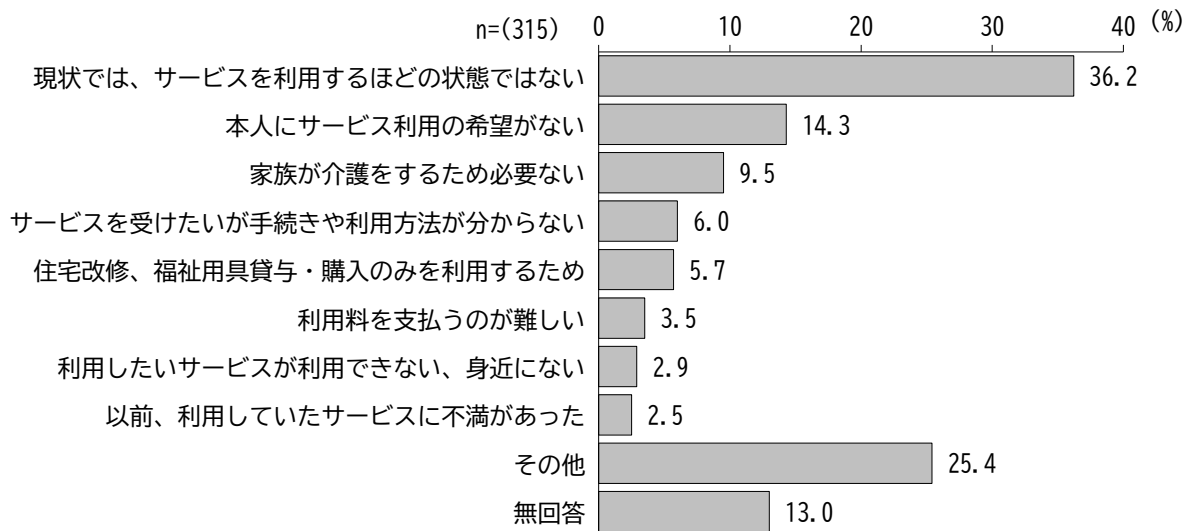
介護保険サービスの1か月間の利用では、「通所介護（デイサービス）」が43.7%と利用した割合が最も高く、次いで「訪問看護」32.9%、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」32.5%となっています。一方、「夜間対応型訪問介護」は利用していない割合が57.7%と高くなっています。



(10) 介護保険サービスを利用しない理由

問10 問8で「2.」と回答した方にお伺いします。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

介護保険サービスを利用しない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が36.2%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」14.3%、「家族が介護をするため必要ない」9.5%となっています。

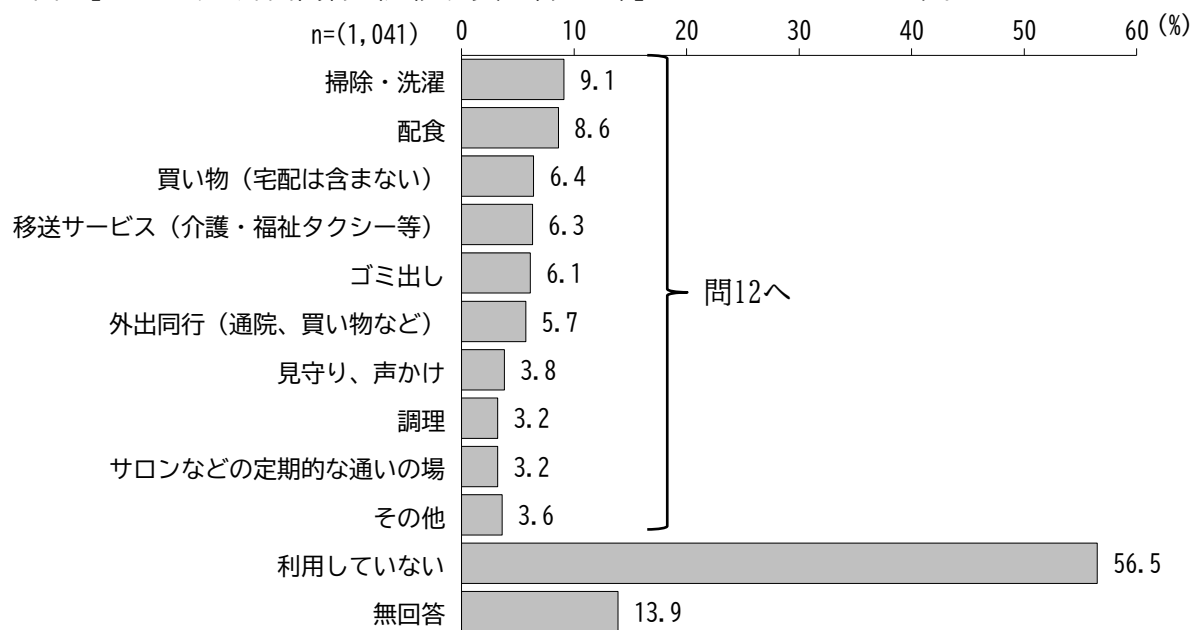


(11) 利用している介護保険外サービスについて

問11 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。(複数選択可)

利用している介護保険外サービスについては、「掃除・洗濯」が9.1%と最も高く、次いで「配食」8.6%、「買い物（宅配は含まない）」6.4%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」6.3%、「ゴミ出し」6.1%、「外出同行（通院、買い物など）」5.7%となっています。

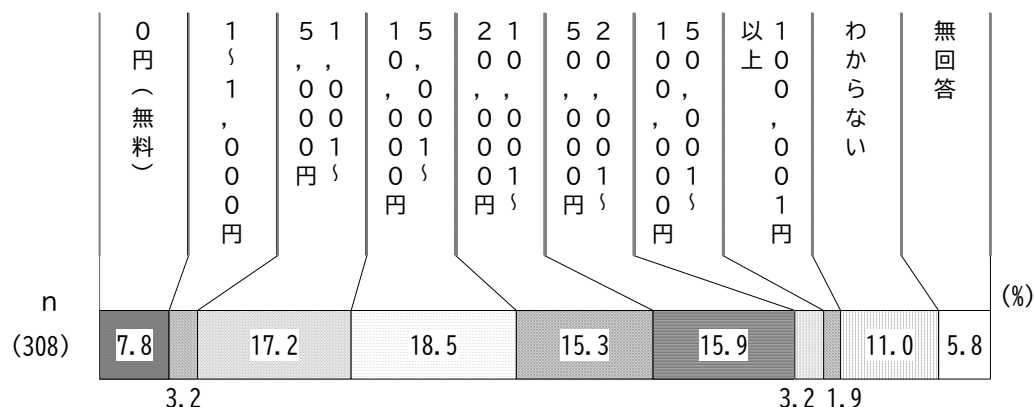


(12) 「介護保険サービス以外」の支援・サービスにかかる1月あたりの総額

問12 問11で「1.」～「10.」のいずれかに回答した方にお伺いします。

問11で選択した、現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスにかかる1月あたりのおおよその総額（複数利用している場合はその合計の自己負担額）について、ご回答ください。（1つを選択）

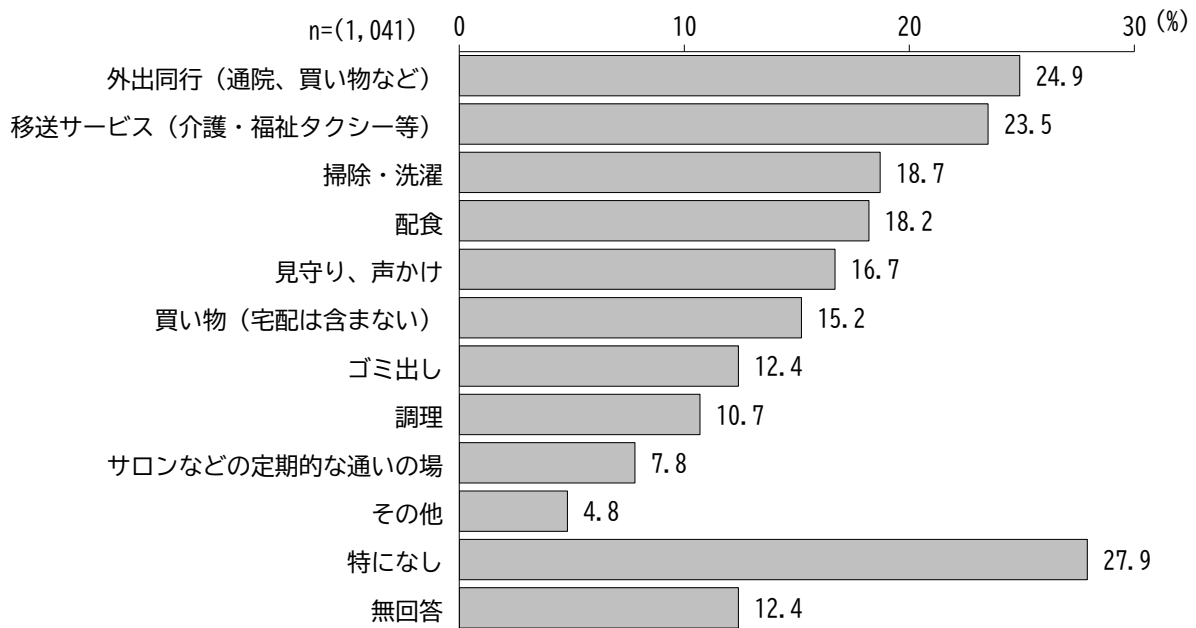
「介護保険サービス以外」の支援・サービスにかかる1月あたりの総額は、「5,001～10,000円」が18.5%と最も高く、次いで「1,001～5,000円」17.2%、「20,001～50,000円」15.9%、「10,001～20,000円」15.3%となっています。



(13) 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて

問13 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数選択可）
 ※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

在宅生活の継続に必要な支援・サービスについては、「外出同行（通院、買い物など）」が24.9%と最も高く、次いで移送サービス（介護・福祉タクシー等）23.5%、「掃除・洗濯」18.7%となっています。一方、「特になし」は27.9%となっています。

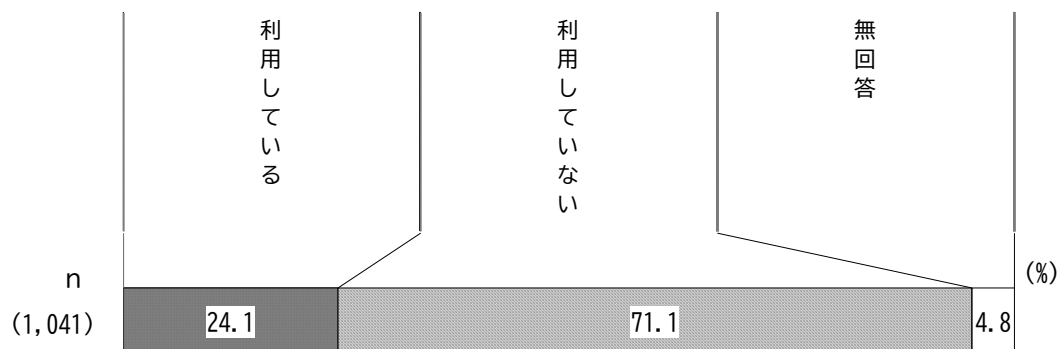


(14) 訪問診療の利用について

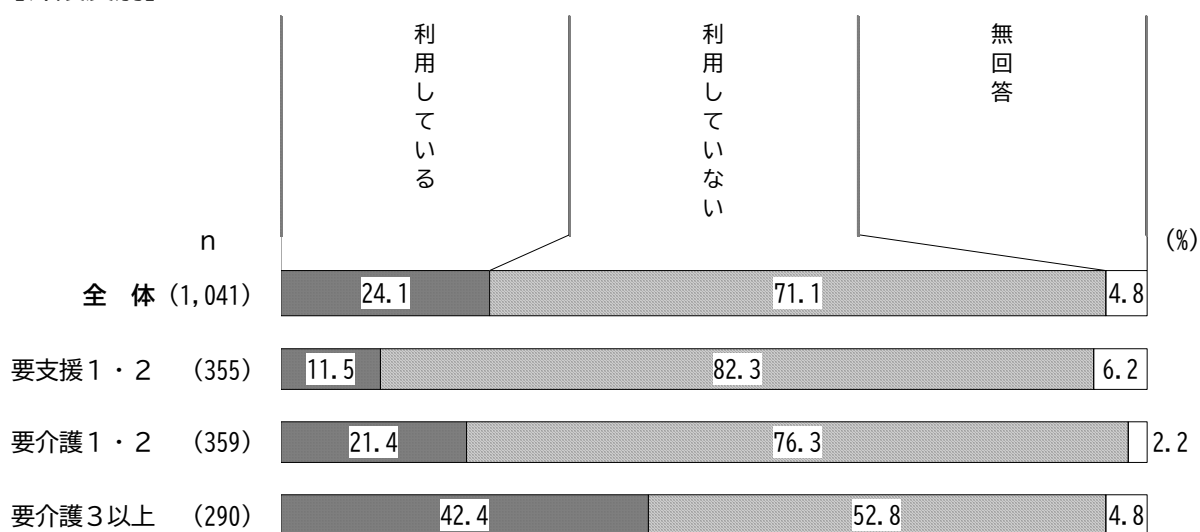
問14 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。(1つを選択)
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

訪問診療の利用については、「利用していない」が71.1%、「利用している」が24.1%となっています。

介護度別でみると、「利用している」は「要介護3以上」で42.4%と高くなっています。



【介護度別】

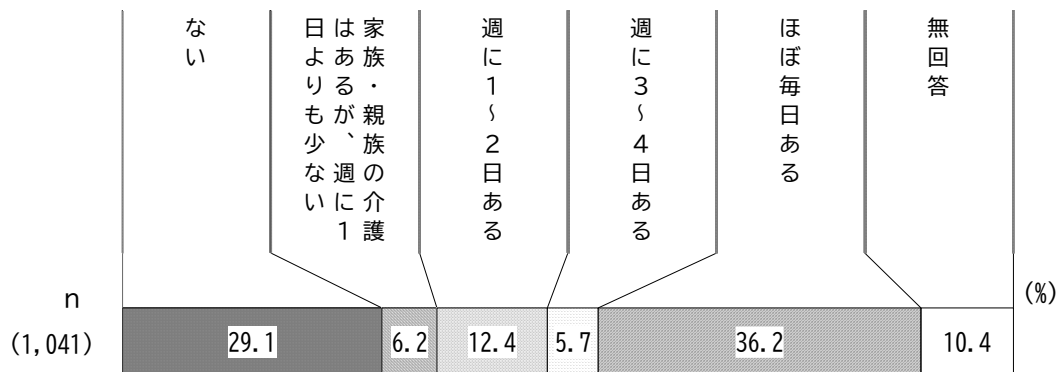


(15) ご家族やご親族からの介護の頻度

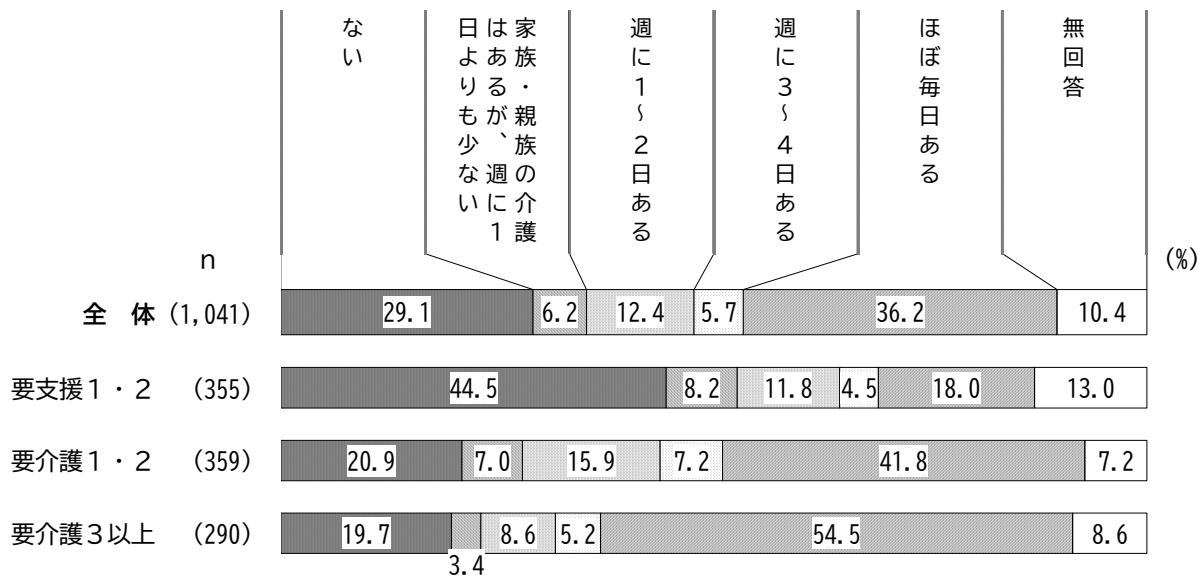
問15 ご家族やご親族の方による介護は、週にどのくらいありますか。(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

ご家族やご親族の方からの介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が36.2%と最も高く、次いで「週に1～2日ある」12.4%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」6.2%となっています。一方、「ない」は29.1%となっています。

介護度別でみると、「ほぼ毎日ある」は「要介護1・2」で41.8%、「要介護3以上」で54.5%と高くなっています。



【介護度別】



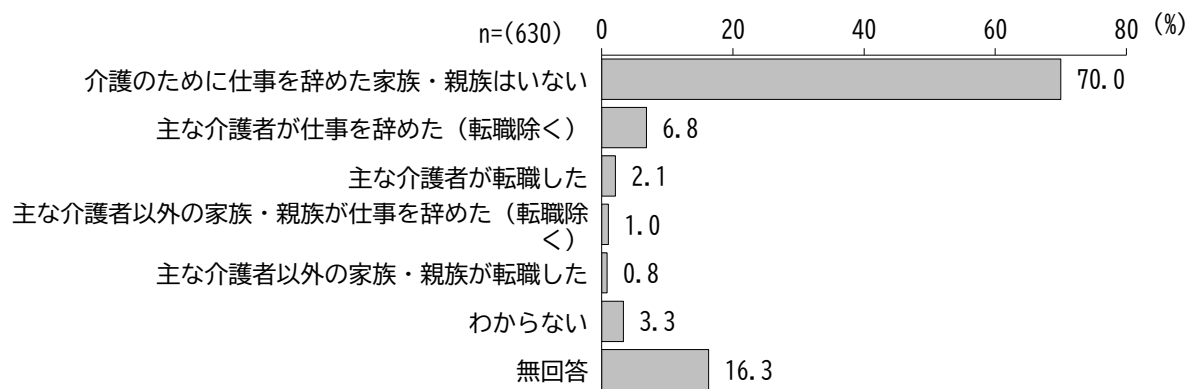
B 主な介護者への質問

(1) 介護の仕事への影響について

問1 ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（複数選択可）（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。）

※自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

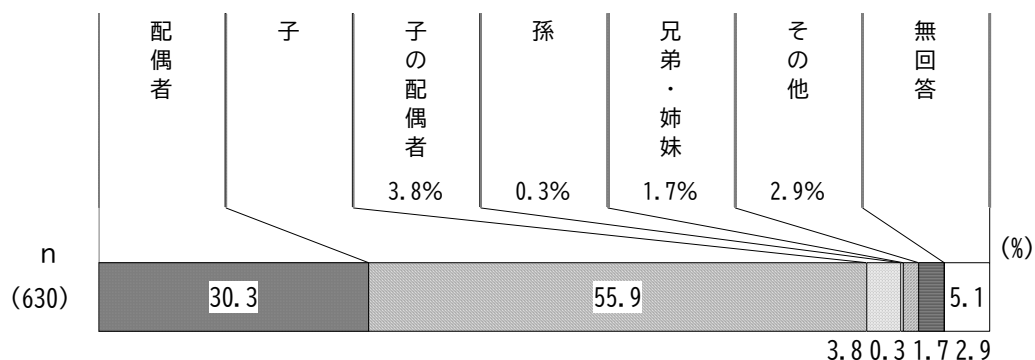
介護を理由とした仕事への影響については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が70.0%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」6.8%、「主な介護者が転職した」2.1%となっています。



(2) 主な介護者

問2 主な介護者の方は、どなたですか。（1つを選択）

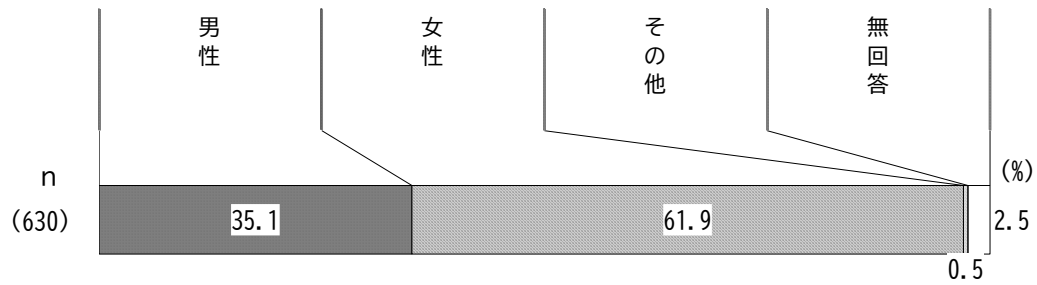
主な介護者については、「子」が55.9%と最も高く、次いで「配偶者」30.3%、「子の配偶者」3.8%、「兄弟・姉妹」1.7%となっています。



(3) 介護者の性別

問3 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

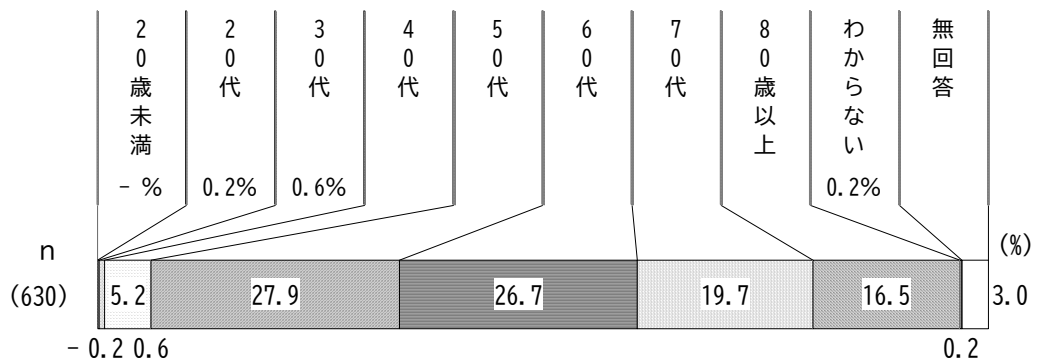
介護者の性別については「女性」が61.9%、「男性」が35.1%となっています。



(4) 介護者の年齢

問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

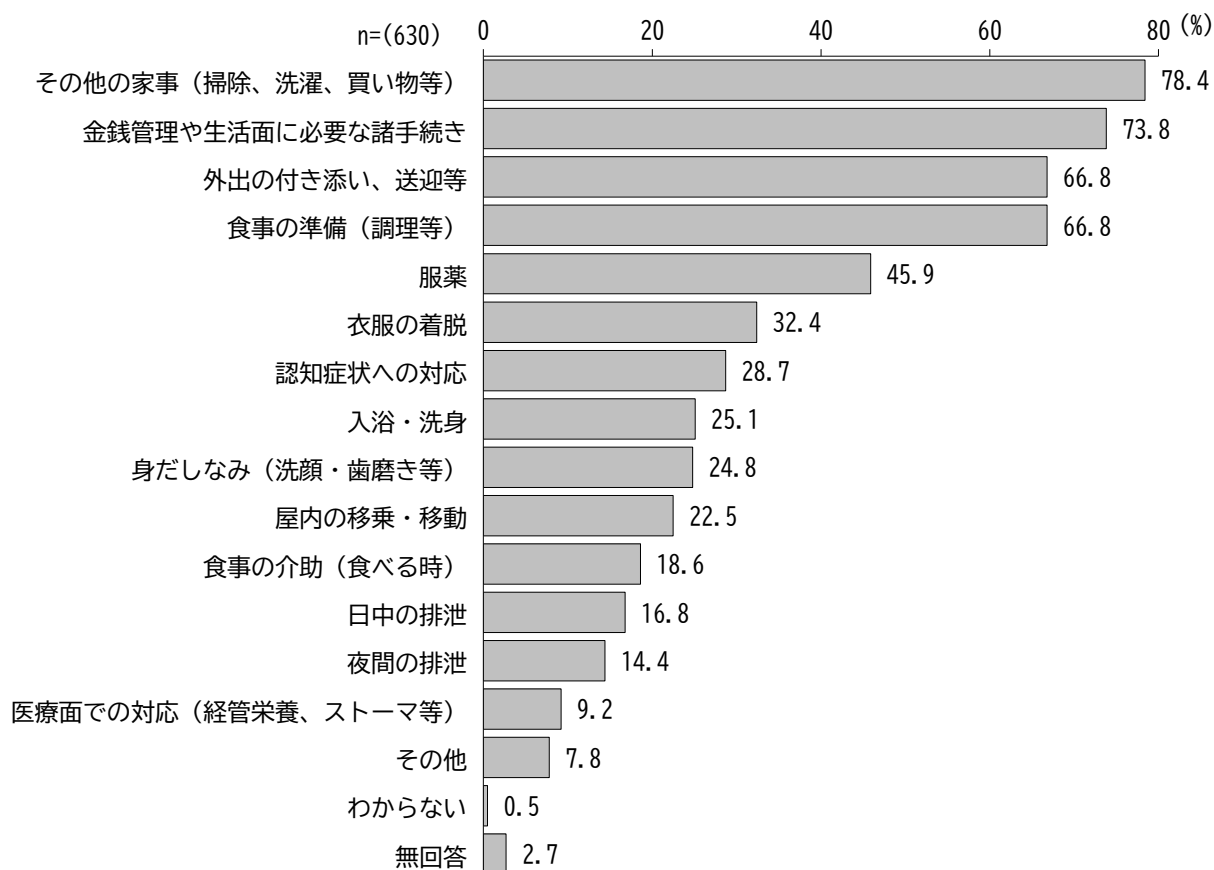
介護者の年齢については、「50代」が27.9%と最も高く、次いで「60代」26.7%、「70代」19.7%、「80歳以上」16.5%となっています。



(5) 介護者の方が行っている介護について

問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数選択可)

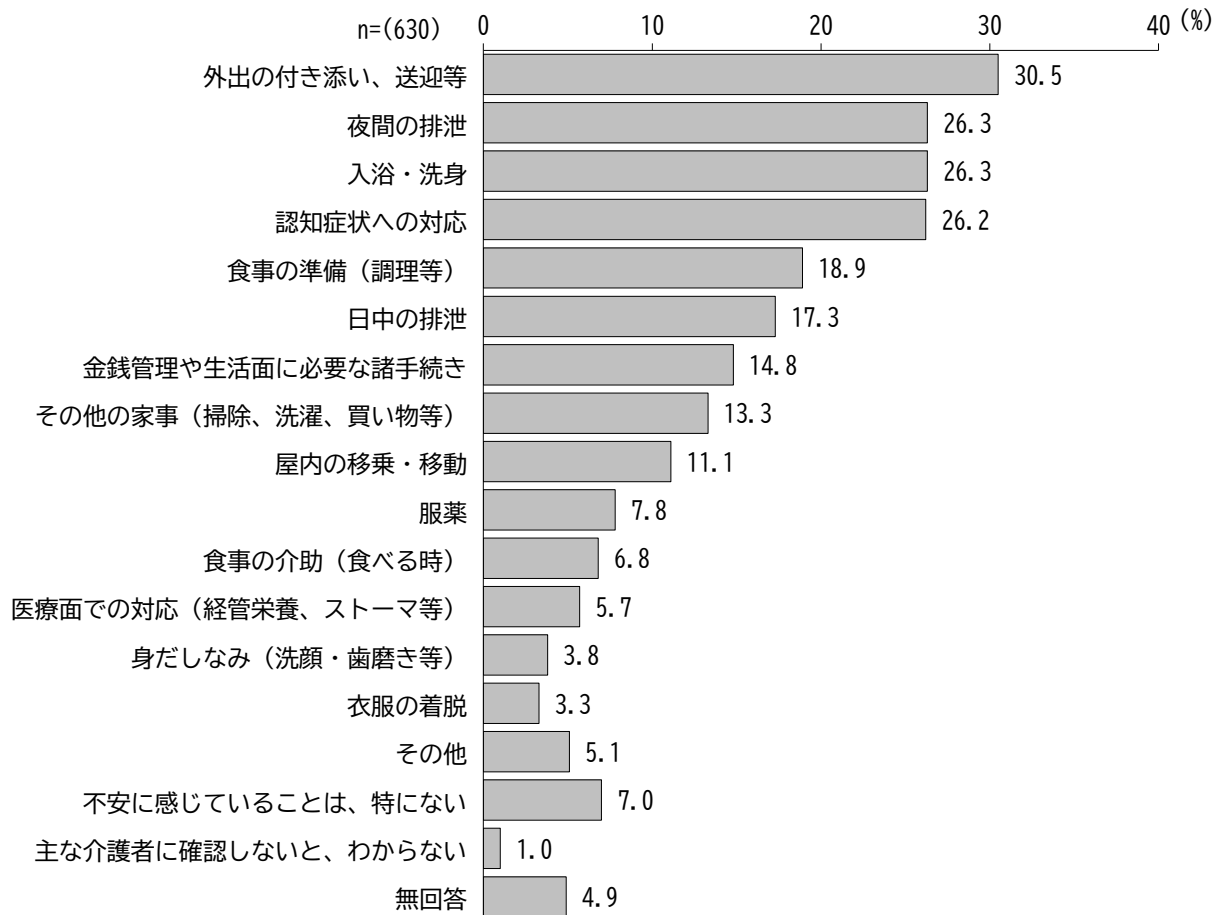
主な介護者の方が行っている介護については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が78.4%と最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」73.8%、「外出の付き添い、送迎等」及び「食事の準備（調理等）」66.8%となっています。



(6) 介護者が不安に感じる介護について

問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません。）（3つまで選択可）

主な介護者が不安に感じる介護については、「外出の付き添い、送迎等」が30.5%と最も高く、次いで「夜間の排泄」及び「入浴・洗身」が26.3%、「認知症状への対応」26.2%、「食事の準備（調理等）」18.9%となっています。

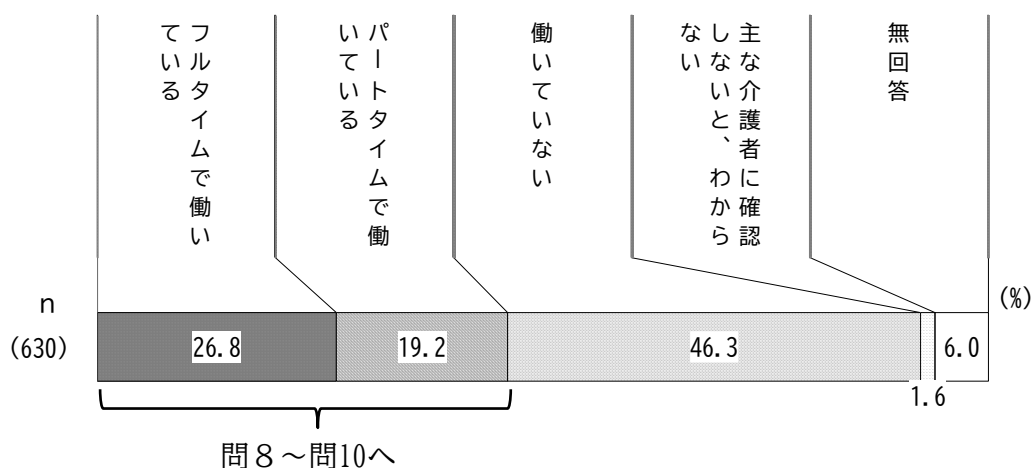


(7) 介護者の勤務形態

問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が46.3%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」26.8%、「パートタイムで働いている」19.2%となっています。

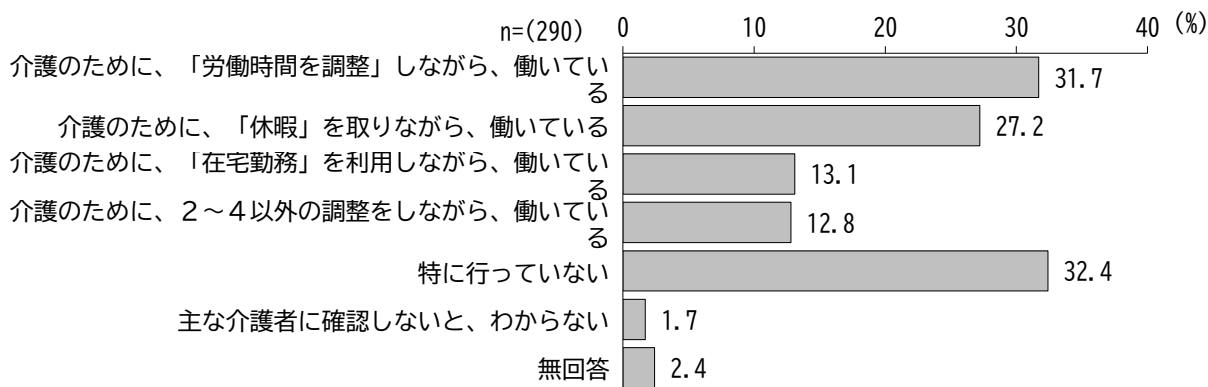


(8) 介護による仕事への影響

問8 問7で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(複数選択可)

介護による仕事への影響については、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が31.7%と最も高く、次いで「介護のために、「休暇」を取りながら働いている」27.2%となっています。一方、「特に行っていない」は32.4%となっています。

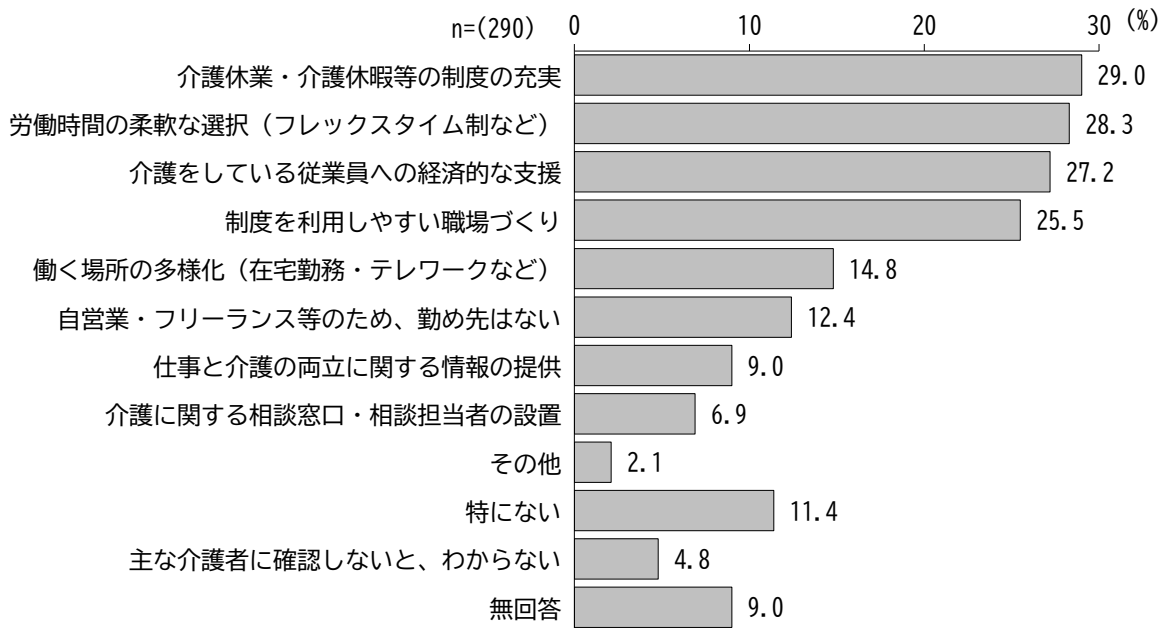


(9) 仕事と介護の両立のために勤務先に求める支援

問9 問7で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)

仕事と介護の両立に必要な勤め先の支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が29.0%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」28.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」27.2%、「制度を利用しやすい職場づくり」25.5%となっています。

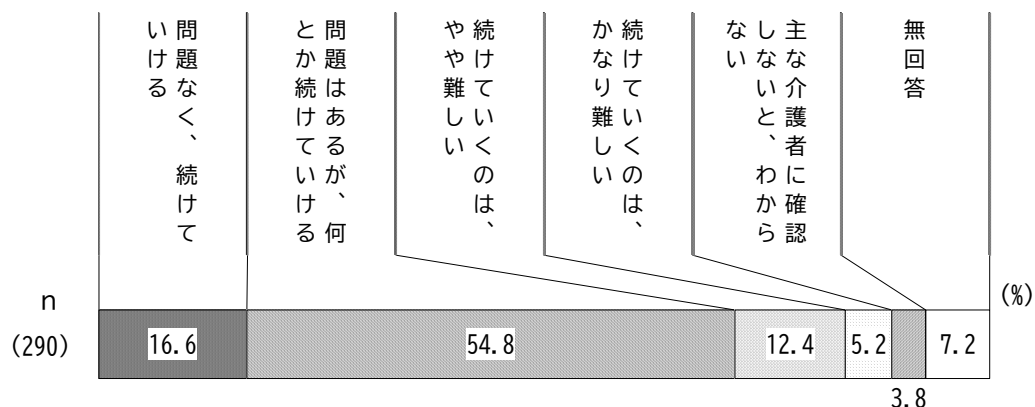


(10) 仕事と介護との両立について

問10 問7で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

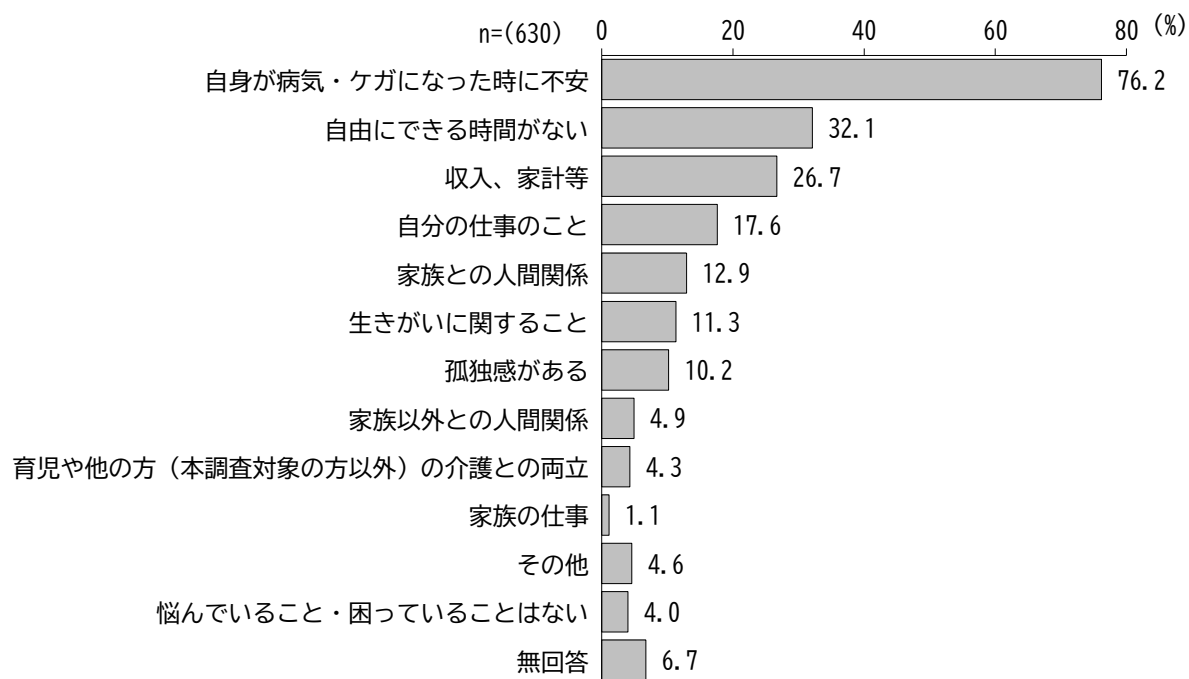
今後も働きながら介護を続けていけるかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が54.8%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」16.6%、「続けていくのは、やや難しい」12.4%となっています。



(11) 介護を行っていく中での悩みや困りごと

問11 主な介護者の方が介護を行っていく中で、自身の生活等で悩んでいること・困っていることがあれば、教えてください。(複数選択可)

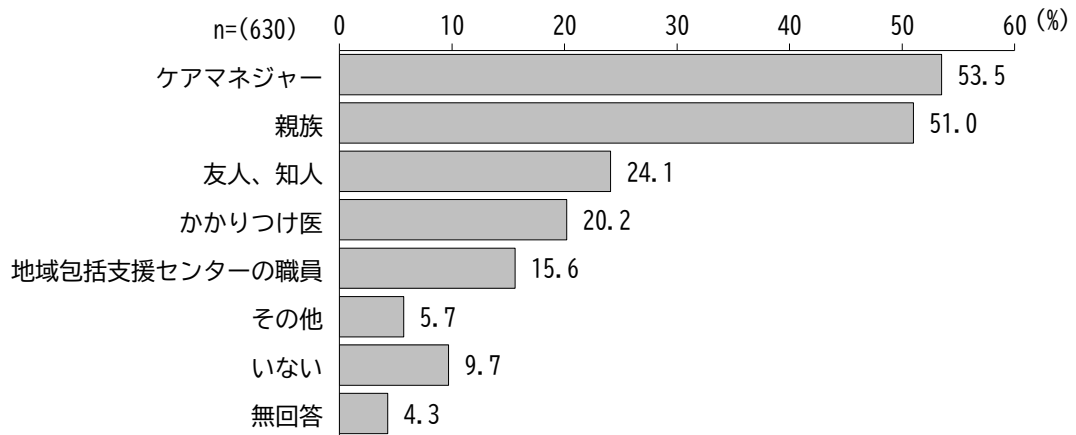
介護を行っていく中での悩みや困りごとについては、「自身が病気・ケガになった時に不安」が76.2%と最も高く、次いで「自由にできる時間がない」32.1%、「収入、家計等」26.7%、「自分の仕事のこと」17.6%となっています。



(12) 介護についての相談先

問12 主な介護者の方が介護の疑問・不安・悩みを相談できる人はいますか。(複数選択可)

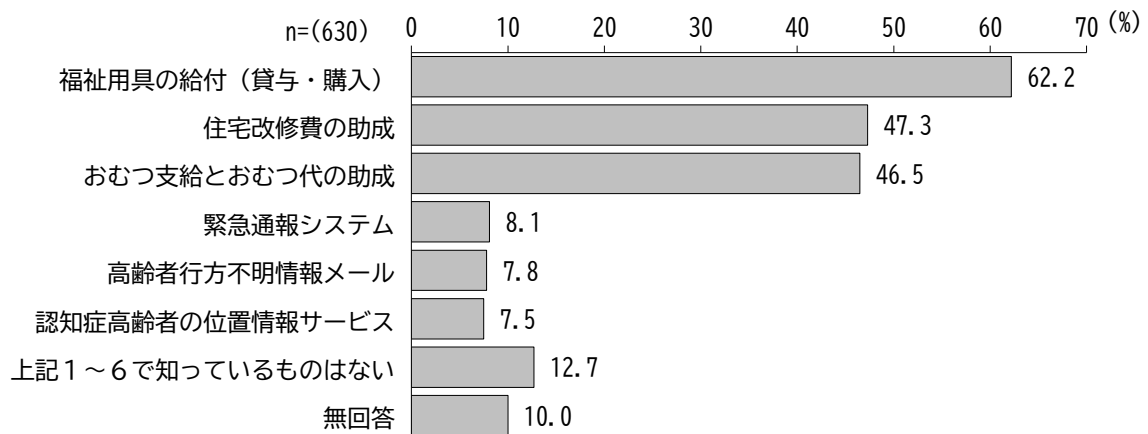
介護についての相談先については、「ケアマネジャー」が53.5%と最も高く、次いで「親族」51.0%、「友人、知人」24.1%、「かかりつけ医」20.2%となっています。



(13) 多摩市の制度及び介護保険の制度の認知度

問13 主な介護者の方は、多摩市の制度及び介護保険の制度について知っているものはありますか。(複数選択可)

多摩市の制度及び介護保険の制度の認知度については、「福祉用具の給付（貸与・購入）」が62.2%と最も高く、次いで「住宅改修費の助成」47.3%、「おむつ支給とおむつ代の助成」46.5%、「緊急通報システム」8.1%となっています。



第4章 介護保険事業所調査

1. 事業所について

(1) 活動状況

問2 活動状況についてお伺いします。

①主な事業所の種類（介護予防・総合事業を含む）（1つに○）

②併設する事業所の種類（介護予防・総合事業を含む）（あてはまるものにすべて○、特にな
い場合は、27に○）

①主な事業所の種類（介護予防・総合事業を含む）

事業所の種類は、「訪問看護」16.4%が最も高く、「居宅介護支援」15.7%が続いています。

		(件)	(%)
調査数		134 件	100.0 %
1	居宅介護支援	21 件	15.7 %
2	訪問介護	22 件	16.4 %
3	通所介護	14 件	10.4 %
4	訪問入浴介護	-	-
5	訪問看護	18 件	13.4 %
6	訪問リハビリ	-	-
7	通所リハビリ	3 件	2.2 %
8	住宅改修・福祉用具	6 件	4.5 %
9	短期入所生活介護	3 件	2.2 %
10	短期入所療養介護	1 件	0.7 %
11	介護老人福祉施設	4 件	3.0 %
12	介護老人保健施設	2 件	1.5 %
13	介護医療院	-	-
14	特定施設入居者生活介護	4 件	3.0 %
15	小規模多機能型居宅介護	3 件	2.2 %
16	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1 件	0.7 %
17	夜間対応型訪問介護	-	-
18	認知症対応型通所介護	3 件	2.2 %
19	認知症対応型共同生活介護	7 件	5.2 %
20	看護小規模多機能型居宅介護	4 件	3.0 %
21	地域密着型特定施設入居者生活介護	-	-
22	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	-	-
23	地域密着型通所介護	11 件	8.2 %
24	介護予防支援	7 件	5.2 %

②併設する事業所の種類（介護予防を含む）（複数回答可）

併設する事業所の種類は、「居宅介護支援」が16.4%で最も高く、「訪問介護」14.9%、「通所介護」及び「短期入所生活介護」10.4%と続いています。

		(件)	(%)
調査数		134 件	100.0 %
1	居宅介護支援	22 件	16.4 %
2	訪問介護	20 件	14.9 %
3	通所介護	14 件	10.4 %
4	訪問入浴介護	-	-
5	訪問看護	13 件	9.7 %
6	訪問リハビリ	6 件	4.5 %
7	通所リハビリ	4 件	3.0 %
8	住宅改修・福祉用具	4 件	3.0 %
9	短期入所生活介護	14 件	10.4 %
10	短期入所療養介護	3 件	2.2 %
11	介護老人福祉施設	7 件	5.2 %
12	介護老人保健施設	3 件	2.2 %
13	介護医療院	-	-
14	特定施設入居者生活介護	2 件	1.5 %
15	小規模多機能型居宅介護	4 件	3.0 %
16	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	-	-
17	夜間対応型訪問介護	-	-
18	認知症対応型通所介護	6 件	4.5 %
19	認知症対応型共同生活介護	6 件	4.5 %
20	看護小規模多機能型居宅介護	9 件	6.7 %
21	地域密着型特定施設入居者生活介護	-	-
22	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	-	-
23	地域密着型通所介護	7 件	5.2 %
24	介護予防支援	10 件	7.5 %
25	居宅療養管理指導	4 件	3.0 %
26	その他	3 件	2.2 %
27	特になし	45 件	33.6 %
無回答		9 件	6.7 %

(2) 職員数と充足状況

問3 貴事業所の職員数と充足感について、お伺いします。(令和8年1月1日現在)

①職種ごとの職員数※非常勤は常勤換算 ※複数資格保持は主なものを1つ

1 事業所あたりの職種ごとの職員数は、以下のとおりです。

		常勤		非常勤	
		事業所計	平均	事業所計	平均
介護支援専門員	介護支援専門員	96 人	1.5 人	13.8 人	0.5 人
	主任介護支援専門員	36 人	0.7 人	1.0 人	0.1 人
事務管理者		42 人	0.8 人	19.6 人	0.6 人
介護職員	介護職員初任者研修修了者	57 人	1.1 人	206.0 人	3.3 人
	介護福祉士実務者研修修了者	52 人	1.1 人	37.3 人	0.9 人
	介護福祉士	488 人	5.3 人	275.4 人	4.0 人
	無資格の介護職員	26 人	0.7 人	33.9 人	1.1 人
介護助手		4 人	0.1 人	40.5 人	1.5 人
精神保健福祉士		5 人	0.2 人	0.0 人	0.0 人
社会福祉士		39 人	0.8 人	2.0 人	0.1 人
医師		7 人	0.2 人	3.3 人	0.1 人
保健師・看護師・准看護師		157 人	2.5 人	121.0 人	2.0 人
管理栄養士・栄養士		12 人	0.3 人	5.3 人	0.2 人
薬剤師		0 人	0.0 人	4.6 人	0.2 人
理学療法士		53 人	1.2 人	25.2 人	0.7 人
作業療法士		20 人	0.5 人	15.4 人	0.4 人
言語聴覚士		7 人	0.2 人	0.3 人	0.0 人
歯科衛生士		0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師・柔道整復師		13 人	0.4 人	3.6 人	0.2 人
その他		46 人	1.2 人	51.2 人	1.8 人

※外国人職員、派遣職員、その他(スキマバイトや短期バイトなど)は除く

②職種ごとの充足感

職種ごとの充足感は、「充足している」は「事務管理者」が23.1%と最も高く、次いで「保健師・看護師・准看護師」20.9%となっています。一方「不足している」は「介護福祉士」が17.2%と最も高くなっています。



(3) 介護支援専門員の年齢構成

問4 介護支援専門員が在籍する事業所のみお答えください。問3の①職員数で回答した職員数のうち、介護支援専門員の年齢構成について伺います。(令和8年1月1日現在)

1 事業所あたりの介護支援専門員の年齢構成は、以下のとおりです。

		常勤		非常勤	
		事業所計	平均	事業所計	平均
1	19歳以下	0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
2	20～29歳	0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
3	30～39歳	7 人	0.4 人	0.8 人	0.1 人
4	40～49歳	47 人	1.5 人	4.0 人	0.4 人
5	50～59歳	53 人	1.4 人	11.0 人	0.8 人
6	60～69歳	18 人	0.8 人	3.0 人	0.3 人
7	70～74歳	4 人	0.3 人	0.0 人	0.0 人
8	75歳以上	2 人	0.2 人	0.0 人	0.0 人
合計		131 人	4.6 人	18.8 人	1.6 人

※外国人職員、派遣職員、その他（スキマバイトや短期バイトなど）は除く

(4) 介護職員の年齢構成

問5 介護職員が在籍する事業所のみお答えください。問3の①職員数で回答した職員数のうち、介護職員の年齢構成について伺います。(令和8年1月1日現在)

1 事業所あたりの介護職員の年齢構成は、以下のとおりです。

		事業所計	平均
1	19歳以下	1.0 人	0.0 人
2	20～29歳	103.8 人	2.4 人
3	30～39歳	150.0 人	2.7 人
4	40～49歳	255.2 人	3.5 人
5	50～59歳	314.9 人	4.0 人
6	60～69歳	213.5 人	3.3 人
7	70～74歳	72.1 人	1.5 人
8	75歳以上	41.5 人	1.3 人
合計		1152.0 人	18.8 人

※外国人職員、派遣職員、その他（スキマバイトや短期バイトなど）は除く

(5) 外国人職員・派遣職員等の状況

問6 介護職員が在籍する事業所のみお答えください。

A 貴事業所の以下の介護職員の人数をご記入ください。(令和8年1月1日現在)

B Aの「外国人職員数」を回答した事業所にお伺いします。外国人介護人材を採用するうえでの課題についてお答えください。(いくつでも○)

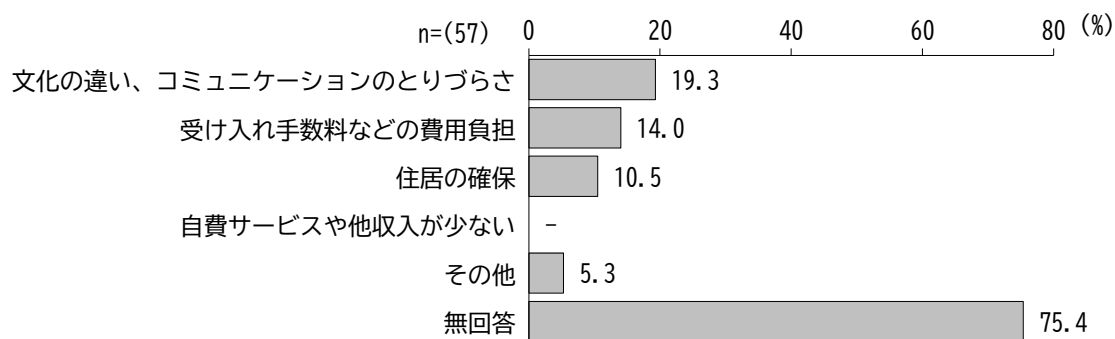
A 外国人職員、派遣職員、その他（スキマバイト・短期バイトなど）の人数

介護職員うち、外国人職員、派遣職員、その他（スキマバイト・短期バイトなど）の1事業所あたりの人数は以下の通りです。

		事業所計	平均
1	外国人職員数	26.0 人	0.5 人
2	派遣職員数	14.0 人	0.3 人
3	その他（スキマバイト・短期バイトなど）	87.3 人	1.7 人

B 外国人介護人材を採用するうえでの課題

外国人介護人材を採用するうえでの課題は、「文化の違い、コミュニケーションのとりづらさ」が19.3%と最も高く、次いで「受け入れ手数料などの費用負担」14.0%、「住居の確保」10.5%となっています。



2. 人材育成・人材確保について

(1) 1年間の採用・離職人数と離職者の勤務年数

問7 令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間に貴事業所において採用及び離職した人数、離職者の勤務年数の内訳についてお伺いします。常勤職員、非常勤職員ごとに人数を記載してください。

①職種ごとの採用者数、②職種ごとの離職者数

1 事業所あたり職種ごとの採用者数と離職者数は、以下のとおりです。

			①採用者数		②離職者数	
			事業所計	平均	事業所計	平均
1	介護支援専門員	常勤	11.0 人	0.4 人	9.0 人	0.3 人
		非常勤	11.0 人	0.4 人	2.0 人	0.1 人
2	主任介護支援専門員	常勤	5.0 人	0.2 人	0.0 人	0.0 人
		非常勤	2.0 人	0.1 人	2.0 人	0.1 人
3	介護職員	常勤	34.0 人	1.2 人	31.0 人	1.0 人
		非常勤	79.0 人	1.5 人	38.0 人	1.1 人
4	看護職員	常勤	23.0 人	0.7 人	15.0 人	0.6 人
		非常勤	21.0 人	0.6 人	9.0 人	0.4 人
5	生活相談員・支援相談員	常勤	5.0 人	0.2 人	0.0 人	0.0 人
		非常勤	4.0 人	0.2 人	1.0 人	0.1 人
6	サービス提供責任者	常勤	3.0 人	0.1 人	1.0 人	0.1 人
		非常勤	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
7	PT・OT・ST・ 柔道整復師等	常勤	31.0 人	0.9 人	9.0 人	0.4 人
		非常勤	32.0 人	0.9 人	10.0 人	0.5 人
8	その他（施設長・医師・事務職員等）	常勤	7.0 人	0.3 人	6.0 人	0.3 人
		非常勤	10.0 人	0.4 人	5.0 人	0.3 人

③職種ごとの離職者の勤務年数

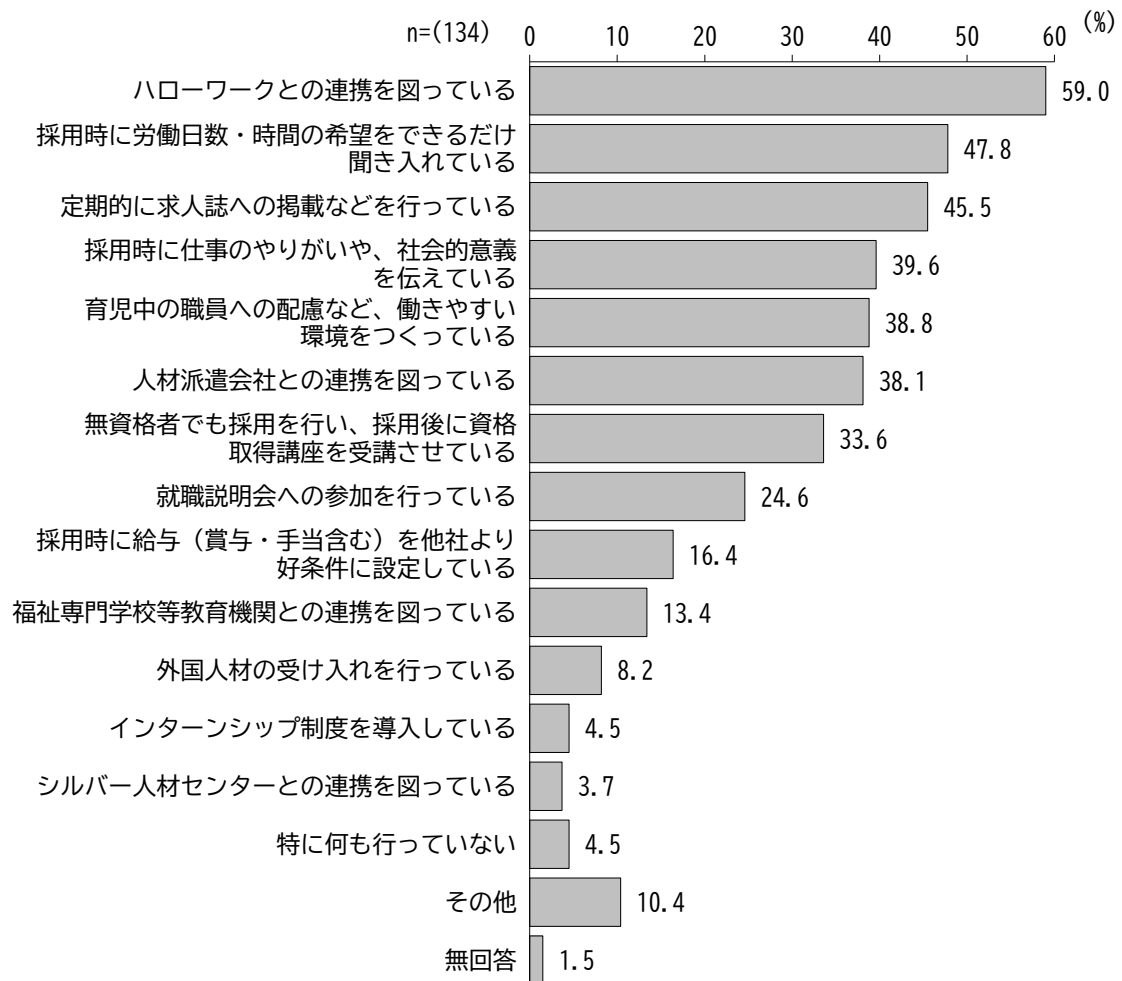
1 事業所あたりの職種ごとの離職者の勤務年数は、以下のとおりです。

			③離職者の勤務年数					
			1年未満		1年以上3年未満		3年以上	
			事業所計	平均	事業所計	平均	事業所計	平均
1	介護支援専門員	常勤	0.0 人	0.0 人	4.0 人	0.3 人	4.0 人	0.3 人
		非常勤	0.0 人	0.0 人	3.0 人	0.2 人	1.0 人	0.1 人
2	主任介護支援専門員	常勤	2.0 人	0.2 人	1.0 人	0.1 人	2.0 人	0.2 人
		非常勤	1.0 人	0.1 人	1.0 人	0.1 人	0.0 人	0.0 人
3	介護職員	常勤	18.0 人	0.8 人	6.0 人	0.3 人	15.0 人	0.9 人
		非常勤	18.0 人	0.7 人	6.0 人	0.4 人	17.0 人	0.9 人
4	看護職員	常勤	7.0 人	0.4 人	7.0 人	0.4 人	8.0 人	0.4 人
		非常勤	4.0 人	0.3 人	3.0 人	0.2 人	1.0 人	0.1 人
5	生活相談員・支援相談員	常勤	5.0 人	0.3 人	1.0 人	0.1 人	2.0 人	0.2 人
		非常勤	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	2.0 人	0.2 人
6	サービス提供責任者	常勤	3.0 人	0.3 人	2.0 人	0.2 人	1.0 人	0.1 人
		非常勤	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
7	PT・OT・ST・柔道整復師等	常勤	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	3.0 人	0.3 人
		非常勤	4.0 人	0.3 人	2.0 人	0.2 人	0.0 人	0.0 人
8	その他（施設長・医師・事務職員等）	常勤	6.0 人	0.4 人	4.0 人	0.3 人	3.0 人	0.2 人
		非常勤	2.0 人	0.1 人	0.0 人	0.0 人	5.0 人	0.4 人

(2) 人材確保の取り組み

問8 貴事業所では、人材の確保について、実際にどのような取り組みを行っていますか。
(いくつでも○)

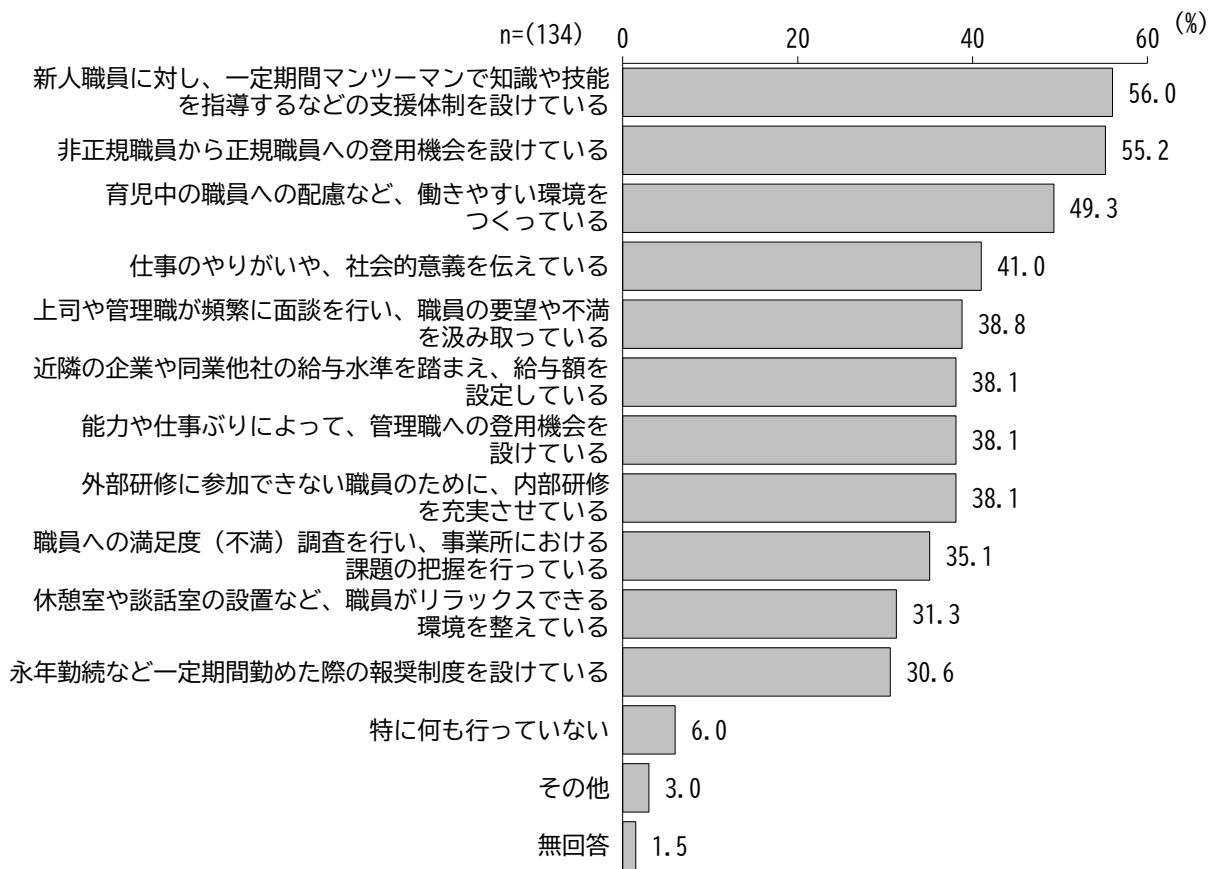
人材の確保について行っている取り組みについては、「ハローワークとの連携を図っている」が59.0%と最も高く、次いで「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」47.8%、「定期的に求人誌への掲載などを行っている」45.5%、「採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている」39.6%となっています。



(3) 人材定着・育成の取り組み

問9 貴事業所では、人材の定着（離職の防止）・育成のために、どのような取り組みを行っていますか。（いくつでも○）

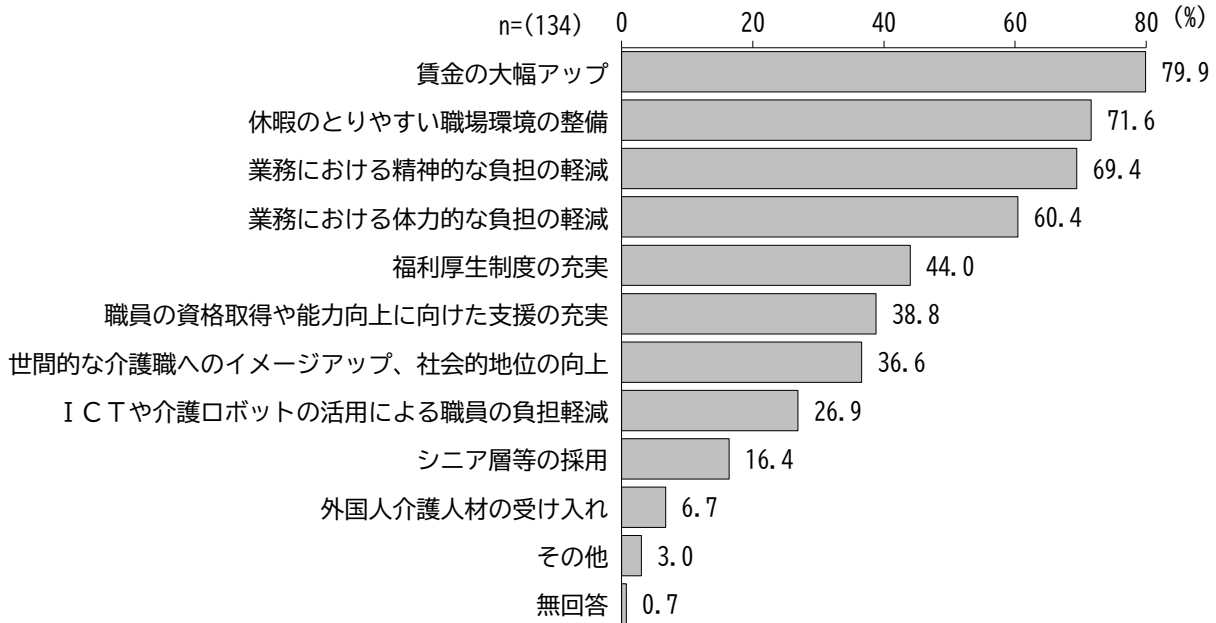
人材の定着・育成（離職の防止）の取り組みについては、「新人職員に対し、一定期間マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」が56.0%と最も高く、次いで「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」55.2%、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」49.3%となっています。



(4) 人材確保に効果的と思われること

問10 人材の確保に効果的と思われる項目についてお答えください。(いくつでも○)

人材確保に効果的と思われることについては、「賃金の大幅アップ」が79.9%と最も高く、次いで「休暇のとりやすい職場環境の整備」71.6%、「業務における精神的な負担の軽減」69.4%となっています。



3. キャリア支援について

(1) 資格取得の支援

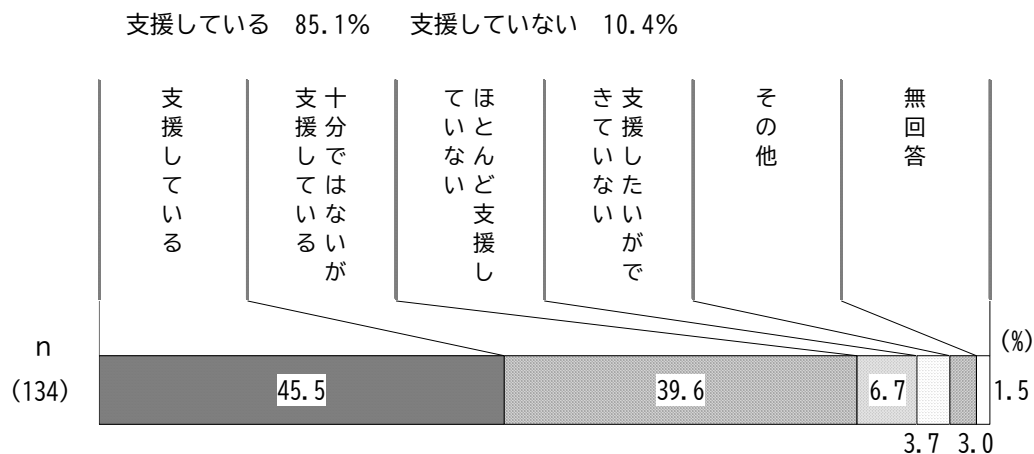
問11 資格取得の支援について

A 職員が積極的に資格取得できるよう支援していますか。(1つに○)

B Aで「3. ほとんど支援していない」又は「4. 支援したいができていない」と回答した事業所にお伺いします。その理由を具体的にお書きください。

A 資格取得の支援の状況

資格取得の支援の状況については、「支援している」と「十分でないが支援している」を合わせた《支援している》が85.1%となっています。一方、「支援したいができない」と「ほとんど支援していない」を合わせた《支援していない》は10.4%となっています。



B 資格取得の支援をしていない理由

- ・資格前提入社なので、上級資格希望者については、随事応じる方向。
- ・人手不足により研修への参加が出来ない。・会社としての理解が得られない。
- ・ご本人の希望ない。(介護ではない他の仕事につきたい希望者のため。)
- ・資格取得後に祝い金が少し出るだけなので。
- ・看護資格のある人を採用。
- ・法人が大きく、こまやかな対応には至っていない。
- ・余裕がない。
- ・人材確保。担当制のため、長期不在となると難しい。
- ・資格取得を希望し、本社に打診してもスルーされる為。
- ・手が回らない。職員からの要望もない。
- ・資格取得についての補助制度の紹介や、外部研修などの情報提供を行っているが、家事や育児で受講時間が取れないという理由で、資格取得に至っていない。
- ・手が回らないのと今のところニーズがない(職員事業所双方)。
- ・資格取得について特に希望の声も上がらないが、実際希望があったとしてもフォローする時間的な余裕がない。

(2) 研修等の参加支援

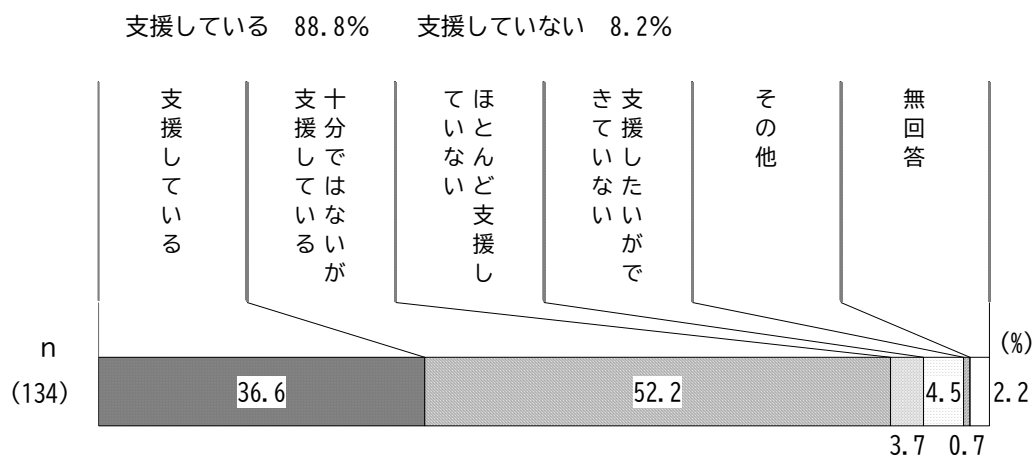
問12 研修等の参加支援について

A 外部の研修や事例検討、講習会について、職員が積極的に参加できるよう支援していますか。(1つに○)

B Aで「3.ほとんど支援していない」又は「4.支援したいができていない」と回答した事業所にお伺いします。その理由を具体的にお書きください。

A 研修等への参加支援の状況

研修等への参加支援の状況については、「支援している」と「十分でないが支援している」を合わせた「支援している」が88.8%となっています。一方、「支援したいができていない」と「ほとんど支援していない」を合わせた「支援していない」は8.2%となっています。



B 研修等の参加の支援をしていない理由

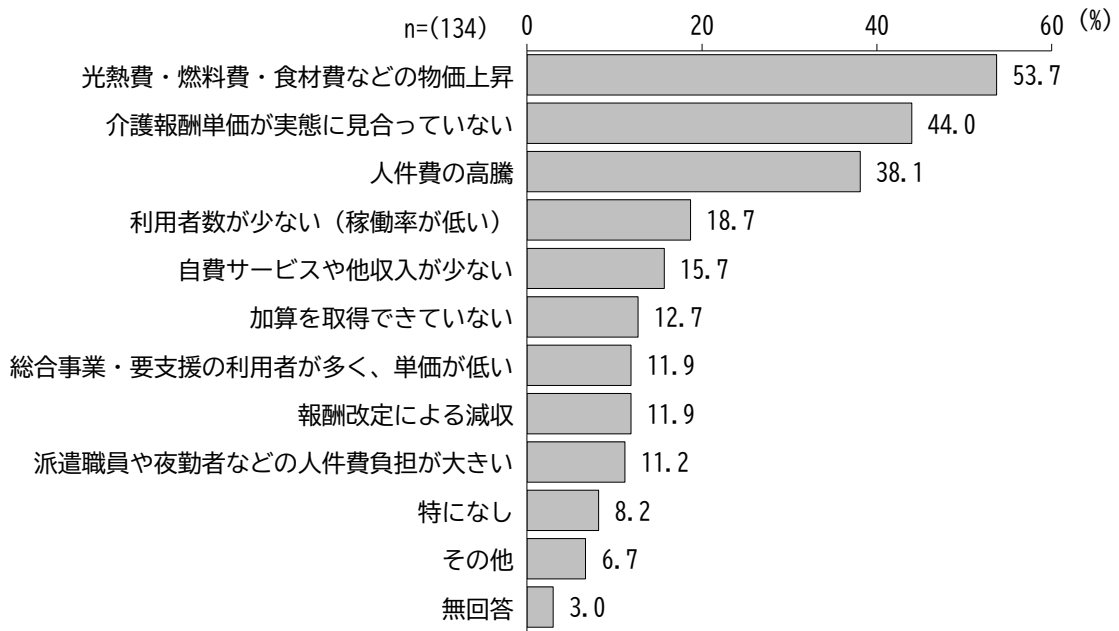
- ・時間的な余裕がない。
- ・人手不足により通常の業務が最優先。・お金がかかることはだめ。利益優先のため。
- ・案内はしているが、特別な休暇や、費用ホジョがあるわけではない。法人が大きく、事業所単位では決められないため。
- ・時間外の研修は生活もあり、難しい。
- ・職員が時間外など望まない。
- ・職員数が少なく、参加が難しい為。
- ・特に要望がない。
- ・上記講習と同様で、外部研修出席の時間がとれないという理由で参加できていない。また、業務時間外という点も障壁になっている。
- ・人員が足りないために研修時間が取れていない。
- ・費用の問題（常勤は超過勤務手当が発生し、非常勤職員の場合は時給が発生する）が大きい。

4. 事業運営について

(1) 経営上、大きな影響があったこと

問13 令和6年度において、経営上、大きな影響があった項目についてお答えください。(いくつでも○)

経営上、大きな影響があったことについては、「光熱費・燃料費・食材費などの物価上昇」が53.7%と最も高く、次いで「介護報酬単価が実態に見合っていない」44.0%、「人件費の高騰」38.1%となっています。



(2) 介護報酬改定の影響

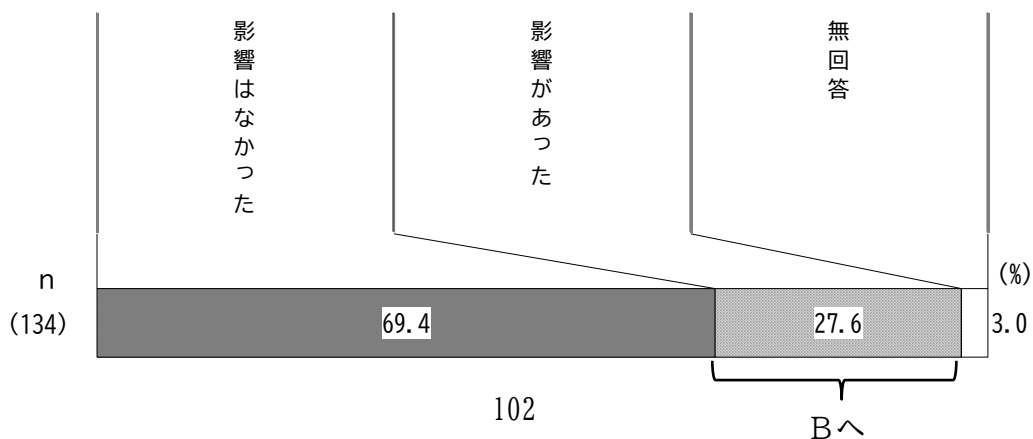
問14 令和6年度の介護報酬改定について伺います。

A 運営上の影響がありましたか。(1つに○)

B Aで「2. 影響があった」で回答した事業所にお伺いします。差し支えなければ、その影響を具体的にお書きください。

A 介護報酬改定の運営上の影響

介護報酬改定の運営上の影響については、「影響はなかった」が69.4%と最も高くなっています。一方、「影響があった」は27.6%となっています。



B 具体的な介護報酬改定の影響

- ・今まで収益が小さいが出す事が出来た。その分を賃金UPに回していたが、物価が上がり生活に影響が出ており、報酬改定による減収により、赤字運営となってしまう、スタッフの賃金UPが厳しくなった。また人材採用も厳しくなった。(広告費コストを下げた。)
- ・特定事業所加算取得。
- ・医療介護連携加算をはじめとする各種加算を取得しないと経営がなりたないです。
- ・リハビリに対する減算。・支援認定の方は一年でリハビリがさらに減算になるため、終了せざるおえない。
- ・単価設定には、人件費(最低時給)上昇が反映していない。
- ・収益が下がった。
- ・高齢ヘルパーが多い為、身体介護を多く受けることが出来ない。生活支援は報酬単価が下がった。生活支援も買物支援は、移動が多く内容によっては依頼を困らなければいけないときもある。
- ・赤字で報酬改定でとても期待していたが、結果として赤字が更に増えた。
- ・併設している訪問介護の減収減益、もともと居宅だけでは赤字で訪問介護で収益を出していたが減益となり、ケアマネの処偶UPにならなかった。
- ・当事業所では加算を取得していない為、同じ仕事をしているのに純粋に報酬減となった
- ・減収減益、元々小さい収益にも関わらず、改定により赤字運営となった。
- ・仕事の量に対しての報酬が少ない。
- ・基本報酬率が微量であるがその他の加算に求められることが増え負担が増加している。負担増と比較して報酬率の変化が殆どなく見合っていない。
- ・要支援認定(総合事業)のご利用者が多い為、運動器機能向上加算が基本単位に包括され(包括されたが実際は基本単位減額)、事業所評価加算が無くなり、月額報酬金額にかなりの影響があった。年間で100万円超でした。
- ・介護報酬の減収にもかかわらず人件費は変わらず支給している。
- ・訪問介護の報酬単価が下がったことで、収入減に直結しており、かなりのダメージです。
- ・総合事業の介護報酬引き下げにより、売上単価の減少があり全体の売上の低下が見られた。
- ・算定追加項目があった。
- ・加算取得に向け色々協議し周りの意識を変える必要があった。
- ・医療介護連携加算が15件となり、獲得することが容易ではなかった。ギリギリで何とか習得した。もっと数値を低くするように要望する。
- ・基本料の単価(介護度1~5の単位数増)が上がったことによる収入として増になった。
- ・加算内容の厳格化。
- ・処遇改善加算取得のための給与UPが収支に影響を及ぼしている。
- ・ケアプランの同一建物減算の導入。
- ・基本報酬の引き下げ。
- ・求められることは増えるが報酬が増えない。投資ができない。補助金等は事務作業が増える。必然的に利益が取りにくい体質になっている。
- ・実施すべきことは増えるが事業所にはお金が残らない。これでは疲弊していく。疲弊した事

業所が利益を悪補できるわけがない。

- ・報酬は変わらず、経費は高くなる。書類を出さないとお金はもらえない。結局仕事が増えていく。その分残業等も増えていく。
- ・事業所収入が少なくなったので、スタッフの昇給など積極的に行うことができない。昇給はあったが、思ったようにはあげられなかった。
- ・収益が下がった。

(3) 第三者評価の実施状況

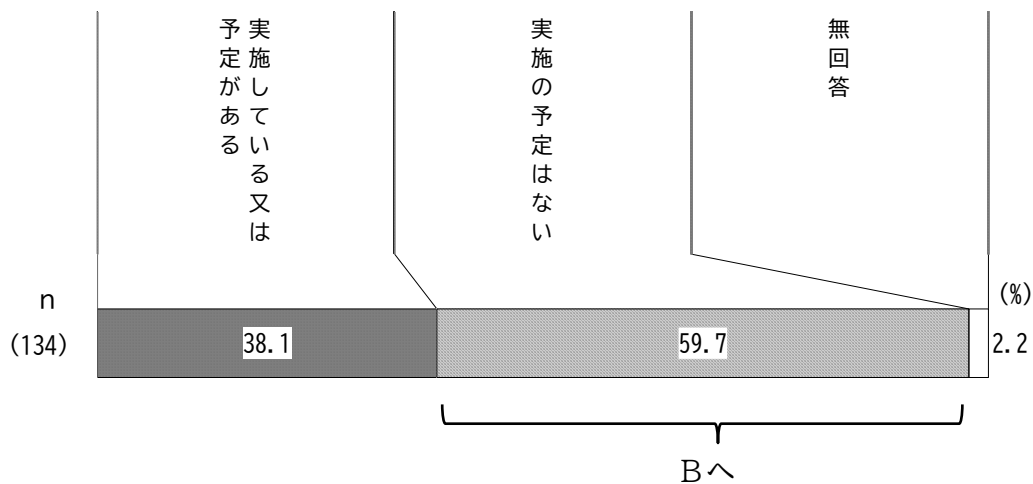
問15 第三者評価の実施状況についてお伺いします。

A 今後、実施する予定はありますか。(1つに○)

B Aで「2. 実施の予定はない」と回答した事業所にお尋ねします。その理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

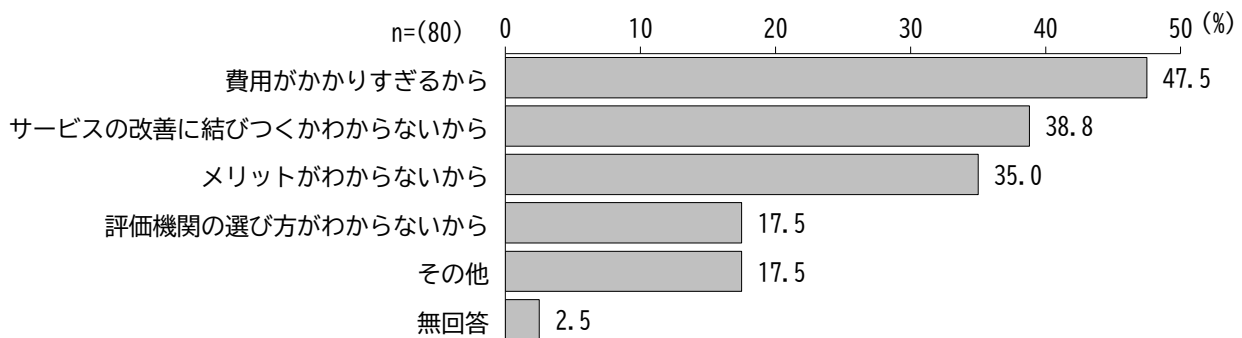
A 第三者評価の実施予定

第三者評価を実施する予定については、「実施の予定はない」が59.7%、「実施している又は予定がある」が38.1%となっています。



B 第三者評価の実施予定がない理由

第三者評価を実施する予定がない理由については、「費用がかかりすぎるから」が47.5%と最も高く、次いで「サービスの改善に結びつくかわからないから」38.8%、「メリットがわからないから」35.0%となっています。



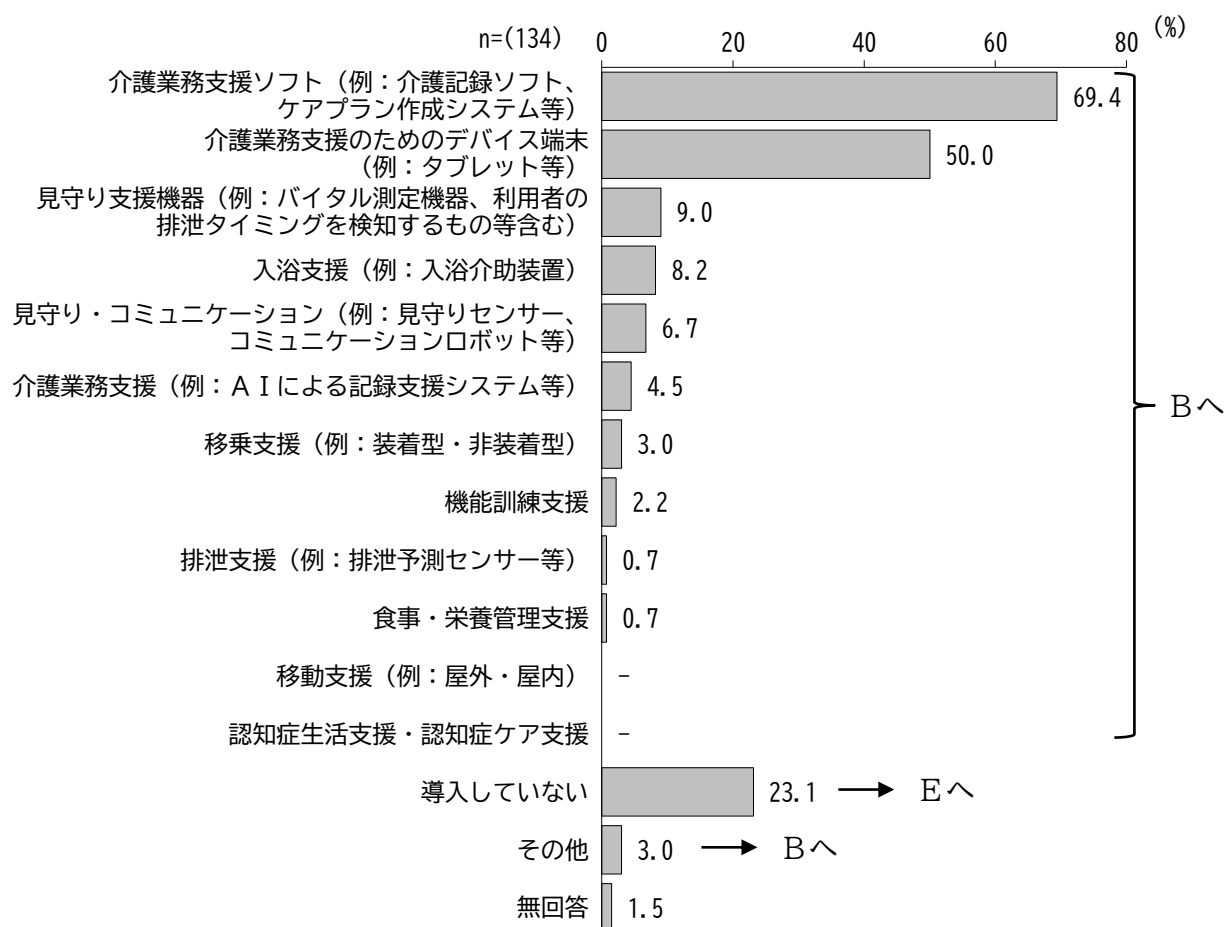
(4) ICT機器や介護ロボットの導入状況

問16 ICT機器や介護ロボットの導入状況について伺います。

A 貴事業所では、介護サービスの提供又は介護事業所の運営に関し、どのようなICT機器や介護ロボットを導入していますか。(いくつでも○)

A ICT機器や介護ロボットの導入状況

ICT機器やロボットの導入については、「介護業務支援ソフト（例：介護記録ソフト、ケアプラン作成システム等）」が69.4%と最も高く、次いで「介護業務支援のためのデバイス端末（例：タブレット等）」50.0%となっています。一方、「導入していない」は23.1%となっています。

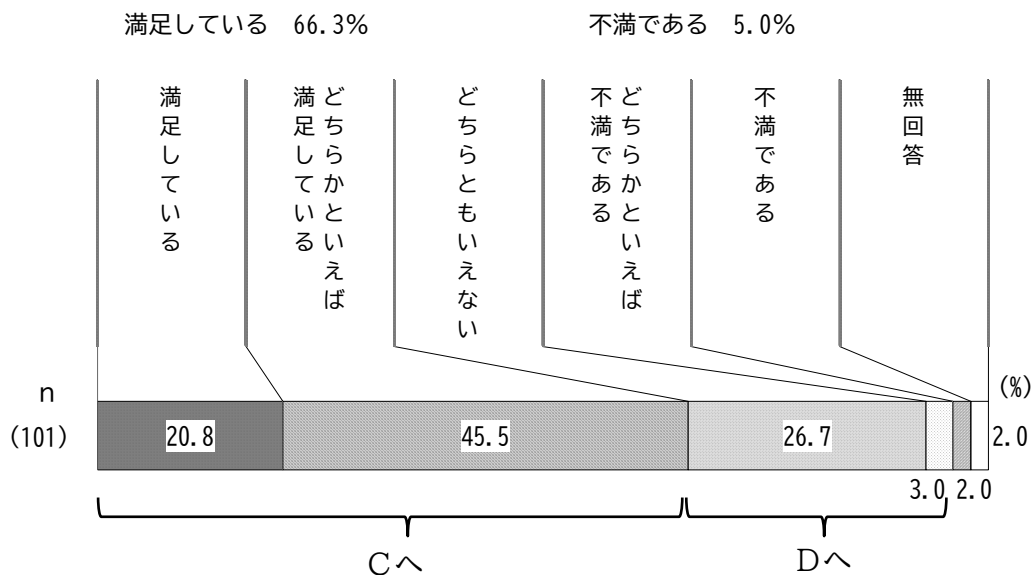


(5) ICT機器や介護ロボットの導入への満足感

B	Aで「1～12又は14」のいずれかを回答した事業所にお尋ねします。導入した効果に満足していますか。(1つに○)
C	Bで「1. 満足している」又は「2. どちらかといえば満足している」と回答した事業所にお尋ねします。導入した効果に満足している理由は何ですか。(いくつでも○)
D	Bで「4. どちらかといえば不満である」又は「5. 不満である」と回答した事業所にお尋ねします。導入した効果に不満である理由は何ですか。(いくつでも○)

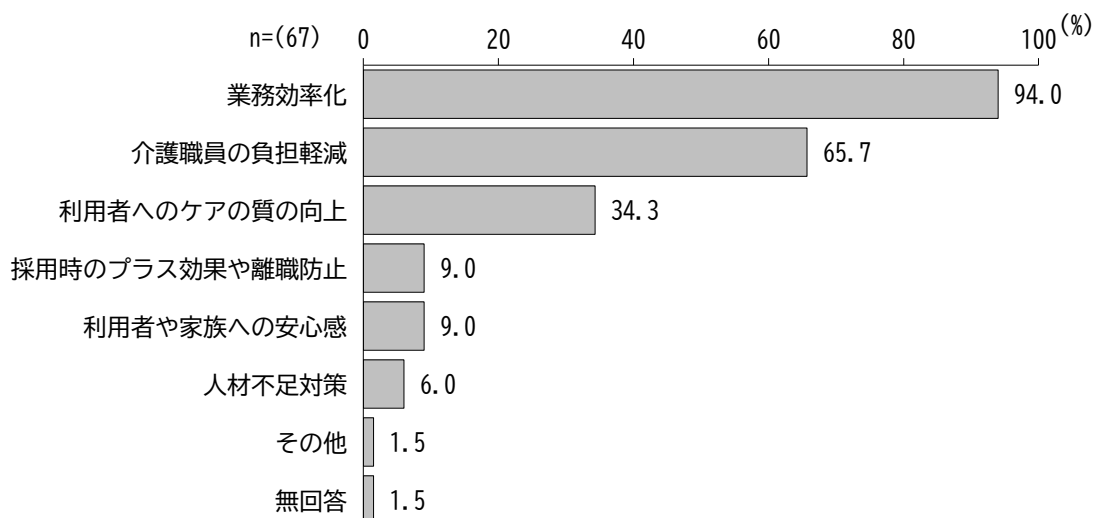
B ICT機器やロボットを導入した効果の満足度

ICT機器やロボットを導入した効果の満足度については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた「満足している」が66.3%となっています。一方、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた「不満である」は5.0%となっています。



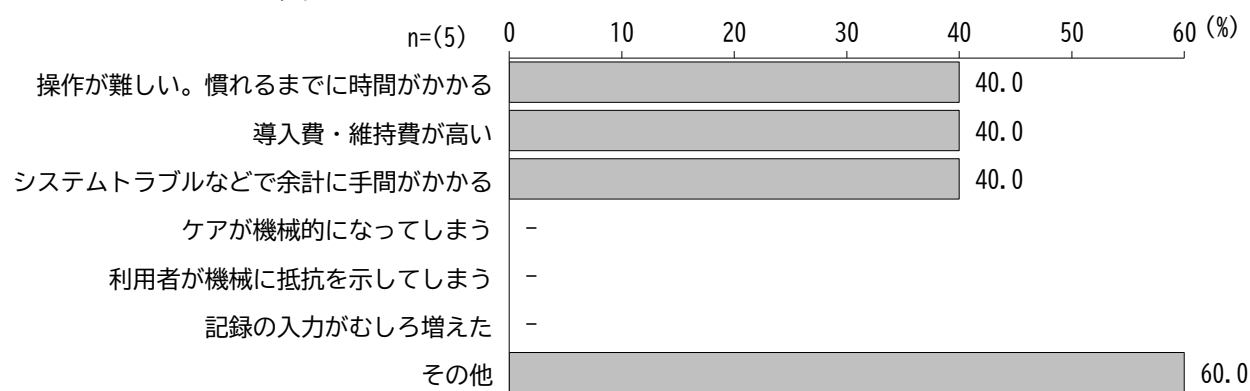
C 導入効果に満足している理由

ICT機器や介護ロボットの導入効果に満足している理由は、「業務効率化」が94.0%と最も高く、次いで「介護職員の負担軽減」65.7%、「利用者へのケアの質の向上」34.3%となっています。



D 導入効果に不満な理由

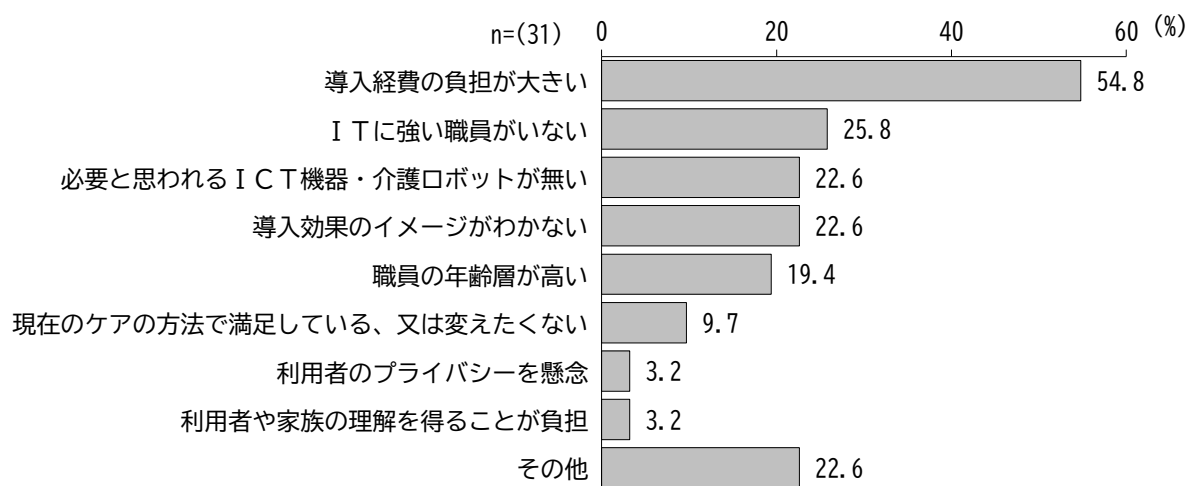
I C T機器や介護ロボットの導入効果に不満な理由は、「操作が難しい。慣れるまでに時間がかかる」及び「導入費・維持費が高い」「システムトラブルなどで余計に手間がかかる」がそれぞれ40.0%となっています。



(6) I C T機器や介護ロボットの導入をしていない理由

E Aで「13. 導入していない」と回答した事業所にお尋ねします。導入していない理由は何ですか。(いくつでも○)

I C T機器やロボットを導入していない理由については、「導入経費の負担が大きい」が54.8%と最も高く、次いで「I Tに強い職員がいない」25.8%、「必要と思われるI C T機器・介護ロボットが無い」及び「導入効果のイメージがわからない」22.6%となっています。



5. 今後の事業運営について

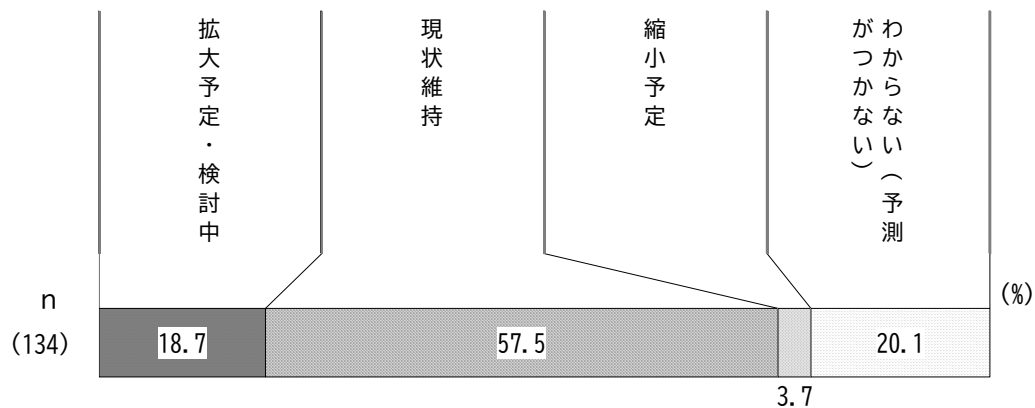
(1) 今後の事業運営

問17 今後の事業運営について

- A 今後3年のうちに貴事業所の事業規模について、どのように考えていますか。(1つに○)
 B Aで「1. 拡大予定・検討中」と回答した事業所にお尋ねします。拡大予定・検討中の内容を自由にお書きください。
 C Aで「3. 縮小予定」と回答した事業所にお尋ねします。縮小予定の内容及び理由を自由にお書きください。

A 今後3年間の事業規模

今後3年間の事業規模については、「現状維持」が57.5%と最も高く、次いで「拡大予定・検討中」が18.7%となっています。一方、「わからない（予測がつかない）」は20.1%となっています。



回答	内容及び理由
B「拡大予定・検討中」	・現在の主任ケアマネが65才を越えているため、次の主任ケアマネを募集中。ケアマネの数を増やして上の加算を取っていききたい。 ・人員拡大。 ・スタッフの増員。 ・居宅支援事業所の開設。 ・必要に応じて休業日（土曜）の営業も考えたい。 ・より多くのサービス提供が実現できるよう人員の充足に努めている。 ・サテライト開設やこども食堂などの居場所作り。 ・他市への店舗オープン。 ・人員が増員したらGH、or放デイ（医ケア）をやりたい。 ・ケアマネ増員予定。多摩センター開設。 ・同じ事業。 ・事業所の大規模化とサテライト展開を考えています。 ・職員が増え、OJT終了次第、定員数を5人ずつ上げ、最終的に40名を目指す予定。 ・営業エリアの拡大・人員拡充。 ・新規店舗の出店。 ・現状の制度でサービス対象から漏れる方々への支援。 ・ケアマネジャー人数が確保できれば、拡大していく方向です。 ・新規開設。 ・現状維持ができれば良いと考える一方で、介護報酬が十分に増えず、企業として利益が上がる構造になっていない業態のままでは、事業を拡大することがかえって経営が苦しくなる可能性もあり、拡大に踏み切れない現状があります。これまでも、企業努力によって増収を図ってきましたが、その増収分が必ずしも利益として残らず、結果として経営改善につながりにくかったという実情があることも理解していただきたいと思います。今後、介護職員の処遇改善はもちろん重要ですが、それと同時に、企業が努力によって増収・増益を実現できる仕組みを整えることが不可欠です。そのうえで得られた利益を職員の収入改善（利益分配）へとつなげていくことこそが、真の意味での介護事業の業態改善につながるのではないかと考えています。その後、拡大検討をしていききたいと思います。現状では、現状維持が精一杯です。 ・新規事業所・ ・高齢者率の増加に伴い、1～2年以内に新規居宅介護支援事業所を開設する予定がある。 ・ケアマネジャー増員を検討している。 ・併設短期入所11床を特養へ転換し、現105床から116床へ拡大したい。 ・人員が充足すれば積極的に利用者を増やしていく予定。
C「縮小予定」	・スタッフ人数少ないので2月末に休止予定。 ・スタッフが高齢化しており、現状の営業時間を維持することがむずかしいと思われ、人件費負担等、採算とれず次世代に護ることもできない。 ・現在、平均年令66才で3年間新しい職員が入っていない。このままいくと3年後は、職員数も減り、縮小せざるを得ない。この2年間で7名の退職者があった。 ・訪問介護事業所休止予定。 ・人材の不足により縮小せざる負えない。

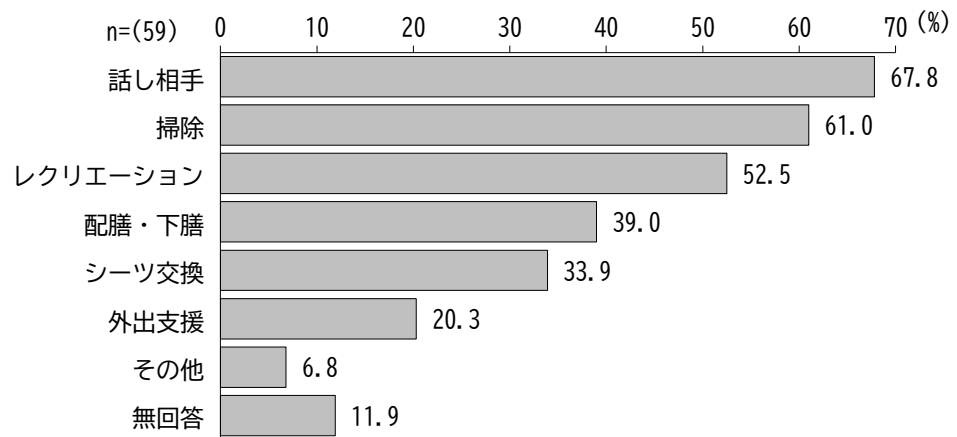
6. 介護保険以外の給付サービスについて

(1) 専門的知識のない地域住民にも担える業務（施設系サービス・通所系サービス）

問18 施設系サービス及び通所系サービス（（看護）小規模多機能型居宅介護含む）の事業所のみお答えください。（問2の①主な事業所の種類で3、7、9～15、18～23のいずれかで回答した事業所）

多摩市では高齢者の介護予防の促進と施設等の活動活性化及び業務負担軽減等を目的に、施設等における住民のボランティア活動に対しポイントを付与する「介護予防ボランティアポイント事業」を実施しています。現在、貴事業所が行っている業務のうち、専門的な知識がない地域住民にも担うことができると思うものについてお答えください。（いくつでも○）

施設系サービスおよび通所系サービス事業所における専門的知識のない地域住民にも担える業務は、「話し相手」が67.8%と最も高く、次いで「掃除」61.0%、「レクリエーション」52.5%となっています。

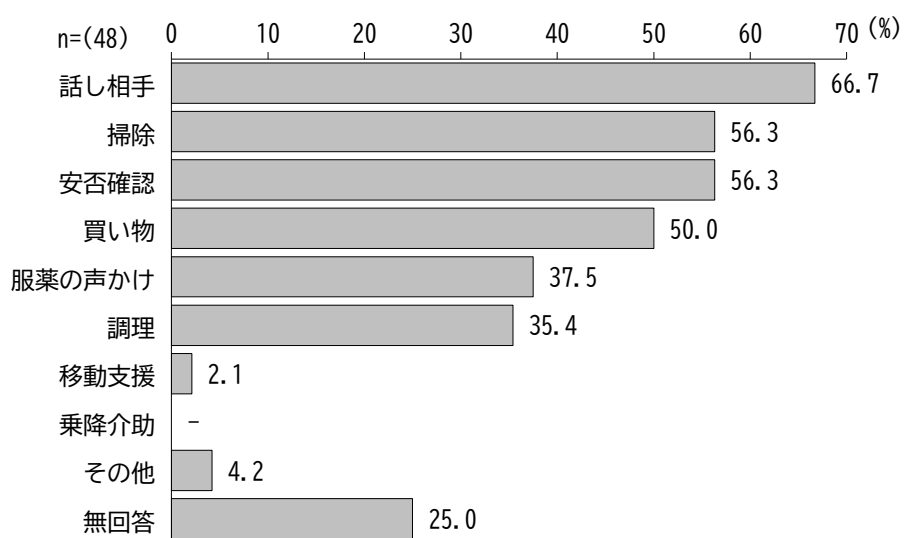


(2) 専門的知識のない地域住民にも担える業務（訪問系サービス）

問19 訪問系サービス（（看護）小規模多機能型居宅介護含む）の事業所のみお答えください。（問2の①主な事業所の種類で2、4、5、6、15～17、20のいずれかで回答した事業所）

多摩市では住民互助の促進と生活に支障が出始めた高齢者への支援を目的に地域住民がサービス提供主体となる「住民主体による訪問型サービス」を推進しています。現在、貴事業所が行っている業務のうち、専門的な知識がない地域住民にも担うことができると思うものについてお答えください。（いくつでも○）

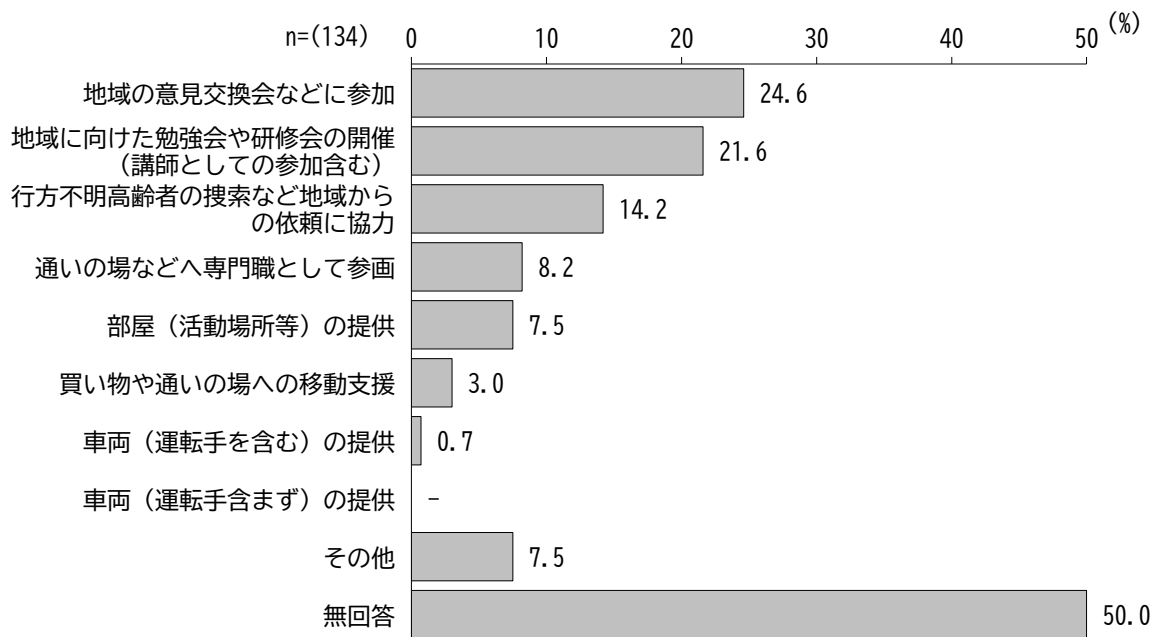
訪問系サービス事業所における専門的知識のない地域住民にも担える業務は、「話し相手」が66.7%と最も高く、次いで「掃除」及び「安否確認」56.3%、「買い物」50.0%となっています。



(3) すでに実施している地域の支えあい活動との連携や協力

問20 地域の支えあい活動との連携や協力について、貴事業所がすでに実施していることについてお答えください。(いくつでも○)

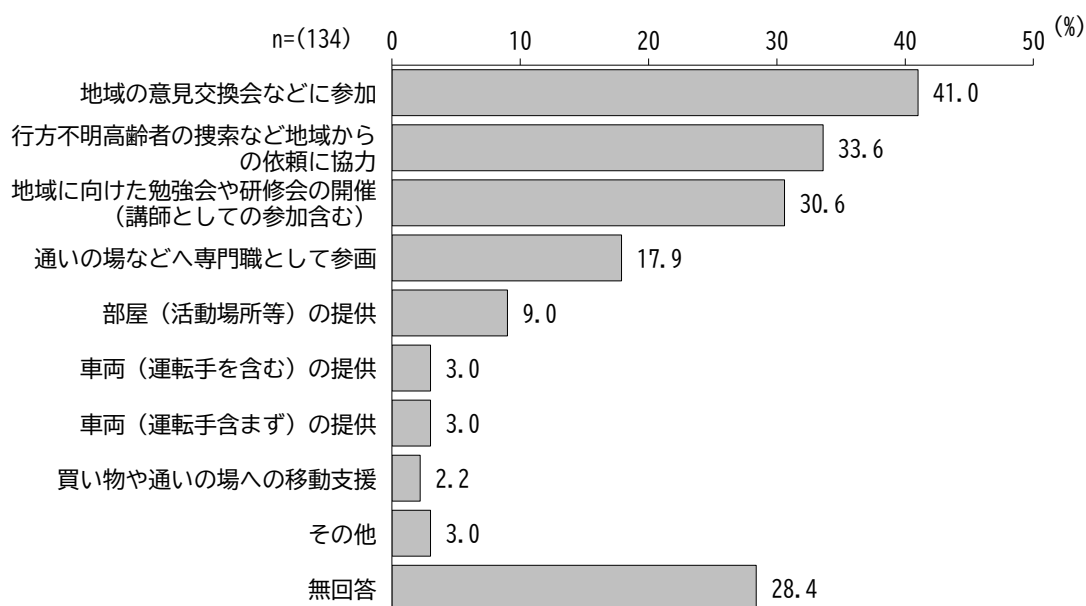
すでに実施している地域の支えあい活動との連携や協力は、「地域の意見交換会などに参加」が24.6%と最も高く、次いで「地域に向けた勉強会や研修会の開催（講師としての参加含む）」21.6%、「行方不明高齢者の搜索など地域からの依頼に協力」14.2%となっています。



(4) 今後実施できそうな地域の支えあい活動との連携や協力

問21 地域の支えあい活動との連携や協力について、貴事業所が（現在は実施していないが）今後出来そうなことについてお答えください。（いくつでも○）

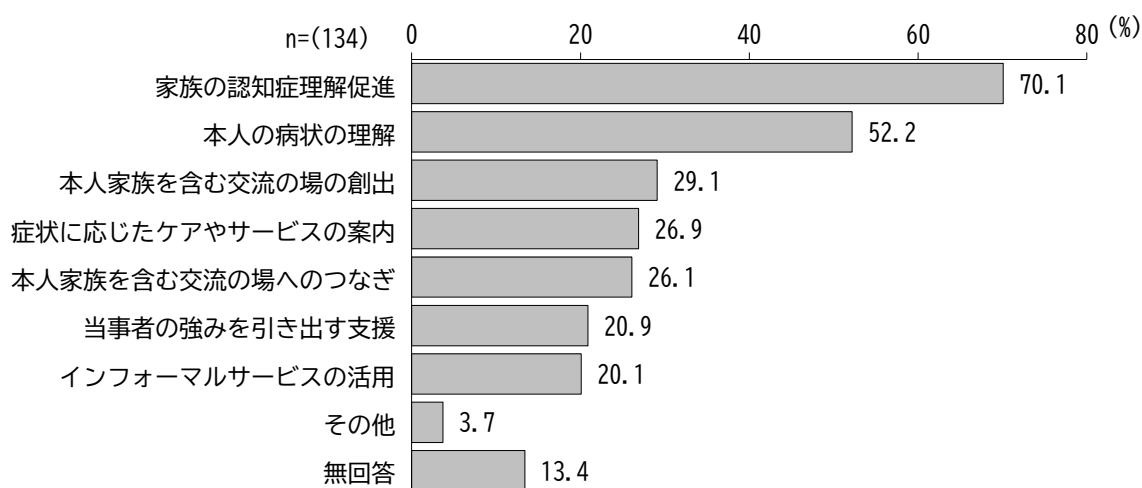
今後実施できそうな地域の支えあい活動との連携や協力は、「地域の意見交換会などに参加」が41.0%と最も高く、次いで「行方不明高齢者の搜索など地域からの依頼に協力」33.6%、「地域に向けた勉強会や研修会の開催（講師としての参加含む）」30.6%となっています。



(5) 認知症ケアで難しく感じること

問22 認知症ケアで難しく感じることについてお答えください。（いくつでも○）

認知症ケアで難しく感じることは、「家族の認知症理解促進」が70.1%と最も高く、次いで「本人の症状の理解」52.2%、「本人家族を含む交流の場の創出」29.1%となっています。



7. 居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所について

(1) 令和7年12月の給付管理件数

問23 要支援・要介護認定者に関し、貴事業所における令和7年12月の給付管理件数は何件でしたか。(当該部分に件数を記入。事業対象者・要支援1・2は、介護予防支援事業所のみ記入)

令和7年12月の給付管理件数において、多摩市の要支援・要介護認定者に対し作成した令和7年12月のケアプランの給付管理件数は、総件数は4,059件、1事業所当たり平均193.4件となっています。①多摩市の内訳をみると、「要介護1」が平均37.6件と最も多く、「要介護2」が平均28.1件と続いています。②多摩市以外の内訳をみると、「要介護1」が平均6.3件と最も多く、「要介護2」が平均5.4件と続いています。

		①多摩市の被保険者		②多摩市以外の被保険者	
		事業所計	平均	事業所計	平均
1	事業対象者	465 件	23.3 件	40 件	2.7 件
2	要支援1	303 件	13.2 件	19 件	1.3 件
3	要支援2	446 件	20.3 件	21 件	1.4 件
4	要介護1	826 件	37.6 件	113 件	6.3 件
5	要介護2	618 件	28.1 件	81 件	5.4 件
6	要介護3	361 件	16.4 件	48 件	3.4 件
7	要介護4	227 件	10.3 件	40 件	2.7 件
8	要介護5	425 件	19.3 件	26 件	1.9 件
	小計	3,671 件	168.4 件	388 件	25.0 件

令和7年12月の 給付管理件数(合計)	事業所計	平均
	4,059 件	193.4 件

(2) 多摩市を中心に活動している居宅介護支援専門員及び主任介護支援専門員

問24 貴事業所の中で、多摩市を中心に活動している居宅介護支援専門員及び主任介護支援専門員は何人いますか。(常勤・非常勤問わず、実人数を記入。)

多摩市を中心に活動している居宅介護支援専門員の人数は、1事業所あたり平均2.6人となっており、そのうち主任介護支援専門員は平均1.2人となっています。

		事業所計	平均
1	居宅介護支援専門員	55.0 人	2.6 人
2	主任居宅介護支援専門員	29.0 人	1.2 人

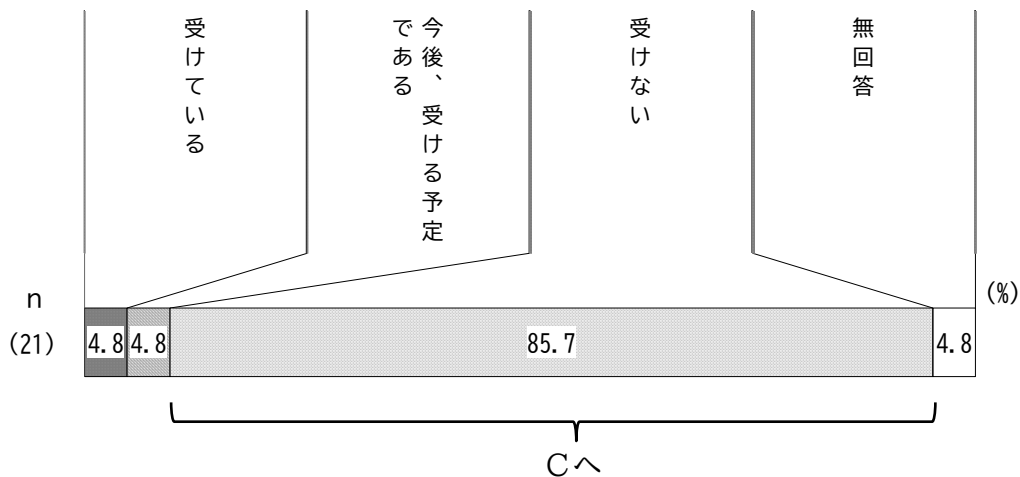
(3) 介護予防支援事業者の指定状況

問25 居宅介護支援事業所のみお答えください。

- A 令和6年4月介護保険法改正により、居宅介護支援事業者が介護予防支援事業者の指定を受けることにより介護予防支援事業を実施できるようになりました。貴事業所は指定を受けている、又は今後指定を受ける予定はありますか。(1つに○)
- B Aで「2. 今後、受ける予定である」と回答した事業所にお尋ねします。指定を受ける予定はいつ頃ですか。
- C Aで「3. 受けない」と回答した事業所にお尋ねします。指定を受けない理由をお書きください。

A 介護予防支援事業者の指定状況

介護予防支援事業者の指定状況は、「受けない」が85.7%となっています。



C 指定を受けない理由

- ・支援を受けない方向なので。
- ・特に手間を考えた時面倒だから。
- ・要介護者のケアプラン依頼だけで業務が多忙な状態です。新規依頼もお断わりしているため、予防ケアプランまで行うことは困難です。
- ・予防の請求ソフトが入っていない。介護だけでも人数が多く、余裕がない。
- ・委託をうけて、対応しているので、問題はない。
- ・業務過多になるため。報酬が安いから。
- ・会社として支援受けないと決めているため。
- ・現在一人で運営しておりますので人的余裕等がありません。また、事務的な面等がたいへんと伺っております。
- ・要介護の方の対応を充実させていきたいから。
- ・プラン単位が低く採算が厳しい。また、ケアマネ採用に苦戦しており、介護プランで手一杯。
- ・要介護者を中心に対応していく方針（会社の考え）です。
- ・介護予防支援事業をまわせる人材がいなことと、費用面で折り合いが合わないため。
- ・報酬が手間に見合っていないから。
- ・事業所としての運営利益の問題及び業務がより煩雑になってしまう為。

- ・要介護認定者を受けるのに手いっぱいな状況。ただし、包括支援センターからの委託支援のみ受けている。
- ・介護予防支援事業を提供する予定がない。
- ・法人の規定によるから。
- ・会社の運営方針が定まっていないため。
- ・受けるメリットが感じられないため。

8. 居宅・施設サービス提供事業所について

(1) 令和7年12月の利用者の実人数

問26 貴事業所の、令和7年12月の利用者の実人数は何人でしたか。問2の①主な事業所の種類でお答えになった事業についてお答えください。(該当部分に人数を記入)

令和7年12月の利用者の実人数は、事業所計は5,930人、1事業所当たり平均123.0人となっています。①多摩市の内訳をみると、「要介護1」が平均11.8人と最も多く、「事業対象者」が平均11.1人と続いています。②多摩市以外の内訳をみると、「要介護1」が平均8.1人と最も多く、「要介護2」が平均7.2人と続いています。

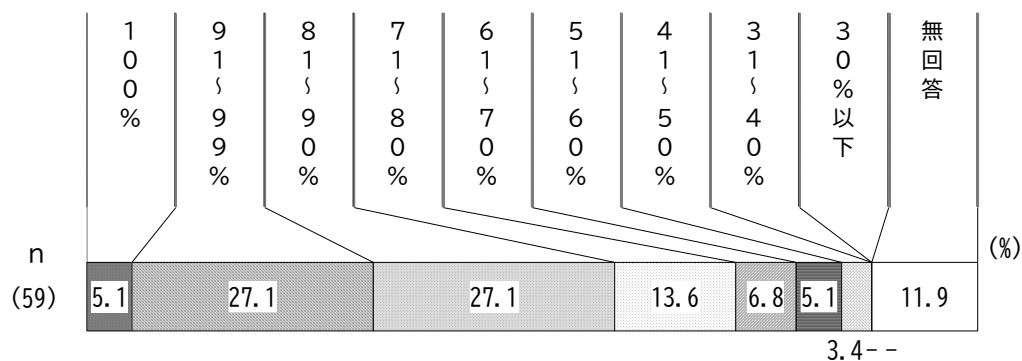
		①多摩市の被保険者		②多摩市以外の被保険者	
		事業所計	平均	事業所計	平均
1	事業対象者	421 人	11.1 人	158 人	5.5 人
2	要支援1	279 人	5.7 人	114 人	3.6 人
3	要支援2	407 人	8.0 人	128 人	3.8 人
4	要介護1	754 人	11.8 人	350 人	8.1 人
5	要介護2	641 人	9.9 人	326 人	7.2 人
6	要介護3	553 人	8.5 人	237 人	5.4 人
7	要介護4	366 人	6.1 人	241 人	5.7 人
8	要介護5	277 人	4.8 人	165 人	3.8 人
9	申請中・暫定プラン	388 人	10.2 人	125 人	3.9 人
小計		4,086 人	76.0 人	1,844 人	47.0 人

令和7年12月の利用者の実人数(合計)	事業所計	平均
	5,930 人	123.0 人

(2) 令和7年12月の稼働率

問27 施設系サービス及び通所系サービス（（看護）小規模多機能型居宅介護含む）の事業所のみお答えください。（問2の①主な事業所の種類で3、7、9～15、18～23のいずれかで回答した事業所）
貴事業所における令和7年12月の稼働率をお答えください。（1つに○）

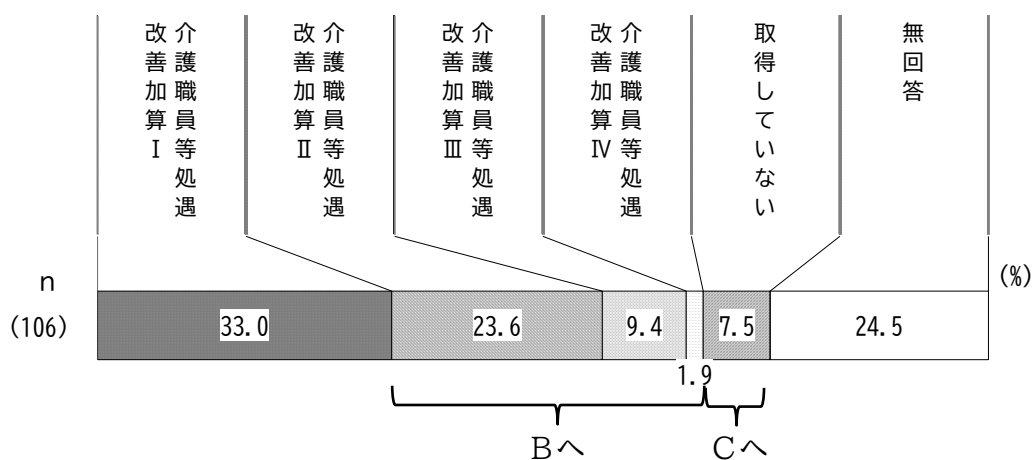
令和7年12月の稼働率は、「91～99%」及び「81～90%」が27.1%と最も高く、次いで「71～80%」13.6%、「61～70%」6.8%となっています。



(3) 介護職員等処遇改善加算の取得状況

問28 介護職員等処遇改善加算について
A 貴事業所では、介護職員等処遇改善加算を取得していますか。（1つに○）

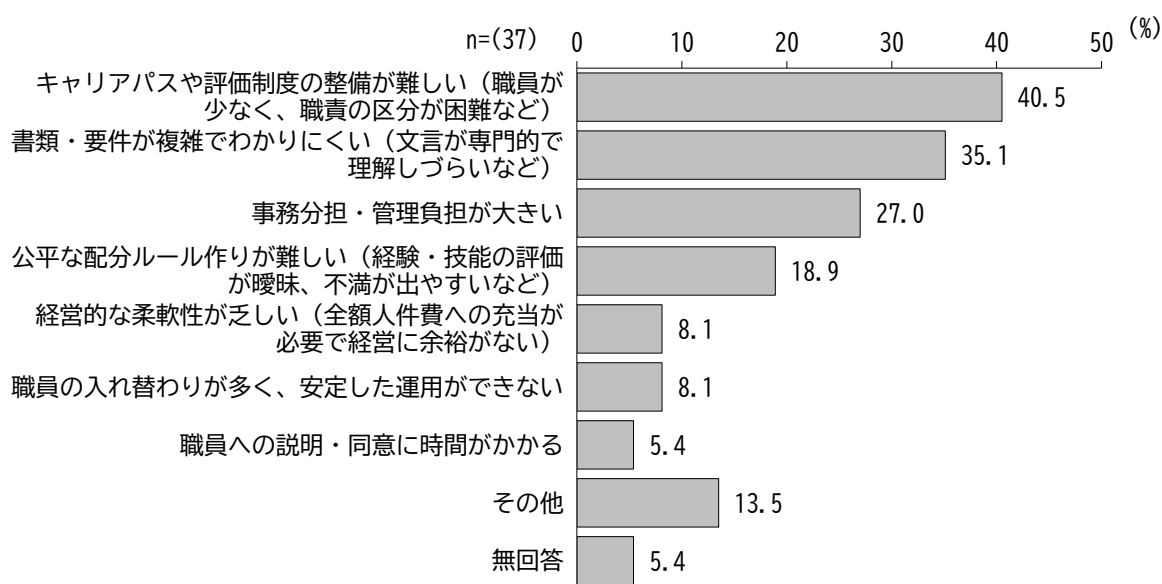
介護職員等処遇改善加算の取得状況は、「介護職員等処遇改善加算Ⅰ」が33.0%と最も高く、次いで「介護職員等処遇改善加算Ⅱ」23.6%、「介護職員等処遇改善加算Ⅲ」9.4%となっています。



(4) 上位の介護職員等処遇改善加算を取得する上で課題となっていること

B Aで「2～4」のいずれか1つでも「○」で回答した事業所にお尋ねします。現在より上位の加算を取得する場合、課題となっていることをお答えください。(いくつでも○)

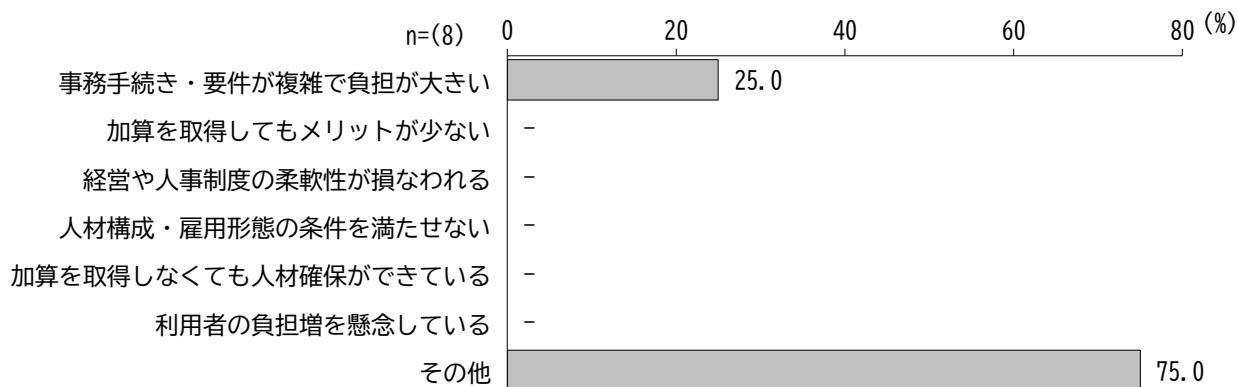
上位の介護職員等処遇改善加算を取得する上で課題となっていることは、「キャリアパスや評価制度の整備が難しい（職員が少なく、職責の区分が困難など）」が40.5%と最も高く、次いで「書類・要件が複雑でわかりにくい（文言が専門的で理解しづらいなど）」35.1%、「事務分担・管理負担が大きい」27.0%となっています。



(5) 介護職員等処遇改善加算を取得しない・取得できない理由

C Aで「5. 取得していない」を回答した事業所にお尋ねします。介護職員等処遇改善加算を取得しない又は取得できない理由は何ですか。(いくつでも○)

介護職員等処遇改善加算を取得しない・取得できない理由は、「事務手続き・要件が複雑で負担が大きい」が25.0%となっています。



9. 多摩市への意向について

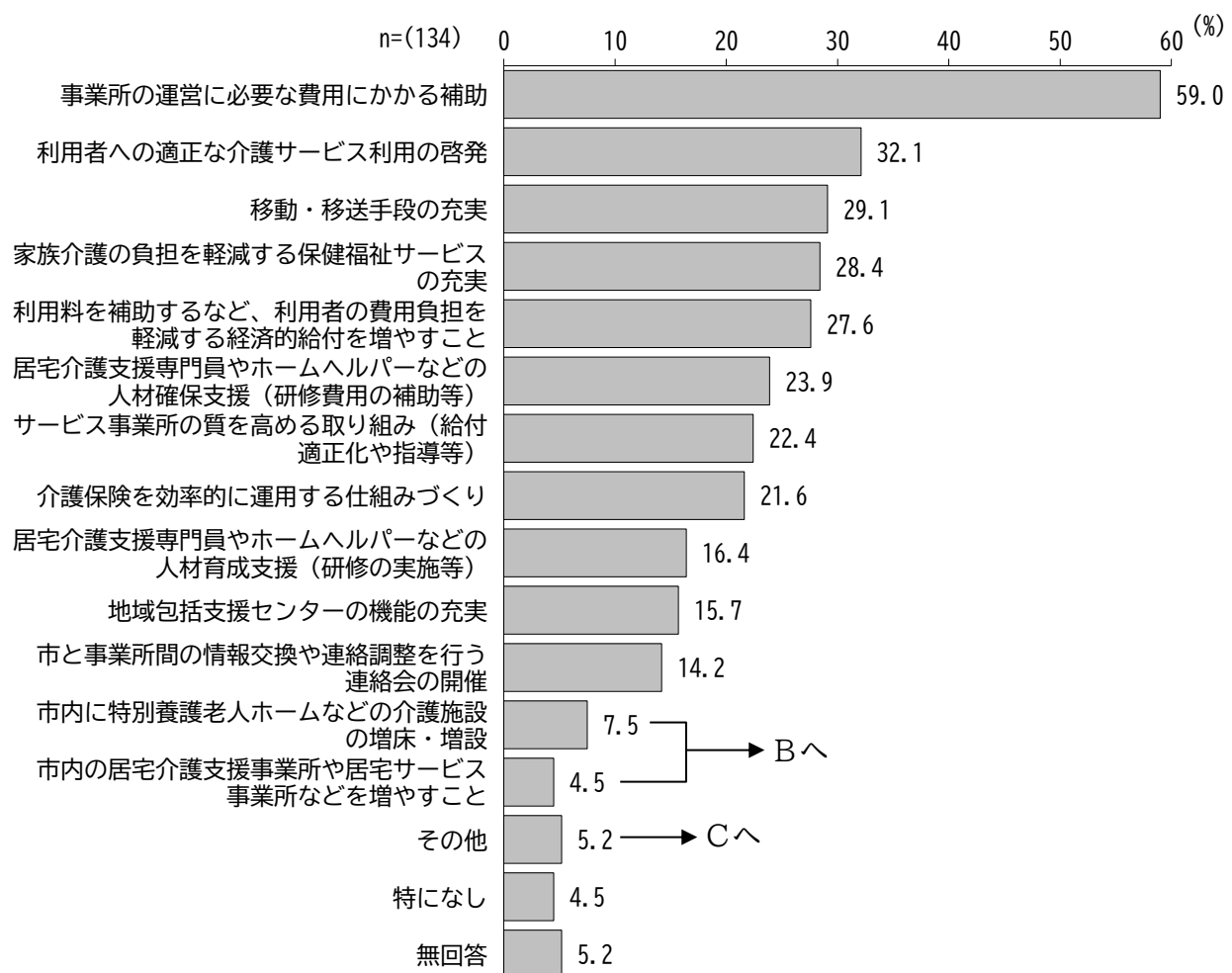
(1) 多摩市への要望について

問29 多摩市への要望について

- A 引き続きより良い介護サービスを市民に提供していくために、事業所として市に望むことは何ですか。(5つまで○)
- B Aで1 2又は1 3で回答した事業所にお伺いします。特に増やした方が良いと思う事業所の種別を具体的にお書きください。
- C Aで「14. その他」で回答した事業所にお伺いします。内容について具体的にお書きください。

A 多摩市への要望について

多摩市への要望については、「事業所の運営に必要な費用にかかる補助」が59.0%と最も高く、次いで「利用者への適正な介護サービス利用の啓発」32.1%、「移動・移送手段の充実」29.1%となっています。



B 特に増やした方が良いと思う事業所の種別について

- ・施設に関しては、緊急性の高い方の柔軟な入所体制、増床⇔システム構築なのかは実情を踏まえて。また在宅では医療依存度が高い方が多くなるなか、本人、家族への負担軽減を踏まえ、受け入れの間口が広がると良いのではないのでしょうか。また在宅サービスの要となる訪問介護の人材減少は在宅介護に対して大きな痛手となります。訪問介護事業所に対する支援も大きな課題と思われます。予防給付においては、人材不足、経営的部分から、導入が困難な場面が多々みられ、時に利用者の不利益につながる場合も感じられます。
- ・介護老人福祉施設。
- ・医療的ケアが必要な方の泊り先。(PT、OT、STがいる施設) Faのレスパイトのための受け入れ先がなかなかない。
- ・老健、特養。
- ・特別養護老人ホーム。
- ・特別養護老人ホーム。
- ・特別養護老人ホーム。
- ・特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、ケアマネ。
- ・入所待機者が多い。(特養施設について)
- ・もう制度上むずかしいが、カフェスタイルのデイが残ればと増やすより維持できればと思います。CMも小さい所がなくなり、大型化、デイも大型化であれば、介ゴの特色がなくなってしまうのが残念、時代の流れではありますが…皆さん頑張っているのに残念です。
- ・ヘルパーの充実。
- ・介護士さんが足りない。又は高齢で仕事をたのむのが申し訳ないなど、利用者さんから話が出ています。お米やペットボトルなど、エレベーターのない団地の方など…。
- ・訪問介護、訪問看護、通所リハビリ。
- ・訪問介護。

C 具体的なその他の内容について

- ・車を止めるところが不足している。市内の小学校、中学校、包括支援センターなどの場所に短時間でも止めさせてもらうことは出来ないか。・ドラッグストア、スーパーなど、広く駐場所をもっているところに、市から協力してもらえないか、お伝えしていただくことは出来ないか。
- ・ナーシングホームの開設を援助して頂きたい。
- ・人材確保の支援。
- ・地域包括センターの機能拡充にあたるかも知れませんが、介護サービスを開始する時点で疾患や認知機能の著しい低下や、ご家族の介護力不足の問題が多く見られます。ご家族がすべてを介護サービスに依存してしまう事も問題ですが、ご家族だけで抱えきれなくなった状況でサービス開始をされるケースが多く見られます。その手前で気軽に相談ができ、サービス利用のハードルを低くし、進行を遅くできるような周知活動が出来ていれば良いと思います。
- ・多摩市は階段がありエレベーターなしの自宅が多く劣化もしており救済措置や救済支援などが欲しい。

- ・行政と事業所間の効率的な連携も利用者への利益に大きく関係すると思います。オンライン等での情報共有、手続き等の簡略化等の体制構築は急務と思われます。
- ・少子化・人口減少があり医療福祉介護の担い手不足は続く中で、必要な方に迅速な支援を行うためには、高齢者だけでなく子供や孫世代もその状況を理解していく必要があると思います。現状や課題を広く共有し、適切な資源の利用をすすめていきたいです。

印刷物番号 ● - ●

多摩市 高齢者実態調査報告書

令和7年度版

発行年月：令和8年●月

発行：多摩市

編集：多摩市健康福祉部高齢支援課

〒206-8666 東京都多摩市関戸6-12-1

電話：042-338-6923

頒布価格：●●●円
